

平成 28 年度 業務実績報告書（暫定版）

（第 2 期中期計画・第 3 事業年度）

平成 28 年 12 月



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

目 次

I 機構の概要 (平成28年4月1日現在)

1	名 称	1
2	所 在 地	1
3	法人の設立年月日	1
4	設 立 団 体	1
5	目 的	1
6	業 務	1
7	資本金の額	1
8	代表者の役職氏名	1
9	役 員	2
10	組 織 図	2
11	法人が運営する病院の概要	3

II 当該事業年度における業務実績報告

1	対象期間	5
2	業務実績全般	5
	(1) 機構全体	5
	(2) 総合病院	15
	(3) こころの医療センター	16
	(4) こども病院	17
3	県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置	18
	(1) 医療の提供	18
	(2) 医療に関する技術者(医師・看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	22
	(3) 医療に関する調査及び研究	23
	(4) 医療に関する地域への支援	26
	(5) 災害等における医療救護	27
4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	27
	(1) 簡素で効率的な組織づくり	27
	(2) 効率的な業務運営の実現	27
	(3) 事務部門の専門性の向上	28
	(4) 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成	28
5	項目別実績	29
	(参考) 用語解説	60

【数値の表記方法について】

この報告書内の数値は表示単位未満を四捨五入のため、各項目の和と総計が一致しない場合がある。



静岡県立総合病院

 地方独立行政法人 静岡県立病院機構

Shizuoka Prefectural Hospital Organization

ともにつくる 信頼と安心の医療

この地方独立行政法人は、静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする



静岡県立こころの医療センター



静岡県立こども病院

I 機構の概要 (平成28年4月1日現在)

1 名称

地方独立行政法人静岡県立病院機構

2 所在地

静岡市葵区北安東四丁目27番1号

3 法人の設立年月日

平成21年4月1日

4 設立団体

静岡県

5 目的

静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与する。

6 業務

(1) 病院の名称及び所在地

名 称	所 在 地
静岡県立総合病院	静岡市葵区北安東
静岡県立こころの医療センター	静岡市葵区与一
静岡県立こども病院	静岡市葵区漆山

(2) 業務の範囲

- ・医療を提供すること。
- ・医療に関する調査及び研究を行うこと。
- ・医療に関する技術者の研修を行うこと。
- ・医療に関する地域への支援を行うこと。
- ・災害等における医療救護を行うこと。
- ・及び上記の附帯業務。

7 資本金の額

6,822,733,469円

8 代表者の役職氏名

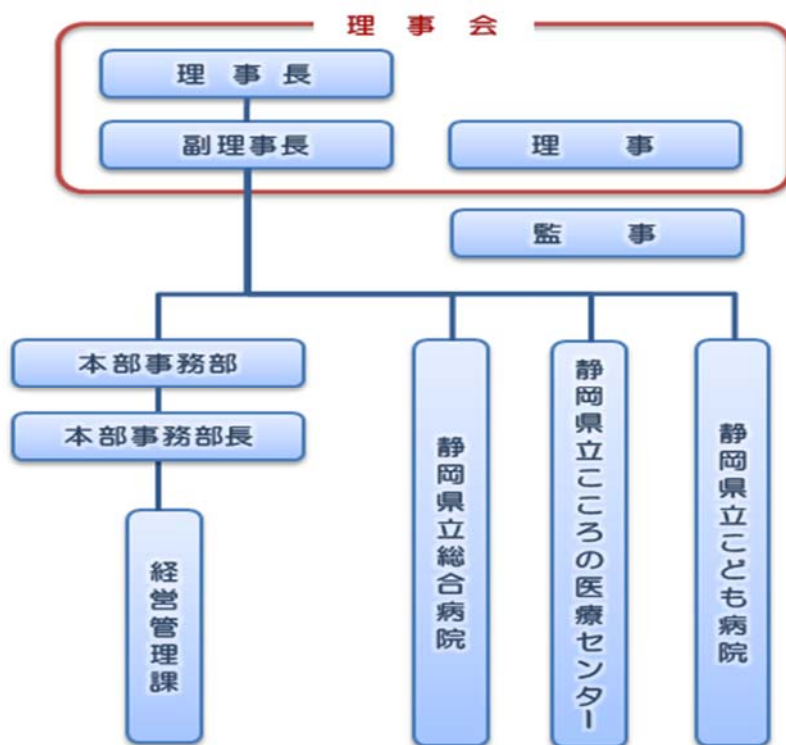
理事長 田 中 一 成

9 役員

役員名	区分	氏名
理事長	常勤	田中一成
副理事長	常勤	宮城島好史
理事	常勤	村上直人
理事	常勤	瀬戸嗣郎
理事	非常勤	柏崎順子
理事	非常勤	櫻井透
理事	非常勤	椎名正樹
理事	非常勤	星野希代絵
監事	非常勤	小池賢
監事	非常勤	鈴木素子

(定款に定めた定数 理事長1名・副理事長1名・理事7名以内・監事2名)

10 組織図



○ 全職員数（平成28年4月1日現在、現員、正規）

医師※	399名
看護師	1,317名
コメディカル	320名
事務	119名
計	2,155名

※医師には歯科医師5名、自治医大初期研修医4名、へき地代診医2名、有期職員医師149名を含む。

※職員の増減状況は、14ページ参照

11 法人が運営する病院の概要

(1) 病院の名称・所在地等

区分	地方独立行政法人 静岡県立病院機構		
病院名	総合病院	こころの医療センター	こども病院
所在地	静岡市葵区北安東 4丁目27-1	静岡市葵区与一 4丁目1-1	静岡市葵区漆山 860 番地
開設年月日	昭和58年2月1日	昭和31年11月1日	昭和52年4月1日
診療科 (医療法)	内科、救急科、心療内科、精神科、循環器内科、心臓血管外科、腎臓内科、泌尿器科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、脳神経外科、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科、呼吸器外科、産婦人科、乳腺外科、小児科、整形外科、リハビリテーション科、心臓リハビリテーション科、眼科、頭頸部・耳鼻いんこう科、血液内科、皮膚科、形成外科、歯科口腔外科、麻酔科、放射線科、病理診断科、腫瘍内科	精神科、内科、外科、歯科	小児科、小児救急科、新生児小児科、血液・腫瘍内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、アレルギー科、神経内科、循環器内科、皮膚科、小児外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、耳鼻いんこう科、泌尿器科、眼科、歯科、麻酔科、放射線科、産科、精神科、児童精神科、臨床検査科
	31科	4科	25科
許可病床数 (28年度)	一般 662床 (稼働623床) 結核 50床	精神 280床 (稼働172床)	一般 243床 (稼働236床) 精神 36床
年間延患者数 (28計画)	入院 234,836人 外来 414,182人	入院 56,275人 外来 38,714人	入院 84,030人 外来 113,073人
理念	信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います	安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも	私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。 (平成26年10月改定)
備考	昭和23年6月 中央病院 昭和33年3月 富士見病院	「養心荘」 平成9年4月1日名称変更	

※昭和39年4月1日 中央病院、富士見病院、養心荘の3病院で病院事業会計開始。

(2) 施設状況

区分	病棟	許可 病床数	内 容	
総 合	本 館	3 A	12	ハイケアユニット(HCU)
		3 B	37	小児科、頭頸部・耳鼻いんこう科、救命救急科、病院管理ベッド
		3 D	49	産婦人科、小児科(新生児)、病院管理ベッド(H28.6から稼働病床49床→46床) (H28.7から稼働病床46床→44床)
		4 A	44	総合診療科、皮膚科、整形外科
		4 B	47	腎臓内科、泌尿器科
		4 D	42	血液内科、眼科、歯科口腔外科、病院管理ベッド
		5 A	46	消化器外科、泌尿器科
		5 B	46	消化器内科、消化器外科、腫瘍内科
		6 A	42	整形外科、消化器内科、病院管理ベッド(H28.5から稼働病床10床→42床)
		6 B	50	結核
		6 C	49	呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科(H28.5から稼働病床42床→49床)
		6 D	39	呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、放射線科
	北 館	3 E	42	整形外科、神経内科、救急科
		4 E	34	消化器外科、乳腺外科、形成外科、循環器内科
		5 E	19	緩和医療科
	セ ン タ ー 循 環 器 病	1 G	8	救命救急科(H28.5から稼働病床8床→11床)
3 G		10	集中治療室(ICU、CCU)(H28.7から稼働病床10床→12床)	
4 G		47	循環器内科、心臓血管外科	
5 G		49	神経内科、脳神経外科	
	計	712	(稼働673床) ※H28.5から稼働病床673床→712床	
こ こ ろ	北1	42	医療観察法12床、慢性重症30床	
	北2	45	救急	
	北3	50	(休棟)	
	南1	50	回復期(H28.4から稼働病床50床→42床)	
	南2	43	救急	
	南3	50	(休棟)	
	計	280	(稼働172床)	
こ ど も	北2	36	NICU、GCU	
	北3	31	内科系乳幼児(H28.6から許可病床31床→30床)	
	北4	28	感染観察	
	北5	28	内科系幼児学童	
	西2	24	産科、MFICU	
	西3	24	循環器科(H28.6から許可病床、稼働病床ともに24床→25床)	
	CCU	12	CCU(H28.6から稼働病床12床→10床)	
	PICU	12	PICU	
	西6	48	外科系	
	東2	36	こころの診療科	
	計	279	(稼働272床) ※H28.6から稼働病床272床→271床	

II 当該事業年度における業務実績報告

1 対象期間

平成28年4月1日から平成29年3月31日までの1年間
(中期計画の期間 平成26年4月1日から平成31年3月31日までの5年間)

2 業務実績全般

(1) 機構全体

ア 総括

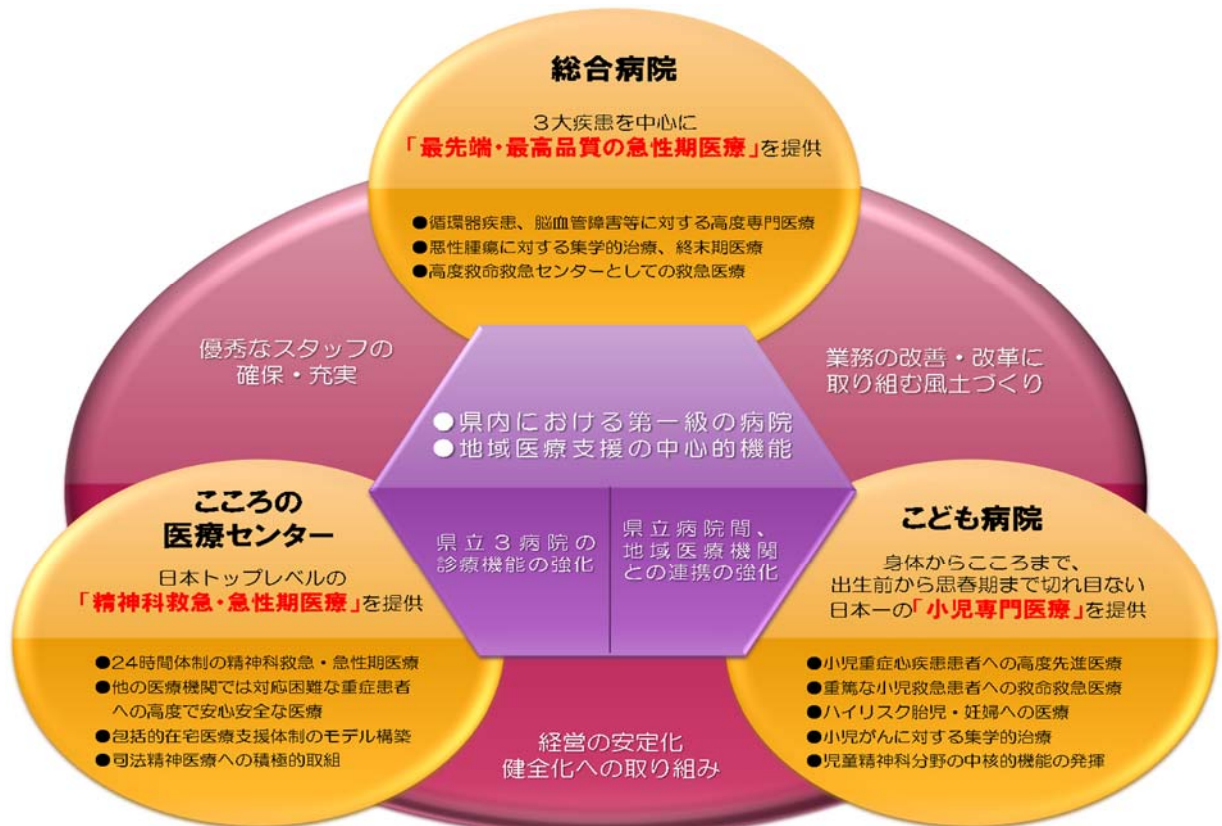
静岡県立病院機構は、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を發揮した病院経営に取り組んでいる。

法人化8年目となる28年度の経営状況(3病院計)は、入院では、延患者数が3病院ともに年度計画(以下「計画」)を下回る見込みである。単価は、こども病院が計画を上回るものの、他の2病院では計画を下回る見込みである。また、外来では、延患者数が総合病院とこころの医療センターで計画を上回り、単価は総合病院で計画を上回る見込みである。

収支は、経常収支が1,045百万円(経常収支比率102.5%)、総収支が949百万円で、法人化後8年連続で経常収支比率100%を達成する見込みである。

引き続き、本機構は、医療の質を高め、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等に積極的に取り組み、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機能的で効率的な病院経営を推進し、本県の医療の確保と向上に貢献していく。

県立病院機構が目指す病院像



イ 業務実績

(ア) 入院診療

- ・ 総合病院は、年度計画（以下「計画」）を下回る延患者数(▲10,692人)となる見込みで、患者1人1日当たり入院単価(以下、入院単価:入院収益÷年延入院患者数)は計画を下回る見込みである(▲1,458円)。
- ・ こころの医療センターは、計画を下回る延患者数となる見込みであり(▲319人)、入院単価についても計画を下回る見込みである(▲120円)。
- ・ こども病院は、延患者数は計画を下回る(▲4,169人)見込みだが、入院単価は計画を上回る(+2,569円)見込みである。

(イ) 外来診療

- ・ 総合病院は、延患者数は計画を上回る見込みであり(+26,428人)、患者1人1日当たり外来単価(以下、外来単価:外来収益÷年延外来患者数)も計画を上回る見込みである(+370円)。次頁参考資料のとおり、市内の一般病院は減少傾向にあるが、総合病院は増加傾向にある。
- ・ こころの医療センターは、計画を上回る延患者数となる見込みであり(+60人)、外来単価については計画を下回る見込みである(▲189円)。
- ・ こども病院は、延患者数は計画を下回り(▲8,128人)、外来単価も計画を下回る(▲385円)見込みである。

○ 平成28年度 業務量及び単価等年間見込み(税込)

区 分		総 合	こころ	こども
入 院	入院延患者数(人)	224,144 (234,836)	55,956 (56,275)	79,861 (84,030)
	新入院患者数(人)	17,104	528	5,164
	病床稼働率(%) 【稼働】	一般90.4 (一般94.0)	89.1 (89.6)	80.7 (84.6)
	入院患者1人 1日当たり単価(円)	74,464 (75,922)	25,055 (25,175)	91,629 (89,060)
外 来	外来延患者数(人)	440,610 (414,182)	38,774 (38,714)	104,945 (113,073)
	外来初診患者数(人)	28,282	825	7,964
	外来患者1人 1日当たり単価(円)	18,738 (18,368)	5,872 (6,061)	13,395 (13,780)

※()書きは、計画数値を示す。

※患者1人1日当たり単価は税込金額(調定額ベースで算定)。

※病床稼働率は、総合623床(4月)、662床(5月～3月)、こころ172床、こども272床(4月～5月)、271床(6月～3月)で算定。

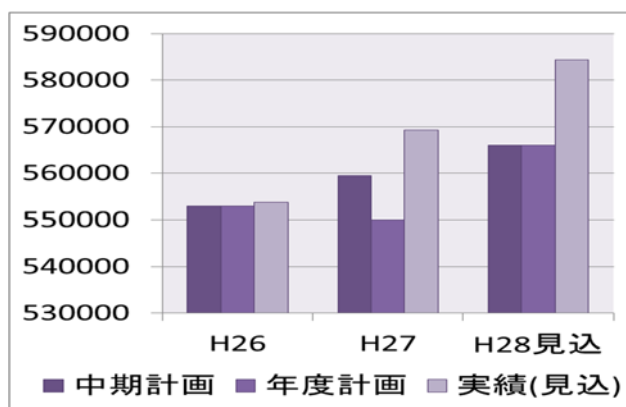
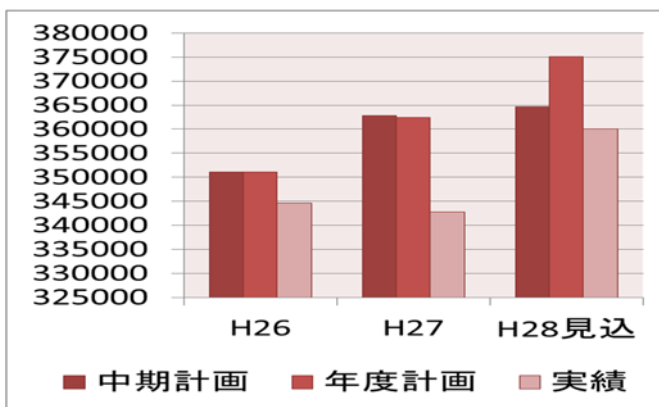
<参考資料>

○患者数の推移 (26年度実績～28年度見込み)

(単位:人)

入院延患者数 (3病院計)

外来延患者数 (3病院計)



- ・28年度は入院延患者数が中期計画・年度計画を下回る見込みである。外来延患者数は中期計画及び年度計画を上回る見込みである。

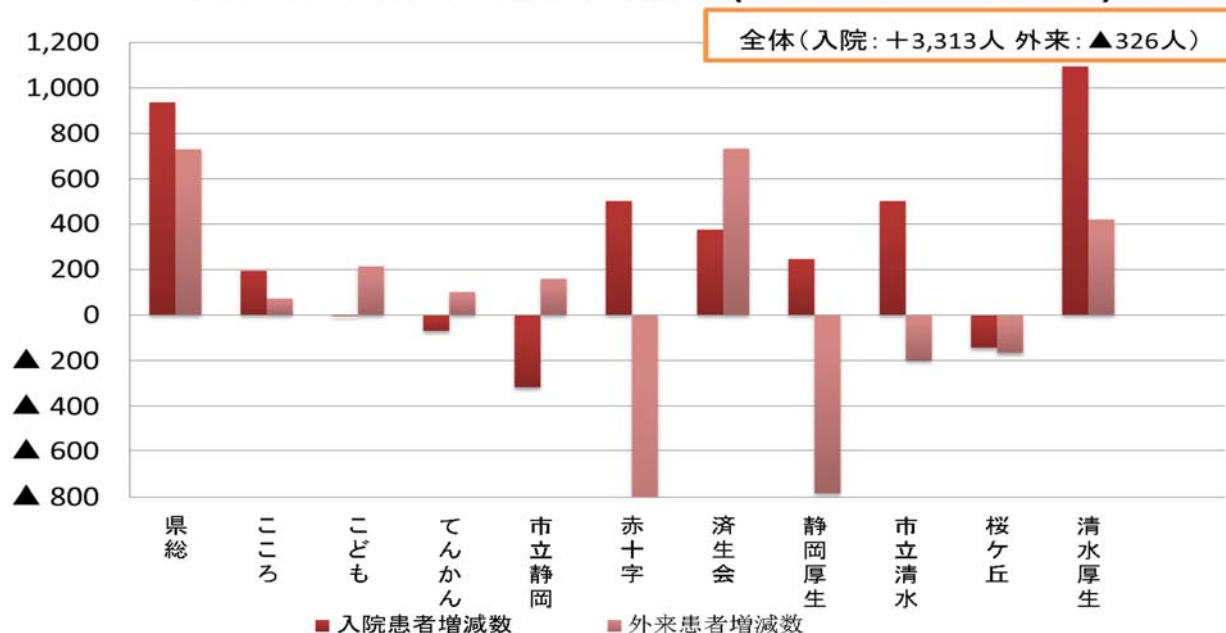
○市内公的病院患者動向 (月平均延患者数:H28.4～H28.9－H27.4～H27.9比較)

(単位:人、%)

区分	総合①	こころ②	こども③	てんかん④	市立静岡⑤	赤十字⑥	済生会⑦	静岡厚生⑧	市立清水⑨	桜ヶ丘⑩	清水厚生⑪	①～⑪合計	
入院	H28	18,376	4,785	6,495	10,122	13,639	11,885	12,861	5,114	10,248	2,533	3,580	99,638
	H27	17,438	4,591	6,499	10,193	13,955	11,384	12,486	4,869	9,748	2,675	2,487	96,325
	差	938	194	▲4	▲71	▲316	501	375	245	500	▲142	1,093	3,313
外来	H28	35,910	3,392	8,649	2,965	24,043	16,348	19,142	7,347	15,352	6,450	6,845	146,443
	H27	35,180	3,319	8,436	2,863	23,883	17,959	18,407	8,131	15,550	6,615	6,426	146,769
	差	730	73	213	102	160	▲1,611	735	▲784	▲198	▲165	419	▲326

- ・入院延患者、外来延患者ともに市内全体では減少傾向にある中で、こども病院で増加しており、外来患者数は総合病院とこども病院が増加した。

市内公的病院月平均患者増減数(H28.4～9－H27.4～9) 単位:人



(ウ) 平成28年度収支年間見込み(税込)

① 収益的収支年間見込み(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	最終予算額 (計画)	年間見込額	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収益	営業 収益	医業収益	36,708,531	35,999,693	▲708,838	34,039,106	1,960,587
		運営費負担金収益	6,789,118	6,789,118	0	6,786,971	2,147
		資産見返負債戻入	160,392	160,045	▲347	163,746	▲3,701
		その他営業収益	266,572	216,512	▲50,060	252,436	▲35,924
		小計	43,924,613	43,165,368	▲759,245	41,242,259	1,923,109
	営業外 収益	運営費負担金収益	210,882	210,882	0	213,029	▲2,147
		その他営業外収益	308,033	288,690	▲19,343	289,984	▲1,294
		小計	518,915	499,572	▲19,343	503,013	▲3,441
	臨時利益	臨時利益	0	0		0	0
	計			44,443,528	43,664,940	▲778,588	41,745,272
費用	営業用 費用	医業費用	42,651,803	41,626,765	▲1,025,038	39,605,537	2,021,228
		一般管理費	417,909	400,712	▲17,197	359,743	40,969
		小計	43,069,712	42,027,477	▲1,042,235	39,965,280	2,062,197
	営業外用 費用	財務費用	360,807	356,765	▲4,042	365,197	▲8,432
		その他営業外費用	292,124	235,385	▲56,739	232,684	2,701
		小計	652,931	592,150	▲60,781	597,881	▲5,731
	臨時損失	臨時損失	183,314	95,824	▲87,490	111,368	▲15,544
	計			43,905,957	42,715,451	▲1,190,506	40,674,529
総収支			537,571	949,489	411,918	1,070,743	▲121,254
経常収支			720,885	1,045,313	324,428	1,182,111	▲136,798

※単位未満四捨五入のため各項目の和と総計が一致しない場合がある(以下同様)。

- ・ 総収支は、949,489千円の利益となり、計画よりも411,918千円上回る見込みである。
- ・ 経常収支は、1,045,313千円の経常利益となり、計画よりも324,428千円上回り、経常収支比率100%以上(102.5%)を達成する見込みである。
- ・ 医業収益は、外来は延患者数、単価ともに計画を上回るが、入院は延患者数、単価ともに計画を下回るため、計画よりも708,838千円下回る見込みである。
- ・ 医業費用は、経費(計画比▲623,850千円)及び減価償却費(計画比▲477,746千円)が計画を下回るため、計画よりも1,025,038千円抑えられる見込みである。

② 資本的収支年間見込み(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	9月末予算額 (計画)	年間見込額	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収入	資本 収入	長期借入金	14,864,000	8,799,000	▲6,065,000	3,807,000	4,992,000
		長期貸付金回収額	0	15,550	15,550	10,450	5,100
		その他収入	9,402	40,500	31,098	10,180	30,320
		計	14,873,402	8,855,050	▲6,018,352	3,827,630	5,027,420
支出	資本 支出	建設改良費	17,050,509	8,950,612	▲8,099,897	3,868,889	5,081,723
		償還金	2,683,613	2,683,613	0	3,247,375	▲563,762
		長期貸付金	277,550	214,451	▲63,099	188,650	25,801
		計	20,011,672	11,848,676	▲8,162,996	7,304,914	4,543,762
総収支			▲5,138,270	▲2,993,626	2,144,644	▲3,477,284	483,658

(エ) 病院別収支実績

① 収益的収支年間見込み (税込)

(単位:千円)

款	項	総合	こころ	こども	法人計
営業 収益	医業収益	25,556,367	1,638,919	8,804,407	35,999,693
	運営費負担金収益	2,393,312	1,094,707	3,301,099	6,789,118
	資産見返負債戻入	108,121	27,269	24,655	160,045
	その他営業収益	120,611	16,913	78,988	216,512
	小計	28,178,411	2,777,808	12,209,149	43,165,368
営業 外益	運営費負担金収益	94,217	37,697	78,968	210,882
	その他営業外収益	237,621	7,486	43,583	288,690
	小計	331,838	45,183	122,551	499,572
臨時利益	臨時利益	0	0	0	0
収益計 (予算額※<計画>) (増減額)		28,510,249 (28,874,927) (▲364,678)	2,822,991 (2,852,434) (▲29,443)	12,331,700 (12,716,167) (▲384,467)	43,664,940 (44,443,528) (▲778,588)
営業 費用	医業費用	27,614,118	2,531,222	11,481,425	41,626,765
	一般管理費	264,470	24,042	112,200	400,712
	小計	27,878,588	2,555,264	11,593,625	42,027,477
営業 外用	財務費用	156,116	57,473	143,176	356,765
	その他営業外費用	159,280	11,003	65,102	235,385
	小計	315,396	68,476	208,278	592,150
臨時損失	臨時損失	28,138	55,087	12,599	95,824
費用計 (予算額※<計画>) (増減額)		28,222,122 (28,717,399) (▲495,277)	2,678,827 (2,750,884) (▲72,057)	11,814,502 (12,437,674) (▲623,172)	42,715,451 (43,905,957) (▲1,190,506)
総収支 (予算額※<計画>) (増減額)		288,127 (157,528) (130,599)	144,164 (101,550) (42,614)	517,198 (278,493) (238,705)	949,489 (537,571) (411,918)
経常収支 (予算額※<計画>) (増減額)		316,265 (186,666) (129,599)	199,251 (157,930) (41,321)	529,797 (376,289) (153,508)	1,045,313 (720,885) (324,428)

- 総合病院の総収支は、288,127千円の利益となり、計画を130,599千円上回った。これは節減努力により委託料等の経費が計画を下回る見込みであることや、医療機器等の減価償却費の減が主な要因である。
- こころの医療センターの総収支は、144,164千円の利益となり、計画を42,614千円上回る見込みである。これは、入院及び外来延患者数の減により収益が計画を29,443千円下回るものの、材料費、経費の減等により費用が計画を72,057千円下回る見込みであることが主な要因である。
- こども病院の総収支は、517,198千円の利益となり、計画を238,705千円上回る見込みである。これは、経費の節減努力等により費用が計画を下回る見込みであることが主な要因である。

② 資本的収支年間見込み (税込)

(単位：千円)

款	項	総合	こころ	こども	法人計
資本 収入	長期借入金	7,795,000	209,000	795,000	8,799,000
	長期貸付金回収額	12,440	780	2,330	15,550
	その他収入	23,500	8,500	8,500	40,500
	計	7,830,940	218,280	805,830	8,855,050
資本 支出	建設改良費	7,876,797	235,818	837,997	8,950,612
	償還金	1,419,866	462,266	801,481	2,683,613
	長期貸付金	173,560	10,023	30,868	214,451
	計	9,470,223	708,017	1,670,346	11,848,676
総	収 支	▲1,639,283	▲489,827	▲864,516	▲2,993,626

- 28年度の建設改良費は、8,950,612千円で、その内訳は、3病院の器械備品等資産購入が1,936,202千円、また、建設改良工事が7,014,410千円となった。主な医療機器では、総合病院が病理学検査に用いる病理印字システムを整備し、施設整備では、総合病院において先端医学棟建築工事、こども病院で外来区域改修工事を実施する見込みである。
また、長期貸付金214,451千円は、看護師確保対策として、当機構に就職を希望する看護学生に対して修学資金の貸付を行うほか、職員の育成及び資質向上等を目的に、職員に対し資格等の取得に必要な資金の貸付を行うものである(15,550千円返還あり)。

(オ) 決算指標年間見込み <3病院計> (税込)

区 分	項 目	H28 見込 a	H27 実績 b	増 減 a-b
収 支 構 造	経常収支比率 (%)	102.5	102.9	▲0.4
	医業収支比率 (%)	86.5	85.9	0.6
	実質収益対経常費用比率 (%)	86.0	85.7	0.3
収 入 構 造	病床稼働率 (%)	87.8	86.3	1.5
	入院患者1人1日当たり単価 (円)	70,591	69,373	1,218
	外来患者1人1日当たり単価 (円)	16,925	16,877	48
費 用 構 造	職員給与比率 (%)	59.4	59.5	▲0.1
	材料費比率 (%)	31.0	31.5	▲0.5

※患者1人1日当たり単価は、調定額ベースで算定。病床稼働率は、3病院の稼働病床数で算定。

- 収支構造の各指標は、経常収支比率が第2期中期計画の数値目標である100%を上回る102.5%で、前年度を0.4ポイント下回るものの、医業収支比率、運営費負担金を除いた営業成績を示す実質収益対経常費用比率はともに前年度を上回る見込みである。
- 収入構造では、主に総合病院の手術件数の増加や外来化学療法の増加等により、入院患者1人1日当たり単価及び外来患者1人1日当たり単価は、それぞれ前年比1,218円、48円の単価アップとなる見込みである。
- 費用構造では、職員給与比率、材料費比率はそれぞれ0.1ポイント、0.5ポイント減少する見込みである。

【収支構造】

- ・ 経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$
病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するための指標で、適正な区分負担を前提として100%以上が望ましい。
- ・ 医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$
医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上が望ましい。
- ・ 実質収益対経常費用比率 $(\text{経常収益} - \text{運営費負担金}) \div \text{経常費用} \times 100$
経常費用が経常収益から運営費負担金を引いた実質収益によって、どの程度賄われているかを示す指標。

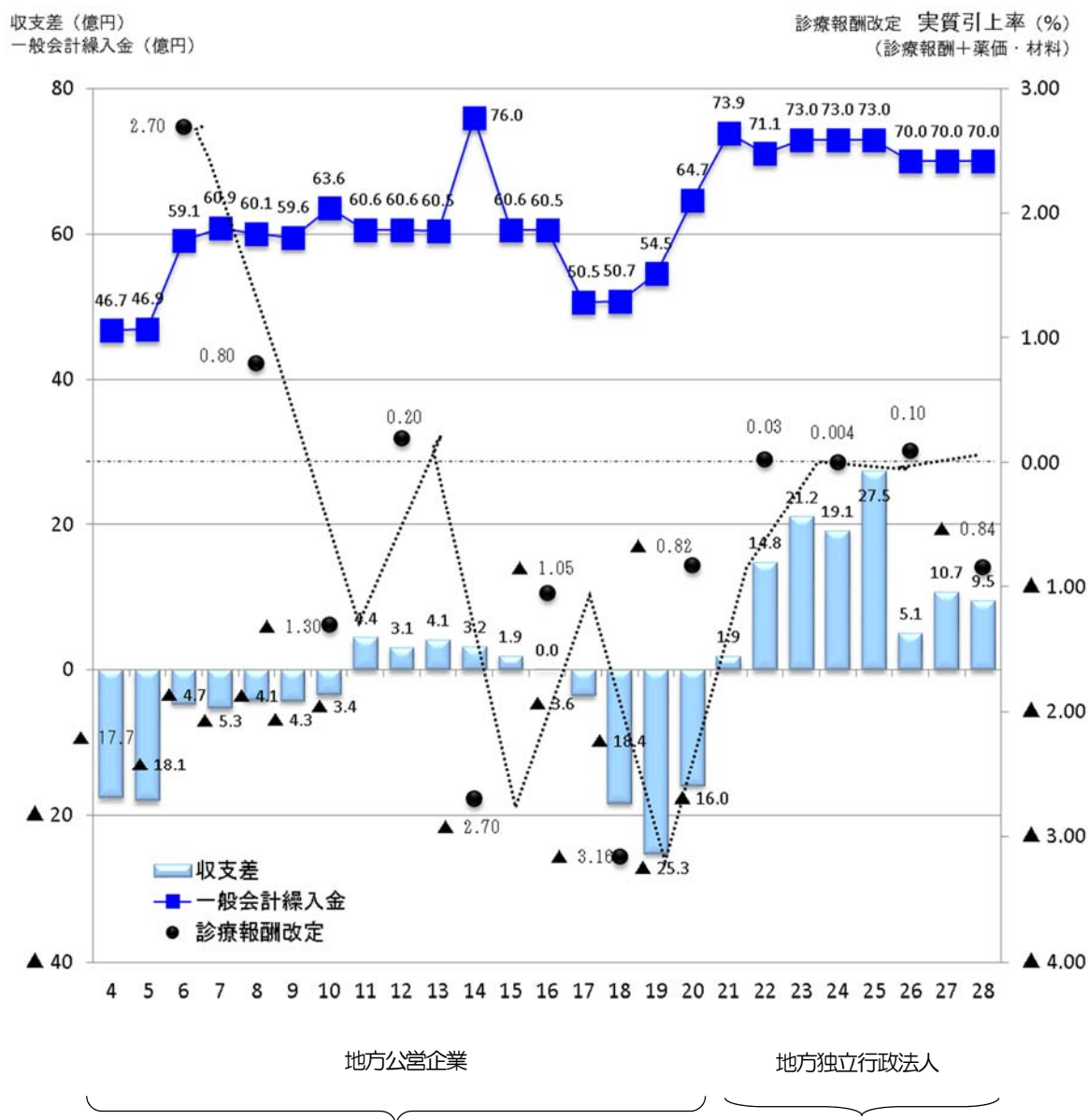
【収入構造】

- ・ 病床稼働率 $\text{年間延入院患者数} \div \text{年延病床数 (稼働病床} \times \text{歴日数)} \times 100$
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。
- ・ 入院患者1人1日当たり単価 $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$
- ・ 外来患者1人1日当たり単価 $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$
病院の収入分析をするうえで基本的な指標。収入を増加させるため、患者数(量的要素)と1人当たりの収入(質的要素)が重要となる。

【費用構造】

- ・ 職員給与比率(職員給与費対医業収益比率) $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$
病院の職員数等が適正であるか判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントである。
- ・ 材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$
この比率が高い場合、材料費の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。(薬品・診療材料・その他)

(カ) 決算状況の推移 (収支と繰入金(県負担金)・診療報酬の改定) (3病院計)



※ H28 は見込み

- ※ 平成 14 年度の一般会計繰入金 75.98 億円には、がんセンター開院準備経費分 15.44 億円を含む。
- ※ 平成 17 年度から平成 19 年度までは繰入金 10 億円を抑制 (県財政事情を勘案)。
- ※ 平成 21 年度から地方独立行政法人へ移行したため、一般会計繰入金は運営費負担金に名称変更。
- ※ 平成 22 年度の診療報酬改定率は政府発表の+0.19%の後、薬価部分に追加された後発品のある先発品の価格引下げ分▲0.16%を加味して実質的な改定率を+0.03%とした。
- ※ 平成 24 年度の診療報酬改定率は薬価部分を市場価格の下落を反映して 1.375%引き下げる一方、医師の診療行為や入院料などの本体部分は 1.379%引き上げた結果、実質的な改定率は+0.004%となった。
- ※ 平成 26 年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定を 0.63%引き下げる一方、本体部分を 0.73%引き上げた結果、全体改定率は+0.10%となった。(消費税率引上げ対応分を除いた実質改定率は▲1.26%)
- ※ 平成 28 年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ 1.22%、0.11%引き下げる一方、本体部分を 0.49%引き上げた結果、全体改定率は▲0.84%となった。

(キ) 職員の状況（各年度4月1日現在）

① 正規職員

(単位：人)

区分	総合		こころ		こども		本部		計	
	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28
医師	135	144	12	12	94	89	-	-	241	245
歯科医師	3	4	-	-	1	1	-	-	4	5
看護師	683	748	114	114	461	453	2	2	1,260	1,317
看護師	678	744	112	113	460	452	2	2	1,250	1,311
准看護師	5	4	2	1	1	1	-	-	10	6
医療技術	211	211	26	26	86	83	1	-	324	320
事務	49	51	13	13	28	28	28	27	118	119
計	1,081	1,158	165	165	670	654	31	29	1,947	2,006

※アソシエイトを含む。

② 有期職員

(単位：人)

区分	総合		こころ		こども		本部		計	
	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28
医師	93	94	1	5	49	49	1	1	144	149
歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
看護師	63	71	11	14	15	13	-	-	89	98
看護師	61	70	8	11	15	12	-	-	84	93
准看護師	2	1	3	3	-	1	-	-	5	5
医療技術	29	28	3	4	13	15	-	-	45	47
事務	112	123	14	15	48	50	7	7	181	195
補助職員	99	99	11	10	24	24	1	1	135	134
計	396	415	40	48	149	151	9	9	594	623

※補助職員：看護助手、薬剤助手、放射線助手、検査助手等

※短期間特別研修医は含まない。

(ク) 平成29年度職員の採用状況（H28採用試験(定時募集)実施状況）（H28.11.1現在）

- ・看護師の採用については、定期募集を年間5回、経験者募集を年7回実施して、切れ目のない募集を行った。また、県立総合病院における看護師を確保するため、25年10月より看護師の紹介業者を通じた採用をしている。
- ・平成28年度においては、看護師確保対策の一層の推進を図るため、平成27年度に引き続き、人材確保対策本部会議を実施した。本会議において、機構幹部職員が直接協議したことで、きめ細やかな対策を迅速に実施することができ、結果として、看護師採用数の大幅な増加につながった。（本会議実施前H26 108人⇒H27 149人、H28 113人（H28.11.1現在））
- ・人材確保対策会議による対策例としては、修学資金の拡充継続（貸与時期2期制）、支度金制度の継続、病院見学会の旅費の拡充継続（市外 最大5万円）、キャラバン隊による県外養成校訪問継続（H27 8県、H28 8県）等があげられる。また、看護学生向けに就職情報を提供する民間事業者が開催する合同就職説明会への参加や就職情報サイトへの情報掲載などを積極的に行った。
- ・看護師就職説明会において、看護学生を集めるために看板等の作成やノベルティの配布を行った。
なお、看護師については、掲示用ポスターを作成し、県内養成校や関係各所に配布するとともに、静岡鉄道の駅ホームや電車・バスの車内に掲載した。また、JR静岡駅南口に電照ポスターを掲載し、広く

周知を図った。

- ・新たな採用として、アソシエイト（看護）を3人確保した。
- ・事務職員について、選考採用により1人を確保した。

○採用者数の状況

(単位：人)

区 分	H28 (H28. 11. 1 現在) 【H29 採用】	H27 【H28 採用】	比較増減
看 護 師	113	149	▲36
事 務	1	1	0
医 療 技 術	1	3	▲2
ア ソ シ エ イ ト	3	2	+ 1
計	118	155	▲ 37

※H28 採用の欄は、H27 試験実施によるすべての採用人数（前倒し採用（看護師20、医療技術1）を含む）。

※H29 採用の欄は、H28 試験実施によるすべての採用人数（前倒し採用（看護師11）を含む）。

○ 現員数の推移（各年度4月1日現在）

(単位：人)

区 分	H25	H26	H27	H28	前年度増減 (H28-H27)
医師(正規)	228	235	245	250	5
看 護 師	1, 179	1, 221	1, 260	1, 317	57
医 療 技 術	289	304	324	320	▲4
事 務	105	109	118	119	1
小 計	1, 801	1, 869	1, 947	2, 006	59
有期医師	128	138	144	149	5
合 計	1, 929	2, 007	2, 091	2, 155	64

※アソシエイトを含む。

(2) 総合病院

<理 念>

「信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います」

全人的医療：身体、精神、心理、生活様式などを含めた総合的な視点から、患者さん自身の全体的な健康回復を目指す医療

<基本方針>

- 1 医療を受ける人々の立場に立ち、説明に基づく心のこもった医療を行います。
- 2 県内の中核病院として高度医療や先進的医療に取り組み、地域医療を支援します。
- 3 救急医療、災害医療、へき地医療、結核医療などの政策医療を積極的に担います。
- 4 将来の医療を担う質の高い人材を育成します。
- 5 快適な職場環境の整備と透明性の高い健全な病院運営に努めます。

<総 括>

総合病院は、県内医療機関の中核的病院として、各疾患の総合的な医療をはじめ、高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。

平成 28 年度も引き続き、循環器病センター機能を活かした 24 時間 365 日体制での高度な専門的医療の提供、がん疾患患者に高度な集学的治療の提供、高度救命救急センターとして重症な患者への救急医療提供を主要事業の三本柱として取り組んでいる。

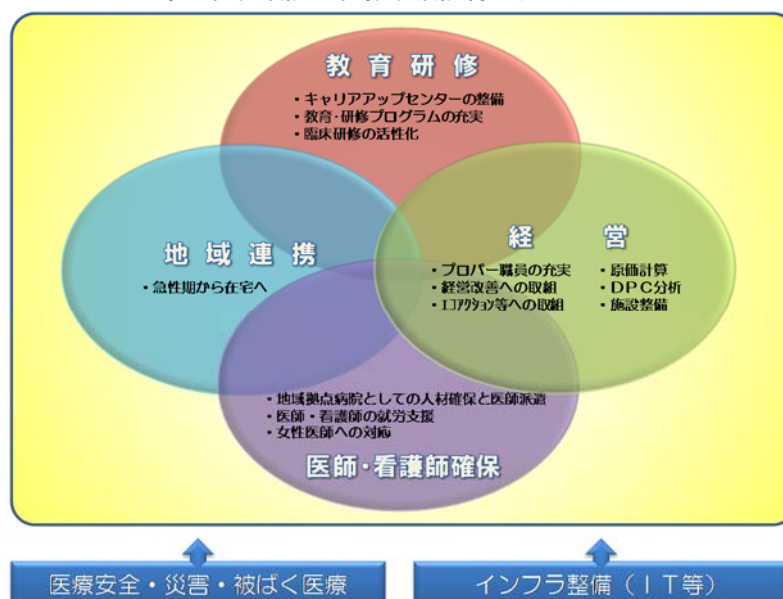
また、地域の中核的病院として、急性期を担当する機能に特化し、機能分担を進めるため、地域の医療機関との連携を強化し、紹介・逆紹介を推進している。

さらに高度な医療機器を地域全体で利用できるように、共同利用の取組みを進めた。

高額薬剤の使用（オプジーボ、ハーボニー等）や高度医療の提供に加え、施設基準の積極的な取得及び維持、DPC データの分析などに取り組むことにより、診療単価は向上する見込み。入院、外来ともに延患者数が昨年度を上回る見込み、収益についても入院・外来とも昨年度を上回る見込み。

今後、県立総合病院が目指す病院像（(図 1) 参照）のとおり、病院が所有する各種機能を強化・連携し、県立病院としての機能向上を一層図ることとしている。

県立総合病院が目指す病院像（図 1）



(3) こころの医療センター

<理 念>

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも

<基本方針>

- 1 患者さんの人権と尊厳を守ります。
- 2 24時間365日、精神科救急医療を提供します。
- 3 最新の知識と技術を取り入れた高度専門医療を提供します。
- 4 手厚いチーム医療によって早期退院を目指します。
- 5 在宅医療とリハビリテーション、社会参加を支援します。
- 6 社会資源を開拓し、連携を強化します。
- 7 司法精神医療、災害医療などの公益医療に主体的に参加します。
- 8 社会人・組織人・医療人としての人材育成に努めます。
- 9 広い視野に立って研鑽を重ね、積極的に社会へ情報発信します。
- 10 健全で透明性の高い病院経営を目指します。

<総 括>

こころの医療センターでは、日本トップレベルの「精神科救急・急性期医療」を提供するため、「救急・急性期医療の充実」、「在宅医療の拡充」、「高度な医療技術の導入」及び「司法精神医療の充実」を重点的に推進し、目標とする精神科医療の体制整備（将来構想（図2）参照）に取り組んでいる。

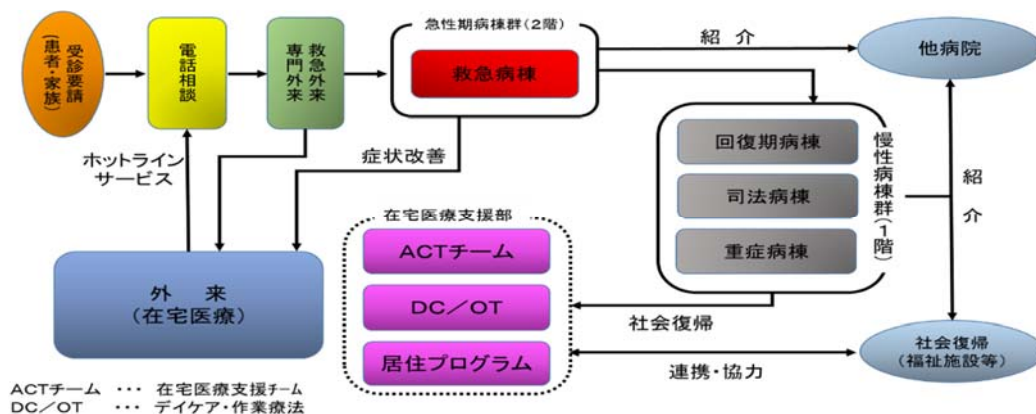
平成22年度より急性期病棟群（救急及び急性期病棟）を中心に救急・急性期患者の受け入れを行い、それを後方的に支援する慢性病棟群（回復期及び慢性重症病棟）との機能分化を進め、平成25年度には急性期病棟を救急病棟に移行する等、診療体制を強化した。平成28年度は慢性期病棟群である南1病棟の一部個室化を運用開始する等の機能強化を図り、継続して効率的な病棟運営に努めている。

一方、精神科における医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が世界的趨勢であることから、在宅医療支援部門を強化し、多職種チームによる地域生活での支援体制の整備と長期入院者の退院促進に取り組んでいる。

あわせて、退院後の安定的な生活を維持し、再入院を防止することを目的に、患者に対する心理・社会的治療への取り組みを強化している。

また、クロザピンや修正型電気けいれん療法（m-ECT）など、高度な医療の導入に積極的に取り組むとともに、医療観察法指定入院医療機関としての機能拡充を図るなど、県内精神医療の中核病院としての役割を果たすべく取り組んでいる。

こころの医療センター診療体制整備の将来構想（図2）



(4) こども病院

<理 念>

「私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。」

<基本方針>

「患者中心の医療サービスの継続」

「地域の医療機関と連携し、診断・治療が困難なこどもの患者へ
質の高い効果的な医療を提供」

こども病院が目指す方向 (図3)

- | | |
|------------|--------------------|
| 1 専 門 病 院 | 安全を重視した質の高い医療 |
| 2 教 育 | 教育内容の充実が最大目標の一つ |
| 3 地 域 連 携 | 相互支援に基づいた地域医療連携 |
| 4 効率的な病院経営 | 独善に陥らない標準的な経営と改善努力 |
| 5 働きやすい病院 | スタッフの満足度が高い労働環境 |
- *平成24年4月改定



<総 括>

こども病院は、昭和52年度の開院以来、静岡県の地域医療、小児医療に貢献するという設立趣旨に則り、高度かつ先進的な医療を実践している。

現在では、県内小児医療の中核病院として、循環器疾患医療、小児救急医療、周産期医療、小児がん医療、児童精神科医療を中心に、すべての小児の健康問題に対応可能な小児専門総合医療施設として、質の高い医療を県民に提供している。

平成28年度は、次年度以降に開始する新専門医制度に対応するため、小児科の基幹施設として研修プログラムの作成や研修医の募集及び採用試験等を行ったほか、小児科以外の連携施設となることにより増加が見込まれる研修医の宿泊施設の整備を予定している。

循環器疾患医療の分野では、循環器病棟に準重症患者を受入れる病室を設置したほか、心臓移植が必要な小児患者の治療を移植直前まで可能とする小児用補助人工心臓を導入するなど、小児重症心疾患患者を受け入れる体制の充実を図った。

また、国際交流においては、4月に院長が中国の浙江大学医学院附属儿童医院を訪問したことを始め、10月には当院が児童病院から研修医を受け入れ、12月には児童病院の院長が当院を訪問するなど、積極的な交流を行っている。

3 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 医療の提供

ア 総合病院

○ 業務実績を示す各種指標

- 入院延患者数は年度計画（以下「計画」）を下回り、外来延患者数は計画を上回った。入院単価は計画を下回る見込みである。外来単価は計画を上回り、年間収入は計画額を下回る見込みである。入院収益の増加要因としては、心臓血管外科や循環器内科を中心に診療内容が高度化したことや、集中治療系病棟（ERHCU、ICU、HCU）の算定延べ件数が増加、6A病棟をフル稼働したことなど、各種施設基準の新規取得、ランクアップの効果等が挙げられる。また、外来単価増については、高額薬剤（オプジーボ、ソバルディ、ハーボニー）の使用、高度医療に取り組んだ効果によるものである。

平成 28 年度 業務量及び単価等年間見込み

区分		年度計画	年間見込	増減	達成率 (%)	
入院	一般病床	年間入院延患者数 (人)	227,236	217,392	▲9,844	95.7
		病床稼働率 (%)	94.0	90.4	▲3.6	96.2
		平均在院日数 (日)		11.9		
	結核病床	年間入院延患者数 (人)	7,600	6,752	▲848	88.8
		病床稼働率 (%)	41.6	37.0	▲4.6	88.9
		平均在院日数 (日)		63.2		
患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 (円)		75,922	74,464	▲1,458	98.1	
外来	年間外来延患者数 (人)	414,182	440,610	+26,428	106.4	
	患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 (円)	18,368	18,738	+370	102.0	

※患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 は、税 込 金 額 (調 定 額 ベー ス で 算 定)。病 床 稼 働 率 は、4 月 は 一 般 病 床 623 床、5 月 からは 一 般 病 床 662 床 で 算 定、結 核 病 床 は 年 間 を 通 して、50 床 で 算 定

- 紹介率、逆紹介率ともに、制度改正による計算式の変更もあって前年度を大きく上回った。ともに高い水準を実現し、病診・病病連携がいっそう進んでいる。

平成 28 年度 紹介率・逆紹介率年間見込み

(単位：%)

区 分	年度計画	年間見込	増 減
紹 介 率	80.0	88.8	+8.8
逆 紹 介 率	90.0	155.1	+65.1

※紹介率・逆紹介率の算定方法は、用語解説を参照。

- 医療の提供については、急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患医療、がん医療、救急医療の3本を重点に据えるとともに、地域医療の支援及び医療技術者の研修に重点的に取り組んでいる。平成28年3月の厚生労働省告示により、全国1,667のDPC病院（急性期病院）の中で引き続き全国140病院のⅡ群の一つを維持し、大学病院本院（Ⅰ群）と同等の高密度診療及び医師研修を行っている病院として選ばれた（県内では当院を含めて5病院）。
- 急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患医療については、ハイブリッド手術を整備し、平成26年10月より運用を開始した。最新の治療器材と鮮明な画像診断を併用し、ステントグラフト治療やTAVI（経カテーテル大動脈弁治療）など、循環器分野における先進的な治療を行った。

循環器病センター



救命救急センター（1F）



ハイブリッド手術室（2F）



CCU（3F）

- がん医療については、総合相談センターに専従で認定看護師を配置し、相談体制を強化している。放射線治療の充実を目指してリニアックを3台設置し、稼働している。このほか、地域の医療者にも開かれたがん診療連携拠点病院としての機能強化に努めている。平成27年7月に国立がん研究センターから公表された「がん診療連携拠点病院院内がん登録2014年全国集計報告書」において、当院の登録件数2,698件は全国421施設で50番目に多い登録件数であった。また、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入し、平成26年2月から運用を開始した。泌尿器領域の前立腺がん手術、婦人科領域の子宮頸がん手術を行った。ダ・ヴィンチを使った子宮頸がんに対する広汎子宮全摘術を行っているのは県内では県立総合病院のみで、全国でも10施設程度である。臨床研究の10件を経て先進医療の届出を行い、平成28年12月に受理された。また、ダ・ヴィンチを用いた腹腔鏡下膀胱全摘術についても、5件の臨床研究を終了し技術の確立がなされたため、平成28年10月から自由診療を開始した。
- 手術室や放射線治療室の機能を大幅に強化し、高度・先進医療の推進を図るため、27年度より先端医学棟、リサーチサポートセンターの建設に着手した。また、近年増加する外来患者に対応するために、大型立体駐車場の建設を検討し基本設計に着手、本年度は実施設計を行い、建築許可及び建築確認申請まで終了する予定である。
- 救急医療については、平成27年3月に高度救命救急センターの指定を受けた。広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等の特殊疾病患者に対する救命医療を行うために必要な診療機能を備えた。また、平成26年6月にドクターカーを導入、運用開始し、静岡市と運用に関する協定を結び、救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行する、又は搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始することにより、救命率向上に努めた。平成27年度末には、富士市及び富士宮市とも運用に関する協定を結び近隣地域にも活動の範囲を広げた。

イ こころの医療センター

○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 延患者数については、入院は計画を下回り、外来は計画を上回る見込である。単価については、入院・外来とも計画を下回る見込である。

平成 28 年度 業務量及び単価等年間見込み

区 分		年度計画	年間見込	増減	達成率(%)
入 院	年間入院延患者数(人)	56,275	55,956	▲319	99.4
	入院患者1人1日当たり単価(円)	25,175	25,055	▲120	99.5
	平均在院日数(日)		100.9		
	病床稼働率(%)	89.6	89.1	▲0.5	99.4
外 来	年間外来延患者数(人)	38,714	38,774	60	100.2
	外来患者1人1日当たり単価(円)	6,061	5,872	▲189	96.9

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。平均在院日数は、医療観察法病床を除いて算定。病床稼働率は、計画では172床で算定。

- ・ 紹介率は計画値を上回り、逆紹介率は計画値を下回る見込みである。今後も受入れ体制の充実や転院の促進に努めていく。

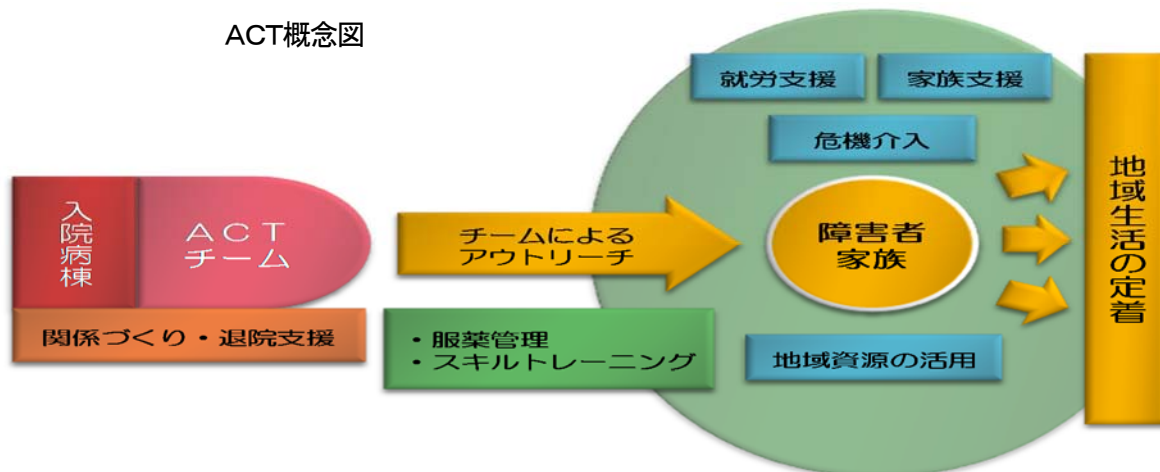
平成 28 年度 紹介率・逆紹介率年間見込み

(単位：%)

区 分	年度計画	年間見込	増 減
紹 介 率	56.0	58.1	2.1
逆 紹 介 率	36.0	30.4	▲5.6

- ・ 救急・急性期を中心とした診療体制の整備を図るとともに、包括的在宅医療支援体制モデルの構築や精神科救急相談体制の整備など、退院後の在宅支援を行うシステムを構築することで、「早期に集中的治療を行い、早期に社会復帰する」という体制づくりを進めている。
- ・ 先端薬物療法(クロザピン)や高度な治療法である修正型電気けいれん療法(m-ECT)の実施など、医療水準の向上と重症患者の病状改善に取り組んでいる。
- ・ 退院後の安定した地域生活の維持、再入院の防止に向け、心理・社会的治療の一環として、患者に対する心理教育・家族教室に関する取り組みを強化・拡大している。
- ・ 包括的在宅ケア(ACT)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルの構築を進めている。

ACT概念図



- ・ 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として本県関係の入院処遇対象者を受け入れており、機能の充実を図り、地域完結型の医療環境の形成を進めている。

ウ こども病院

○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院については、延患者数は計画を下回る見込みだが、単価は計画を上回る見込みである。
- ・ 外来については、延患者数、単価ともに計画を下回る見込みである。

平成 28 年度 業務量及び単価等年間見込み

区 分		年度計画	年間見込	増減	達成率 (%)
入 院	年間入院延患者数 (人)	84,030	79,861	▲4,169	95.0
	入院患者1人1日当たり単価 (円)	89,060	91,629	2,569	102.9
	平均在院日数 (日)		11.0		
	病床稼働率 (%)	84.6	80.7	▲3.8	95.5
外 来	年間外来延患者数 (人)	113,073	104,945	▲8,128	92.8
	外来患者1人1日当たり単価 (円)	13,780	13,395	▲385	97.2

※患者1人1日当たり単価は、税込金額（調定額ベースで算定）。平均在院日数は、NICU、GCU、MFICU、PICU、精神科、短期3を除いて算定。病床稼働率は272床(4月～5月)、271床(6月～3月)で算定。

- ・ 病診連携や病病連携の強化により、紹介率・逆紹介率ともに計画を上回る見込みである。

平成 28 年度 紹介率・逆紹介率年間見込み

(単位:%)

区 分	年度計画	年間見込	増 減
紹 介 率	90.0	95.2	5.2
逆 紹 介 率	32.0	49.8	17.8

- ・ 全国初の小児循環器集中治療専門医を配置したCCU、カテーテル治療（アンプラッツァー）や遠隔エコー診断等の先進的治療など、循環器疾患に対する高度先進的医療を提供している。
- ・ 循環器病棟に準重症患者を受入れる病室を設置し、小児重症心疾患患者を受け入れる体制の拡充を図った。
- ・ 自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国2番目となる小児用補助人工心臓を導入し、心臓移植が必要な小児患者の治療を移植直前まで可能とする体制を整備した。
- ・ 総合周産期母子医療センターの指定を受け周産期医療の中核を担い、ハイリスク胎児・妊婦、新生児に高度な先進的治療を提供している。
- ・ 静岡県小児がん拠点病院として、県内小児がん患者の半数以上に対応し、血液腫瘍の治療法である造血幹細胞移植を継続的に実施したほか、固形腫瘍については関係診療科の協働連携による「腫瘍カンファレンス」を開催して高度な集学的治療に取り組んでいる。
- ・ 小児救命救急センターの指定を受けている小児集中治療センター（PICU）と小児救急センター（ER）を中心に、24時間365日を通して、初期救急を含めた小児救急患者を受け入れている。
- ・ 厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に参画し、ネットワーク構築のため学校・地域との連携強化に努めるなど、県内の児童精神科医療における中核的な機能を発揮している。

救急の体制



ドクターヘリ



ドクターカー



小児救急センター

(2) 医療に関する技術者（医師、看護師等医療従事者）の研修を通じた育成と質の向上

ア 総合病院

医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣、看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究、メディカルスキルアップセンターを利用した研修の実施など、県立病院に相応しい医療技術の育成に努めている。特に医師の臨床研修については、平成27年度に卒後臨床研修評価機構（JCER）による臨床研修評価を受審し、当院の臨床研修体制が評価され、引き続き認定証の発行を受けた。また、平成28年度は、医師臨床研修マッチングを経て、募集定員22名中20名を確保する見込みである。

イ こころの医療センター

医療技術者の研修については、認定看護師研修の派遣等、精神医療の向上に資する人材の育成に努めている。特に認定看護師については、7名の精神科認定看護師が在籍し、医療の質の向上に貢献している。

ウ こども病院

- ・ 専門家を招聘してセミナーや研修会を定期的で開催するとともに、海外研修や認定看護師研修等に職員を積極的に派遣するなど、院内外の研修会等を通じて病院全体の医療技術の向上に努めている。
- ・ シドニー・ウエストメッド小児病院から定期的に医師や看護師を招聘するとともに、当院の研修医をウエストメッド小児病院に派遣するなど、国際交流を通じて最先端の医療技術の習得を図っている。
- ・ 4月に院長が中国の浙江大学医学院附属児童病院を訪問したことを始め、10月には当院が児童病院から研修医を受け入れ、12月には児童病院の院長が当院を訪問するなど、積極的な交流を行っている。
- ・ 地域の医療機関等の看護師や看護学生等への継続的な実習研修や、医療関係者を対象とした講演会等を定期的で開催し、職員だけでなく院外の医療従事者にも教育研修機能を開放している。
- ・ 様々な医療行為の研修を実施できるラーニングセンターの改修と基本的な機器の導入を行い、医療技術の更なる向上のための環境整備を行っている。

(3) 医療に関する調査及び研究

- ・ 総合病院では、臨床医学研究センターを平成 25 年 12 月 24 日に立ち上げた。また、平成 26 年 8 月 9 日に設立記念研究発表会を開催し、地域の医療関係者に臨床医学研究センター設立を PR した。また、H27. 6 月に客員研究員制度を創設し、平成 27 年度は 4 名、平成 28 年度は 2 名の客員研究員を選任する見込み。
- ・ 医療機能の向上のため、医師の通常の診断治療業務との関連の中で確立された治療方法の導入や、実施に当たっての研究、各種疾患の追跡調査を行い、個々の技術の向上を図っている。
また、全職員に対して、新技術、知識習得のため各種研修会・講習会への参加、情報収集のための各種雑誌、図書の購入等を推進している。

【医学奨励研究の内訳】平成 28 年度

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
総 合	周術期ランジオロール投与による食道癌手術における心房細動予防効果の検討	麻酔科・集中治療科	11
	γ-GTP に対する高吸収クルクミンの効果に関する研究	臨床研究センター	6
	消化器癌患者における周術期血中カルニチン濃度に関する研究	外科	2
	アンドロゲン除去療法開始前後の前立腺癌患者を対象とした下垂体性 intact hCG 値基礎的データ集積	泌尿器科	7
	周術期口腔機能管理の効果に関する臨床統計学的検討	歯科口腔外科	4
	COPD における血液凝固能異常と深部静脈血栓症に関する前向き研究	呼吸器内科	16
	C-メチオニン PET による脳実質内腫瘍、および鑑別を要する脳病変の診断	脳神経外科	7
	ロボット支援前立腺全摘除後の肉眼的血尿と術中出血量、ドレン排出量との比較研究	泌尿器科	7
	食道癌手術における術前の握力値が術後合併症と予後に与える影響についての検討	外科	11
	治療抵抗性致死的不整脈に対するニフェカランの有用性の検討に関する研究	救命救急センター	5
	2 型糖尿病患者における SGLT-2 阻害薬による食欲と FGF21 への影響	糖尿病・内分泌代謝センター	10
	糖尿病腎症による慢性腎不全患者への腎移植後血糖コントロールの意義	糖尿病・内分泌内科	2
	新規尿中バイオマーカーを用いた緊急血液浄化療法を要する症例の腎予後および生命予後の予測	腎臓研究科	7
	ウェアラブルカメラによる術者の視点からの手技映像の撮影による救急医教育	救命救急センター	2
	縫合固定を行わないスペーサーを用いた片開き式頸椎椎弓形成術の治療成績	脳神経外科	3
各慢性腎不全病期におけるオフポンプ冠動脈バイパス術の有用性の検討	心臓血管外科	3	

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
総 合	心臓血管血流解析シミュレーションを用いた大動脈解離症例における偽腔血流の検討	心臓血管外科	2
	副腎静脈サンプリング陰性例における統計学的研究	糖尿病・内分泌内科	3
	全国の救命救急センターにおける救急救命士雇用状況	救命救急センター	7
	健常者における高感度トロポニン測定濃度の層別化と心筋梗塞発症リスク推定のためのフラミンガムスコアとの関連を検討する	検査技術室	3
	Calcineurin 阻害薬減量による腎機能改善は減量前の腎機能の影響を受けるか	腎臓内科	3
	計	21	121
こころ	統合失調症治療における当院入院患者の処方薬動向調査	薬 剤 室	4
		計	1
こども	臍帯血 Endotoxin Activity Assay の検討～絨毛膜羊膜炎重症度との関連について～	新 生 児 科	4
	血友病保因者診療体制構築のための調査研究	血 液 腫 瘍 科	9
	牛乳成分の一つであるラクトフェリンの即時型アレルギー活性についての研究	免疫アレルギー科	4
	二相性脳症（AESD＝けいれん重積型脳症）とけいれん重積の唾液アミラーゼによる鑑別	神 経 科	7
	先天性サイトメガロウイルス感染症と自閉スペクトラム症の関連性に関する研究	発 達 小 児 科	1
	小児内視鏡手術における新しく導入された3-D内視鏡、エアールシステムの有用性の検討 3Dプリンターで作成した小児用ドライボックスによる内視鏡手術トレーニング	小 児 外 科	9
	ダブルコンソール3D定位法の確立	循 環 器 科	10
	中枢神経系奇形疾患トリオ検体のエクソーム解析による de novo 変異解析の同定	脳 神 経 外 科	1
	PCRによる小児化膿性関節炎の起因菌同定	整 形 外 科	2
	子宮頸管内検体を用いた絨毛膜下血腫の予後判定に関する研究	産 科	4
MicroRNA in situ hybridization による胚細胞腫瘍の組織学的検討	病 理 診 断 科	3	

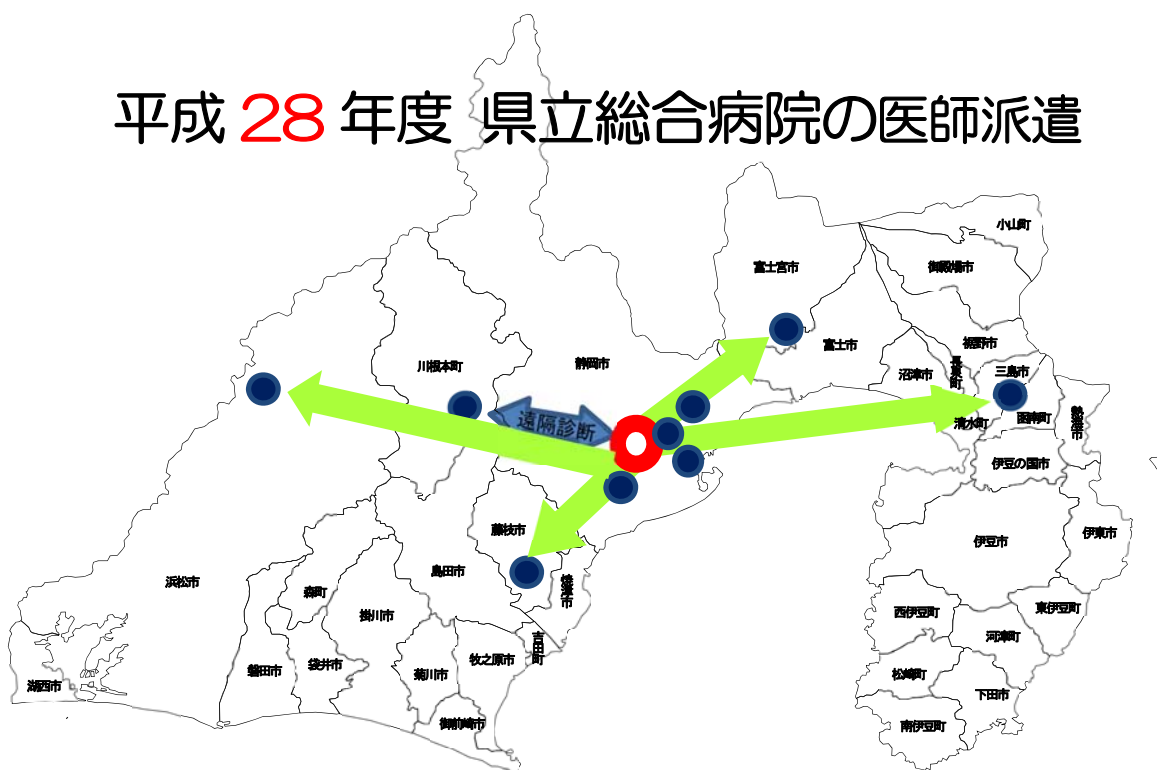
病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
こども	重症心身障がい児への絵本朗読によるストレス変化および保護者の感情変化の評価	看 護 部	2
	医師・看護師の合意形成に基づく新生児の予後改善のためのケアマニュアル改訂	北 2 病 棟	8
	二分脊椎における超音波検査の有用性の検討	検 査 技 術 室	4
	当院で分離された <i>Streptococcus agalactiae</i> の薬剤感受性と血清型の検討	検 査 技 術 室	6
	胃瘻患者のミキサー食を家庭で作りやすくするためのマニュアル	栄 養 管 理 室	5
	NICUにおける当院約束処方TPNの評価	薬 剤 室	7
	計	17	86

(4) 医療に関する地域への支援

ア 総合病院

地域医療の支援については、平成28年度は、県立病院医師交流制度に基づき8医療機関（前年同期10）に対して延べ258人（前年同期377人）の医師の派遣を行うとともに、PETやCT・MRIの高度医療機器の共同利用を推進した。また、平成22年度総務省委託事業である「地域ICT利活用広域連携事業」により始めた「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」は順調に拡大し、平成28年9月末現在、開示施設は15病院、参照施設は157施設（病院15、診療所85、薬局47、訪問看護ステーション9、介護保険施設1）となっている。各地域の医師会とともに、診療情報共有のためのネットワークを推進している。

平成28年度 県立総合病院の医師派遣



イ こころの医療センター

地域医療の支援については、医師、看護師の講演会等への講師派遣等に取り組んだほか、医療観察法における鑑定の要請に協力する等、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしている。

ウ こども病院

- ・ 小児科の基幹施設として研修プログラムの作成や研修医の募集及び採用試験を行うなど、来年度から新制度に準じて実施される専門医制度に適切に対応している。
- ・ また、来年度以降に開始する小児科以外の専門医制度についても、連携施設として増加が見込まれる研修医を受け入れるための研修医宿泊施設の改修工事を実施するなど、準備を着実に進めている。
- ・ 地域医療支援病院としての役割を果たすため、医師不足が顕著な公的病院や急病センター等の医療機関に医師を派遣している。
- ・ 映像通信システムを通じて、浜松医科大学やマレーシア国立循環器病センターと定期的に症例検討会を実施している。また、県内4病院と連携して心エコー画像の遠隔診断を行うなど、映像情報を活用した地域医療機関等との連携及び支援を行っている。
- ・ 児童精神科医療におけるネットワーク構築のため、小中学校教諭を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を実施するなど、学校・地域との連携強化に努めている。
- ・ 県内の医師や看護師を対象とした症例検討会を開催するなど、地域の周産期医療の質向上と他医療機

関との連携体制を強化している。

- ・ 地域の救急医療機関や消防機関を対象とした研究会を開催するなど、小児救急医療の体制強化を図っている。

(5) 災害等における医療救護

- ・ 災害拠点病院は、災害時に多発する重篤救急患者を受け入れ、自己完結型の医療救護チームを被災地に派遣し、地域医療機関への応急用資器材の貸し出し機能を有する病院であり、県下 21 病院が指定されている。
- ・ 総合病院は、基幹災害拠点病院に指定されており、災害拠点病院の機能をさらに強化した、要員の訓練や研修機能を有し、災害医療に関して県の中心的役割を果たす病院であることが求められている。
- ・ 総合病院とこども病院は、静岡市長から「静岡県医療救護計画」に基づき、救護病院（重症患者及び中等症患者の処置及び収容を行う病院）に指定されているほか、総合病院は、被ばく医療について、二次被ばく医療機関に指定されている。
- ・ 防災計画等の取組については、災害対応マニュアルの見直しを進め、東日本大震災以降の国の施策の見直しなどを反映した改訂を行うとともに、総合病院では、災害発生時の断水に備えるため、地下水を上水として活用できるような対策を実施した。改訂したマニュアルに基づき訓練を実施した。
- ・ 総合病院における被ばく医療については、福島第一原発の事故を受けて、平成 27 年度に国が原子力災害体制の見直しを行い、県が原子力災害拠点病院の指定へ向けて整備を進めている。総合病院は指定へ向けて関係機関が主催する講習会等を受講するなど、施設要件を満たす取り組みを行っている。
- ・ こころの医療センターは、地震や台風等による災害が発生し、被災した病院独自では患者の身体、生命の安全確保が困難な場合、被災病院に対する人的支援を行うため、平成 26 年 8 月 28 日、宮城県立精神医療センター、千葉県精神医療センター、大阪府立精神医療センター、岡山県精神医療センター、島根県立こころの医療センター、山口県立こころの医療センター、計 7 病院と災害時における自治体精神科病院の相互支援に関する協定を締結している。また、4 月に発生した熊本での地震の際には、県立こども病院との混成チームを含む計 2 チームの「心のケアチーム」を現地に派遣し、精神科医療における支援を行った。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 簡素で効率的な組織づくり

理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を、8 月を除く毎月開催し、意思決定の迅速化に努めている。

(2) 効率的な業務運営の実現

ア 機構全体

- ・ 法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮して、人物重視の採用試験を実施し、平成 28 年度事務職員として 1 名を採用した。
- ・ 未収金の圧縮を図るため、医療費に係る相談体制の充実、未収金回収業務を弁護士法人に委託するなどし、効率的な未収金対策を講じている。
- ・ 薬品費や診療材料費については、同種同効品の絞込みや、安価な材料への切替え、価格交渉の更なる拡充等の見直しを進め、経費節減・業務効率化に取り組んだ。
- ・ 地方独立行政法人制度のメリットを活かして契約の複数病院一括化及び複数年契約化を進める一方で、契約によっては分割して発注することによって競争性を高めるなど、柔軟に契約方法を変更することで経営改善を推進した。
- ・ 経費の節減のみならず、モニタリング制度（インセンティブ（契約期間の延長）の付与や業務内容が適切

ではない場合の減額等が課せられている。)の適用などにより、業務の質の向上も図った。

イ 総合病院

- ・ 引き続き、医療秘書や病棟支援を行う看護助手の配置、看護師の離職防止対策などに取り組み、一般病棟7対1看護の維持に努めている。また、看護提供方式変更を平成27年11月に行った。固定チームナーシング開始後1年の評価をチェックリストとアンケートを用いて行った。モチベーションのアップやチームでの新人教育、情報共有が出来ている。患者との信頼関係が構築でき質の高い医療提供に寄与しているなどの意見が看護師より挙がっている。評価結果から問題点等を抽出し、ガイドラインの見直し、修正等を看護提供方式委員会で検討していく。
- ・ SPDの導入効果として、各部署の定数在庫の見直しを行い、不要在庫を5日分から3日分へ削減した。更に、28年度は希望部署において週末定数を設けることにより、平日の不要在庫を2日分へ削減した。
- ・ 期限切迫品を集約し、委員会等で使用促進を実施し減耗品の減少に効果が出ている。
- ・ 新規採用品購入前の既存物品の使いきりにおいて、スムーズに行えるようになった。

ウ こころの医療センター

- ・ 電子カルテの導入により、情報の共有によるチーム医療及び療育の推進、並びに業務の効率化・省力化を進めている。

エ こども病院

- ・ 医事委託業者と共同で定期的に勉強会等を実施し、各診療科との連携を密にして確実に診療報酬請求を行うなど、診療収益の増加に努めている。
- ・ 診療材料の単価、品目、業者等の見直し、消耗品の節約、委託契約の業務内容の見直し、職員の時間外勤務の適正化等により、経費削減を行っている。
- ・ 毎月の管理会議において病院の経営状況を報告するなど、院内で経営に関する情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図っている。

(3) 事務部門の専門性の向上

- ・ 事務職員基礎研修、会計研修等を実施し、業務関連知識の向上を図った。
- ・ 診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の増員を図った。
- ・ 業務の標準化を図るため、事務部門の業務マニュアル整備・活用に向けた取り組みを実施し、あわせて、院内コミュニケーションシステム上に集約したマニュアルを公開し、情報の共有化を図った。

(4) 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成

業務改善の推進として、機構の業務改善運動推進制度を設置しており、業務改善に積極的に取り組む組織風土の醸成に努めた。

5 項目別事業実績

評価凡例
 A 計画に対し十分に取り組み、成果も得られている。
 B 計画に対し十分に取り組んでいる。
 C 計画に対する取り組みは十分ではない。

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1 1 医療の提供	年度計画 各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ① 患者への十分な説明と同意の徹底 ② 医療技術の向上 ③ チーム医療の推進 ④ 医療安全対策の充実 ⑤ 患者満足の向上	No.	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																
				セカンドオピニオン数 (単位：件)	業務の実績																		
		1	セカンドオピニオン外来を充実する。	<table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>26年度</td> <td>27.9末</td> <td>28.9末</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>107</td> <td>61</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>45</td> <td>30</td> <td>18</td> </tr> </table>	区分	26年度	27.9末	28.9末	総合	107	61	60	ところ	—	—	—	子ども	45	30	18	A	診療科の振り分け・セカンドオピニオンかどかかの振り分けを的確に行い、スムーズな受診・院内の混雑を防ぐことができた。	各病院
区分	26年度	27.9末	28.9末																				
総合	107	61	60																				
ところ	—	—	—																				
子ども	45	30	18																				
		2	運用実績を通じてエビデンスに基づいたクリニカルパスの新規作成や見直しを行うことにより、医療の質を確保し入院中の経過を分かりやすく説明できるクリニカルパスの適用率を高める	<p>クリニカルパス管理委員会を毎月1回開催し、新規作成数7件、修正186件の審議・承認を行った。 パス適用率は66.3%となった。</p> 総合	A	(実績に対する評価) クリニカルパスについては、常に内容を見直す体制を維持しており、患者に対してより良い医療を提供している。 (課題) 今後も引き続き新規パス作成、既存パスの見直しを行い、より良い医療を提供していく。またスタッフがより使いやすいシステムにしていく。																	
		3	看護提供方式見直しの効果を検証する。	<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員満足度調査結果 平成28年9月末 未実施 H28年9月末 看護研究数 22(実践報告含む) 	—	未実施のため未評価																	
		4	先端医療棟建設の工事進捗管理を徹底する。	<p>総合</p> 来月6月末の完成に向け、現在のところは概ね当初計画どおりの進捗状況となっている。	A	工事の進捗管理を徹底した結果、概ね当初計画どおりの進捗状況とすることができた。 引き続き工事の進捗管理を徹底し、来月6月末の工事完成、9月の使用開始を目指していく。																	
		5	立体駐車場建設の設計及び申請等手続を進める。	<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 市、警察等の関係機関と協議し、建築許可に向けた各種手続を進めた。 来年度に予定している工事発注に向け設計業務を進めた。 	A	建築許可に向けた各種の手続きについては、現在のところ概ね当初計画どおりに進捗している。一方で、設計業務については建設計画の一部見直しがあった影響等により、当初計画よりスケジュールが遅れているため、今後設計業者と共同して挽回を図っていく。																	
		6	入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	<p>ところ</p> 平成27年度稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) 稼働クリニカルパスの状況 (単位：件) <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28.9末</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	26年度	27年度	28.9末	ところ	4	4	4	A	クリニカルパスの適用が比較的小さい精神科ではあるが、導入が可能なものについては、積極的に導入している。									
区分	26年度	27年度	28.9末																				
ところ	4	4	4																				

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

No.	年度計画	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考
			26年度	27年度		
第1 1 医療の提供	各県立病院は、患者が選択し納得でき る最良の医療を提供するため、次の事 項等に取り組む。 ① 患者への十分な説明と同意の徹底 ② 医療技術の向上 ③ チーム医療の推進 ④ 医療安全対策の充実 ⑤ 患者満足度の向上	治療を含め、臨床研究については、医師も増えていることから 年々増加傾向にある。これに関する学会・研修会等についても医師 に限らず、臨床試験管理室の職員も積極的に参加している。 認定看護師数 13名 専門医数 180名(延べ人数) (単位：件) 26年度 28,9未 27年度 262(29) 28,9未	26年度 242(29) 27年度 262(29) 28,9未	A	倫理審査委員会の迅速審査の導入や、プロト コール、説明文書の雛形作成等の支援により、臨 床研究を推進している。研究数は継続して増加し ている。統合指針に沿って信頼できる研究が実施 できるよう、教育、体制整備を進めていく。	
8	チーム医療は、病院全体での取組が不可欠であり、診療科の種 を越え医療に従事する多種多様な医療スタッフが情報を共有し、 業務連携することで患者の状況に的確に対応した質の高い医療の 提供を行った。 また、チーム医療に対する診療報酬上の評価が加算されている ことから、収益面でも貢献している。	チーム医療の推進(カンファレンスの開催) 区 分 チーム名 開催頻度 主要メンバー 栄養サポートチーム 2回/週 医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査 感染防止対策チーム 医師・看護・薬剤・臨床検査 褥瘡対策チーム 医師・看護・薬剤・臨床検査 呼吸ケアチーム 1回/週 医師・看護・栄養 緩和ケアチーム 1回/週 医師・看護・薬剤・臨床検査 栄養サポートチーム 週1回 医師・看護・薬剤・臨床検査 感染防止対策チーム 医師・看護 褥瘡対策チーム 随時 医師・看護・精神保健福祉社士等 栄養サポートチーム 週1回 医師・看護・栄養等 感染防止対策チーム 週1回/月 医師・看護 褥瘡対策部会 1回/月 医師・看護 リハビリテーション 1回/月 医師・看護・理学療法等	チーム医療の推進(カンファレンスの開催) 区 分 チーム名 開催頻度 主要メンバー 栄養サポートチーム 2回/週 医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査 感染防止対策チーム 医師・看護・薬剤・臨床検査 褥瘡対策チーム 医師・看護・薬剤・臨床検査 呼吸ケアチーム 1回/週 医師・看護・栄養 緩和ケアチーム 1回/週 医師・看護・薬剤・臨床検査 栄養サポートチーム 週1回 医師・看護・薬剤・臨床検査 感染防止対策チーム 医師・看護 褥瘡対策チーム 随時 医師・看護・精神保健福祉社士等 栄養サポートチーム 週1回 医師・看護・栄養等 感染防止対策チーム 週1回/月 医師・看護 褥瘡対策部会 1回/月 医師・看護 リハビリテーション 1回/月 医師・看護・理学療法等	A	(実績に対する評価) 総合においては、年度内に認知症ケアチ ームが新たに設置される見込みとなつている。 質の高い医療を行う体制が整備されている。 診療科の枠を越え多職種が参加するカンファ レンスは、最良の医療提供のため確実に実施 されている。 チーム医療に対する診療報酬が加算されて いるため、収益面でも貢献している。 (課題) 精神疾患に対するチーム医療の提供を目指 し、人材の確保、育成に取り組む。	各病院
9	医療安全室及び感染対策委員会等を中心 に、マニュアルの見直しや研修会を 通じて院内感染防止対策・医療安全対 策を実施する。	・3病院で、10回の院内感染対策研修 23回の医療安全対策研修 を行い、安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、 ・医療安全全国共同行動の参加登録病院としてレベルの向上を目 指す。 医療安全対策、院内感染対策研修等 区 分 25年度 26年度 27年度 28年度 院内感染対策研修 医療安全対策研修 参加人数(人) 参加人数(人) 参加人数(人) 参加人数(人) 総 合 4 1 0 1 336 6 3,223 こころ 0 0 0 0 332 7 342 こども 0 0 0 3 0 4 627 10 1,376 計 4 1 3 3 1 10 1,295 23 4,941	※H28.9未時点 総 合 96.4 95.8 95.6 こころ 91.9 88.2 89.6 こども 88.8 88.2 89.8 入院 92.5 91.3 91.9 外来 89.4 91.2 90.9	A	(実績に関する評価) 各病院において感染対策委員会や医療安全 委員会を行う等、継続的な対策研修の実施体 制が確立している。	各病院
10	患者の視点に立った質の高い医療の提 供を目指し、患者要望等の的確な把握 及び患者満足度調査を行う。	H25から調査実施時期を統一し、実施している。 患者満足度調査 (単位：%) 区 分 25年度 26年度 27年度 28年度 総 合 入院 96.4 95.8 95.6 外来 91.9 88.2 89.6 こころ 入院 88.8 88.2 89.8 外来 92.5 91.3 91.9 こども 入院 89.4 91.2 90.9 外来	実施実績計	-	(実績に対する評価) 平成28年度分は現在実施・集計中である。 平成27年度調査まで、3病院共に全体的に高 い満足度を保っている。	本部 企画・ 情報班

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1 1 医療の提供	年度計画 I 1 (2)	No.	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																																				
				業務の実績	業務の実績																																						
				<p>「ふじのくにパーチャル・メカ・ホスピタル」について、情報の開示施設である磐田市立総合病院・川根本町いよいよの里診療所・菊川市立総合病院・公立森町病院・静岡済生会総合病院・社会保険桜ヶ丘総合病院(H26.4～地域医療機能推進機構桜ヶ丘病院に名称変更)・市立御前崎総合病院・市立島田市立総合病院・中東運総合医療センター・藤原総合病院・藤枝市立総合病院・富士市立中央病院・焼津市立総合病院や、各地域の自治体・医師会とともに「ふじのくにパーチャル・メカ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワークを構築し運用している。</p> <p>総合</p>	<table border="1"> <caption>業務の実績 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28目標</th> <th>28.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>85.0</td> <td>89.1</td> <td>80.0</td> <td>88.8</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>127.5</td> <td>134.3</td> <td>90.0</td> <td>155.1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28目標	28.9末	紹介率	85.0	89.1	80.0	88.8	逆紹介率	127.5	134.3	90.0	155.1	<p>(実績に対する評価) 紹介率は、年度目標を上回っており、昨年度実績並みとなっている。 逆紹介率は、年度目標及び昨年度実績を大きく上回っている。 「ふじのくにパーチャル・メカ・ホスピタル」のネットワークへの参加施設数・開示患者数・参照件数とも、順調に拡大を続けている。さらに、連携のためネットワーク基盤の整備が実現することは、医療連携推進において大きな一歩となる。 (課題) ・疾病連携をより充実させる必要がある。 ・ネットワークを維持・活用する。</p>																						
区分	26年度	27年度	28目標	28.9末																																							
紹介率	85.0	89.1	80.0	88.8																																							
逆紹介率	127.5	134.3	90.0	155.1																																							
		11	<p>かかりつけ医との連携を充実することにより、入院から在宅まで一貫した高度医療の提供や病状急変時における対応等が可能となるよう連携・機能分担体制を進める。</p>	<p>総合</p>	<table border="1"> <caption>ネットワーク実績 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開示施設数</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>開示件数</td> <td>12,242</td> <td>15,814</td> <td>17,878</td> </tr> <tr> <td>参照施設数</td> <td>208</td> <td>194</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>病院</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>122</td> <td>104</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>保険薬局</td> <td>57</td> <td>59</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>訪問看護ステーション</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>介護福祉施設</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28.9末	開示施設数	14	15	15	開示件数	12,242	15,814	17,878	参照施設数	208	194	157	病院	17	17	15	診療所	122	104	85	保険薬局	57	59	47	訪問看護ステーション	11	12	9	介護福祉施設	1	2	1	<p>(実績に対する評価) 他の医療機関等と連携を図ることで、紹介率は前年実績を上回ったものの、逆紹介率は前年実績を下回っている。 (課題) 「よろず相談・地域連携スタッフ」を中心に、引き続き地域連携を図る必要がある。</p>	
区分	26年度	27年度	28.9末																																								
開示施設数	14	15	15																																								
開示件数	12,242	15,814	17,878																																								
参照施設数	208	194	157																																								
病院	17	17	15																																								
診療所	122	104	85																																								
保険薬局	57	59	47																																								
訪問看護ステーション	11	12	9																																								
介護福祉施設	1	2	1																																								
		12	<p>地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期・重症患者の受入など連携・機能分担体制の整備を推進する。</p>	<p>こころ</p>	<table border="1"> <caption>業務の実績 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28目標</th> <th>28.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>57.9</td> <td>56.2</td> <td>56.0</td> <td>58.1</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>27.6</td> <td>30.8</td> <td>36.0</td> <td>30.4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28目標	28.9末	紹介率	57.9	56.2	56.0	58.1	逆紹介率	27.6	30.8	36.0	30.4																							
区分	26年度	27年度	28目標	28.9末																																							
紹介率	57.9	56.2	56.0	58.1																																							
逆紹介率	27.6	30.8	36.0	30.4																																							
		13	<p>地域医療連携室を中心に患者の紹介・逆紹介を推進する。特に小児の在宅医療への移行の促進を目標とする。</p>	<p>総合</p>	<table border="1"> <caption>業務の実績 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28目標</th> <th>28.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>85.0</td> <td>89.1</td> <td>80.0</td> <td>88.8</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>127.5</td> <td>134.3</td> <td>90.0</td> <td>155.1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28目標	28.9末	紹介率	85.0	89.1	80.0	88.8	逆紹介率	127.5	134.3	90.0	155.1	<p>(実績に対する評価) 紹介率は80%以上、逆紹介率は100%以上の高い水準を保っている。</p>																						
区分	26年度	27年度	28目標	28.9末																																							
紹介率	85.0	89.1	80.0	88.8																																							
逆紹介率	127.5	134.3	90.0	155.1																																							
			<p>地域医療連携室を中心に患者の紹介・逆紹介を推進する。特に小児の在宅医療への移行の促進を目標とする。</p>	<p>こども</p>	<table border="1"> <caption>紹介率・逆紹介率実績 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>H28目標</th> <th>28.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>91.8</td> <td>93.0</td> <td>90.0</td> <td>95.2</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>53.2</td> <td>52.0</td> <td>32.0</td> <td>49.8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	H28目標	28.9末	紹介率	91.8	93.0	90.0	95.2	逆紹介率	53.2	52.0	32.0	49.8	<p>(実績に対する評価) ・紹介・逆紹介共に目標を上回っている。 ・在宅医療に移行する患者は増加傾向にある。</p>																						
区分	26年度	27年度	H28目標	28.9末																																							
紹介率	91.8	93.0	90.0	95.2																																							
逆紹介率	53.2	52.0	32.0	49.8																																							
			<p>在宅医療患者数</p>	<table border="1"> <caption>在宅医療患者数 (単位：人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>607</td> <td>644</td> <td>647</td> <td>579</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28.9末	患者数	607	644	647	579																													
区分	25年度	26年度	27年度	28.9末																																							
患者数	607	644	647	579																																							

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1 1 医療の提供	I 1 (2)	年度計画 県内の中核的病院として高度・専門・特殊医療を提供するため、地域の医療機関との機能分担を推進し、地域の医療機関との連携を強化する。 ① 紹介・逆紹介の推進 ② 地域連携クリニカルパスの推進 ③ かかりつけ医との診療情報の共有化の推進 ④ ふじのくににパーチャル・メガ・ホスピタル（ふじのくにねっと）の推進	No.	行動計画 心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頭頸部骨折を対象とした現行の地域連携クリニカルパス適用患者の充実を図る。 リハビリテーション病院との連携強化等、病院間の機能分担を推進する。	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																																															
					地域連携クリニカルパス 区分	26年度			27年度	28.9末																																													
			14		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">地域連携クリニカルパス (単位：件)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳卒中</td> <td>42</td> <td>68</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>大腿骨頭頸部骨折</td> <td>67</td> <td>65</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>胃がん</td> <td>77</td> <td>80</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>133</td> <td>151</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>95</td> <td>118</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>前立腺がん</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>虚血性心疾患</td> <td>0</td> <td>56</td> <td>106</td> </tr> <tr> <td>慢性腎臓病</td> <td>28</td> <td>54</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>444</td> <td>592</td> <td>353</td> </tr> </tbody> </table>	地域連携クリニカルパス (単位：件)				区分	26年度	27年度	28.9末	脳卒中	42	68	25	大腿骨頭頸部骨折	67	65	48	胃がん	77	80	34	大腸がん	133	151	52	乳がん	95	118	64	前立腺がん	2	0	0	虚血性心疾患	0	56	106	慢性腎臓病	28	54	24	肺がん	0	0	0	計	444	592	353	<p>地域連携クリニカルパスの適用推進により、関係機関との連携が行われている。</p> <p>A</p>	
地域連携クリニカルパス (単位：件)																																																							
区分	26年度	27年度	28.9末																																																				
脳卒中	42	68	25																																																				
大腿骨頭頸部骨折	67	65	48																																																				
胃がん	77	80	34																																																				
大腸がん	133	151	52																																																				
乳がん	95	118	64																																																				
前立腺がん	2	0	0																																																				
虚血性心疾患	0	56	106																																																				
慢性腎臓病	28	54	24																																																				
肺がん	0	0	0																																																				
計	444	592	353																																																				
			15		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">ネットワーク実績 (単位：件)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開示施設数</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>開示件数</td> <td>12,242</td> <td>15,814</td> <td>17,878</td> </tr> <tr> <td>参照施設数</td> <td>208</td> <td>194</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>病院</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>122</td> <td>104</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>保険薬局</td> <td>57</td> <td>59</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>訪問看護ステーション</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>介護福祉施設</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	ネットワーク実績 (単位：件)				区分	26年度	27年度	28.9末	開示施設数	14	15	15	開示件数	12,242	15,814	17,878	参照施設数	208	194	157	病院	17	17	15	診療所	122	104	85	保険薬局	57	59	47	訪問看護ステーション	11	12	9	介護福祉施設	1	2	1	<p>ネットワークへの参加施設数・開示患者数・参照件数とも順調に拡大を続けている。今後も参加施設数を増やし、地域の中核病院としての役割を果たし、地域医療機関等との連携を強化していく。</p> <p>A</p>									
ネットワーク実績 (単位：件)																																																							
区分	26年度	27年度	28.9末																																																				
開示施設数	14	15	15																																																				
開示件数	12,242	15,814	17,878																																																				
参照施設数	208	194	157																																																				
病院	17	17	15																																																				
診療所	122	104	85																																																				
保険薬局	57	59	47																																																				
訪問看護ステーション	11	12	9																																																				
介護福祉施設	1	2	1																																																				
			16		<p>「ふじのくににパーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である磐田市立総合病院・川根本町いやししの里診療所・菊川市立総合病院・公立森町病院・静岡済生会総合病院・社会保険桜ヶ丘総合病院（H26.4～地域医療機能推進機構桜ヶ丘病院に名称変更）、市立御前崎総合病院・市立島田市立総合病院・中東総合医療センター・藤原総合病院・藤枝市立総合病院・富士市立中央病院・焼津市立総合病院や、各地域の自営体・医師会とともに「ふじのくににパーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワークを構築して運用している。平成27年度末の理事会において利用料規定を決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。</p>	<p>地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。</p> <p>A</p>																																																	

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1 医療の提供	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考
				26年度	27年度		
1 (3) イ	周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などに取組む。	17	周産期医療や精神科患者の身体合併症等に対して、機構内3病院が連携し、より最適な医療の提供を行う。	周産期医療における搬送実績 (単位: 件)		A	3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制の確立等、病院間の連携・協力体制を密にしている。
				区 分	26年度		
				区 分	26年度	27年度	28. 9末
				子ども→総合	9	8	2
				総合→子ども	8	14	6
1 (3) ウ	結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療に着実に取り組む。	18	結核病棟を維持する。また各種感染症や難病は県内医療機関との連携・協力関係を進めて対応する。	結核病棟50床について運用している。エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。難病医療の法律改正にあわせて、難病指定医療機関の申請を行い、H27.5月に指定を受けた。難病指定医についても、これまでに21診療科82名の医師が申請を行い、順次指定を受けた。		A	県内最大の結核病床の医療機関として、広範囲の地域から結核患者の受入れた。エイズ拠点病院として、エイズ患者の受入体制を整えている。難病指定医療機関として、難病患者の受入体制を整えている。
				区 分	26年度		
				エイズ	107	98	47
				結 核			
				入院患者数			
1 (3) エ	先進的医療である移植医療に取り組む。	19	腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成等への取組みを継続する。	移植実績 (単位: 件)		A	移植医療について、継続的に取組んでいる。
				区 分	26年度		
				腎移植	13	11	10
				造血幹細胞移植	8	8	5
				強角膜片作成	6	7	1
				計	27	26	16
1 (3) オ	リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	20	急性期リハビリテーションの充実、退院調整の充実を図る。	造血幹細胞移植実績 (単位: 件)		A	(実績に対する評価) 造血幹細胞移植件数は順調に推移しており、昭和57年以降341件にのぼる。
				区 分	26年度		
				骨髄移植	9	4	1
				臍帯血	1	0	1
				自家末梢血	2	8	2
				同種末梢血	1	1	0
				計	13	13	4
				地域医療ネットワークセンター看護師、MSW、理学療法士等が積極的に介入している 退院調整加算321件(H28. 9末) 退院時リハビリテーション料285件(H28. 9末)			
				地域医療ネットワークセンター看護師、MSW、理学療法士等が積極的に介入している 退院調整加算321件(H28. 9末) 退院時リハビリテーション料285件(H28. 9末)			

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1 1 医療の提供	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																															
				業務の実績	業務の実績																																	
	リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取組む。	21	<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関や関係機関との連携を深化させる。 患者や地域支援のための人材育成、組織の充実を図る。 	<p>早期退院の促進と退院後も安定的な生活を維持するためには、入院中から地域生活を見据えた支援が必要とされることから、22年度から取組を始めた「精神科急性期ケアマネジメント」を本年度も継続実施している。</p> <p>また、在宅において、よりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問を積極的に実施した。</p> <table border="1"> <caption>平均在院日数 (単位：日)</caption> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>27.9月末</th> <th>28.9月末</th> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>120.7</td> <td>125.3</td> <td>106.1</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数 (医療観察法による患者を除く)</td> <td>112.3</td> <td>116.9</td> <td>97.9</td> </tr> </table> <table border="1"> <caption>1年以上入院患者数 (単位：人)</caption> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>27.9月末</th> <th>28.9月末</th> </tr> <tr> <td>1年以上入院</td> <td>53</td> <td>61</td> <td>57</td> </tr> </table> <table border="1"> <caption>訪問看護件数 (単位：件)</caption> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>27.9月末</th> <th>28.9月末</th> </tr> <tr> <td>訪問看護件数</td> <td>2,883</td> <td>1,401</td> <td>1,711</td> </tr> <tr> <td>訪問看護回数 (うち複数訪問)</td> <td>170</td> <td>117</td> <td>79</td> </tr> </table>	区分	27年度	27.9月末	28.9月末	平均在院日数	120.7	125.3	106.1	平均在院日数 (医療観察法による患者を除く)	112.3	116.9	97.9	区分	27年度	27.9月末	28.9月末	1年以上入院	53	61	57	区分	27年度	27.9月末	28.9月末	訪問看護件数	2,883	1,401	1,711	訪問看護回数 (うち複数訪問)	170	117	79	<p>A</p> <p>在宅医療支援の強化及び長期入院患者の退院促進を図るとともに、救急・急性期患者の受入れを積極的に進めている。また、訪問看護回数も対前年同期比で増加している。</p>	
区分	27年度	27.9月末	28.9月末																																			
平均在院日数	120.7	125.3	106.1																																			
平均在院日数 (医療観察法による患者を除く)	112.3	116.9	97.9																																			
区分	27年度	27.9月末	28.9月末																																			
1年以上入院	53	61	57																																			
区分	27年度	27.9月末	28.9月末																																			
訪問看護件数	2,883	1,401	1,711																																			
訪問看護回数 (うち複数訪問)	170	117	79																																			
	言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。	22		<table border="1"> <caption>リハ実施実績 (単位：単位)</caption> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9月末</th> </tr> <tr> <td>理学療法</td> <td>20,414</td> <td>17,811</td> <td>7,967</td> </tr> <tr> <td>作業療法</td> <td>7,317</td> <td>6,335</td> <td>3,003</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚療法</td> <td>8,180</td> <td>7,825</td> <td>4,132</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>35,911</td> <td>31,971</td> <td>15,122</td> </tr> </table>	区分	26年度	27年度	28.9月末	理学療法	20,414	17,811	7,967	作業療法	7,317	6,335	3,003	言語聴覚療法	8,180	7,825	4,132	計	35,911	31,971	15,122	<p>A</p> <p>(実績)に対する評価) 発達障害等のリハビリ需要の増加に対応している。 (課題) 専任のリハビリテーション医の確保。</p>													
区分	26年度	27年度	28.9月末																																			
理学療法	20,414	17,811	7,967																																			
作業療法	7,317	6,335	3,003																																			
言語聴覚療法	8,180	7,825	4,132																																			
計	35,911	31,971	15,122																																			
	遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	23	<ul style="list-style-type: none"> 院内の関係する部署間の調整を経て遺伝子診療科を立ち上げた。当該科の存在を県民や診療所等の医師等に広報するため、ホームページへの掲載や講演会の開催等を行った。 	<p>A</p> <p>H28年度の遺伝子カウンセリング受診患者数は25名となっている。世間の関心の高さから今後の増加が期待される</p>																																		
	認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。また、養護観察については、鑑別診断や治療を実施するとともに、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	24	<ul style="list-style-type: none"> 鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施については現状では困難な状況にある。 	<p>B</p> <p>(実績)に対する評価) 現状では困難な状況にある。 (課題) 当該診療に関わる各スタッフを確保することが課題である。</p>																																		
	症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 認知症への理解を深めるための専門外来講演会等を開催する。	25	<ul style="list-style-type: none"> 「ぬくもり」の発行(年4回)発行部数 500部/回) 	<p>A</p> <p>今年度は、一般県民を対象とした講座を1回開催した。 また、ホームページや広報誌を活用し、新たな情報を随時提供することができた。ホームページについては、昨年度リニューアルし、より見やすい内容となるよう努めた。</p>																																		

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1 1 医療の提供	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																																									
				ことば	数値																																											
1 1 3 3 キ	認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組み。また、発達障害については、鑑別診断や治療を実施するとともに、地域との関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	26	発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。	・医師や保育士を中心に、発達障害児を持つ保護者を対象としたペアレント・トレーニングを定期的に開催している。 ・新生児退院診察を週1回実施している。 ・新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを週1回実施している。	A	(実績に対する評価) ペアレント・トレーニング、新生児退院診察、低出生体重児の発達フォローを継続的に実施している。 (課題) 年々増加する発達障害の外来受診に対応するため、各医療機関との連携を強化する必要がある。																																										
1 1 3 ク	高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、低侵襲治療や高度な治療への対応の強化(ロボット支援手術・放射線治療等の拡充)など、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設及び機器等の充実に取り組む。	27	中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。	<p>第2期中期計画期間に合わせて策定された施設整備計画に基づいて施設及び機器等の整備を実施した。</p> <p>計画的に実施する一方で、策定時から情勢の変化があった場合には計画の見直しを図った。</p> <p>総合病院本館の既存不適格のため、非煙設備の一部について、本年度中に改修を行う。</p> <p>・先端医学棟(5階建 延床面積約20,569.6㎡)の平成29年度開棟に向けて、建設工事を進めた。</p> <p>・立体駐車場の実施設計に着手した。</p> <p>H28 施設及び機器等の整備状況 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">施設整備</th> <th colspan="3">医療機器等</th> </tr> <tr> <th>中期計画</th> <th>28当初</th> <th>28見込</th> <th>中期計画</th> <th>28当初</th> <th>28見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>7,538,553</td> <td>10,896,096</td> <td>6,226,797</td> <td>2,303,000</td> <td>4,683,658</td> <td>1,650,000</td> </tr> <tr> <td>ことば</td> <td>383,160</td> <td>589,864</td> <td>229,616</td> <td>49,993</td> <td>30,493</td> <td>6,202</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>874,440</td> <td>600,398</td> <td>557,997</td> <td>454,564</td> <td>200,000</td> <td>280,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8,846,153</td> <td>12,086,358</td> <td>7,014,410</td> <td>2,807,557</td> <td>4,914,151</td> <td>1,936,202</td> </tr> </tbody> </table>	区分	施設整備			医療機器等			中期計画	28当初	28見込	中期計画	28当初	28見込	総合	7,538,553	10,896,096	6,226,797	2,303,000	4,683,658	1,650,000	ことば	383,160	589,864	229,616	49,993	30,493	6,202	合計	874,440	600,398	557,997	454,564	200,000	280,000	合計	8,846,153	12,086,358	7,014,410	2,807,557	4,914,151	1,936,202	A	(実績に対する評価) 総合の新棟建設については、平成27年度に着工、平成29年度竣工予定。手術室22室、放射線治療室、リサーチ・サポートセンター等を設置する。 ことばの新外来については、昨年度の新棟に着工、平成28年度に引き続き、既存棟の改修工事を引き継ぎ、平成28年度からフルオープンで外来診療を開始した。	本部 企画・情報班
区分	施設整備			医療機器等																																												
	中期計画	28当初	28見込	中期計画	28当初	28見込																																										
総合	7,538,553	10,896,096	6,226,797	2,303,000	4,683,658	1,650,000																																										
ことば	383,160	589,864	229,616	49,993	30,493	6,202																																										
合計	874,440	600,398	557,997	454,564	200,000	280,000																																										
合計	8,846,153	12,086,358	7,014,410	2,807,557	4,914,151	1,936,202																																										
1 1 3 ケ 7	循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を生かした24時間体制による高度な専門的治療を提供する体制の充実 ①重症心不全疾患の患者に対して冠動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)機能を提供する体制の提供 ②集中治療室(CCU/ICU)増床による高度専門的治療の提供の充実 ③急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に24時間救急受入体制の強化 ④循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進 ⑤ハイブリッド手術室の使用によるステントグラフト治療等の高度専門医療の提供	28	当直等の勤務体系を考慮した冠動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供する。	<p>循環器病センター3階のCCU/ICUを24時間体制(看護記録2・1)で12床稼働している。</p> <p>・心臓リハビリについても充実を図り、施設基準においてもIへのランニングプログラムを実現した。</p> <p>・TAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)の施設基準を取得し、平成27年度は4例実施した。平成28年9月末現在9例実施した。</p> <p>CCU/ICU稼働率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td></td> <td>100.5</td> <td>102.6</td> <td>97.1</td> </tr> <tr> <td>入室患者数(人)</td> <td></td> <td>738</td> <td>771</td> <td>372</td> </tr> <tr> <td>1日平均(人)</td> <td></td> <td>10.1</td> <td>10.3</td> <td>10.7</td> </tr> </tbody> </table>	区分	分	26年度	27年度	28.9月末	稼働率(%)		100.5	102.6	97.1	入室患者数(人)		738	771	372	1日平均(人)		10.1	10.3	10.7	A	循環器内科は循環器病センターの機能を活かして高度な専門的治療を提供し稼働している。平成28年7月に10床から12床に変更しているが、医療安全上の問題を考慮し、段階的に実稼働病床を増やしている。																						
区分	分	26年度	27年度	28.9月末																																												
稼働率(%)		100.5	102.6	97.1																																												
入室患者数(人)		738	771	372																																												
1日平均(人)		10.1	10.3	10.7																																												
29	脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。	29	脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。	<p>平成24年度より開始した土曜日(第2、第4)のリハビリテーションを継続実施している。</p> <p>・脳卒中の地域連携クリニックを運用している。</p> <p>・脳血管内治療のできる医師を確保した。(脳神経外科)</p> <p>・平成28年度診療報酬改定で脳卒中地域連携診療計画から地域連携診療計画に名称変更となった。</p> <p>脳卒中地域連携診療計画管理料(H28.3まで) 地域連携診療計画加算(H28.4～) (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td></td> <td>32</td> <td>29</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	分	26年度	27年度	28.9月末	算定件数		32	29	4	B	(実績に対する評価) 脳血管疾患治療等の推進が期待できる体制が整いつつある。 引き続き、医師、看護師、リハビリスタッフの確保に努力し、SCU等脳卒中救急患者受入体制の更なる整備を図りたい。																																
区分	分	26年度	27年度	28.9月末																																												
算定件数		32	29	4																																												
30	生活習慣病を総合的血管疾患としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。	30	関係科の医師及びびコメディカルによる合同検討会(下肢救済チーム)を開催し、スタッフが協力して患者の治療にあたるチーム医療の連携を推進している。	関係科の医師及びびコメディカルによる合同検討会(下肢救済チーム)を開催し、スタッフが協力して患者の治療にあたるチーム医療の連携を推進している。	A	チーム医療の推進に向けての検討を進めることができた。																																										
31	ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	31	ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	<p>H26.10月からハイブリッドオペレーティング室を運用し、先進医療に取り組んでいる。27年度はTAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)の施設基準を取得し、H28年度は9件実施している。</p>	A	H26.10月からハイブリッドオペレーティング室を運用し、先進医療に取り組んでいる。27年度はTAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)の施設基準を取得し、H28年度は9件実施している。																																										

中期計画 第1 泉民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置

第1 1 医療の提供	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28暫定 自己評価		備考																									
					説明																											
1 医療の提供	がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供 ①手術治療、放射線治療、化学療法治療に係るがん診療体制の充実 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアや終末期ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用を泌尿器科領域、婦人科領域のみならず消化器外科領域へ展開する試み	32	がん患者が受診後速やかに検査や手術を受けられる体制を構築するため、手術室、内視鏡室、放射線科のスタッフを増員する。	<p>・麻酔科医1名、消化器内科医1名の増員（H28.4月増）が実現できた。</p> <p>・手術支援ロボット（ダヴィンチ）を導入し、泌尿器科領域、産婦人科領域、消化器外科領域において運用している。</p> <p>ダヴィンチ使用手術件数（単位：件）</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>泌尿器科</th> <th>婦人科</th> <th>消化器外科</th> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>31</td> <td>5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>77</td> <td>4</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>H28.9</td> <td>55</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </table> <p>・ダヴィンチを用いた腹腔鏡下膀胱全摘術 平成28年10月より自由診療開始 ・ダヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術 平成28年12月より先進医療開始</p>	年度	泌尿器科	婦人科	消化器外科	H26	31	5	—	H27	77	4	—	H28.9	55	1	2	A	(実績に対する評価) 化学療法、手術、放射線治療とも十分に提供できている。新たにダヴィンチを用いた手術の適用を拡大した。 (課題) 引き続き麻酔科医、放射線科医、消化器内科医の確保に努める。										
		年度	泌尿器科	婦人科	消化器外科																											
H26	31	5	—																													
H27	77	4	—																													
H28.9	55	1	2																													
		33	外来化学療法センターの拡充と環境整備を行うとともに、スタッフの専門性を向上する。	<p>・外来化学療法センターは、専門の認定看護師1名と認定薬剤師6名を配置し、40床のベッドを活用し、安心・安全な治療に貢献している。</p> <p>・平成26年5月厚生労働省より抗がん剤ばく露防止に関する確長通知が出され、現在の抗がん剤調製室の設備改善が必要となった。</p> <p>・先端医学棟建設後の跡地利用の中で中央滅菌材料室跡地に移転する設計を完了した。</p>	A	(実績に対する評価) 外来化学療法室の機能拡充により、患者サービスの向上と件数を維持している。 (課題) 引き続き腫瘍内科の医師の確保に努める。																										
		34	・地域医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。 ・精神科医の確保を目指し、緩和ケアの充実に繋げる。	<p>・緩和ケアチーム介入症例数 H28年度上半期件数181件 (5 E病棟120件、5 E病棟外がん55件、5 E病棟外がん以外6件)</p> <p>緩和ケアチーム介入症例数（単位：件）</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9月末</th> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>426</td> <td>381</td> <td>403</td> <td>181</td> </tr> </table> <p>拡大キャンペーンボード</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9月末</th> </tr> <tr> <td>開催回数</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>6回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>237人</td> <td>228人</td> <td>422人</td> <td>160人</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28.9月末	症例数	426	381	403	181	区分	25年度	26年度	27年度	28.9月末	開催回数	5回	5回	6回	3回	参加者数	237人	228人	422人	160人	A	(実績に対する評価) がん疾患患者に対して、緩和ケアチームが積極的に介入して、介入数は増加傾向にある。 (課題) 常勤の精神科医が不在なため、診療報酬に結びついていない。	
区分	25年度	26年度	27年度	28.9月末																												
症例数	426	381	403	181																												
区分	25年度	26年度	27年度	28.9月末																												
開催回数	5回	5回	6回	3回																												
参加者数	237人	228人	422人	160人																												
		35	がんに関する相談支援の窓口を一本化し、情報の提供・発信の強化を図るため、がん相談窓口のスタッフを増強する。	<p>がん相談件数（単位：件）</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9月末</th> </tr> <tr> <td>がん相談</td> <td>2,457</td> <td>3,784</td> <td>3,065</td> <td>2,253</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28.9月末	がん相談	2,457	3,784	3,065	2,253	A	乳がん・がん化学療法の認定看護師各1名も専従で相談対応に当たっている。退院調整看護師も4名が専従で対応している。																
区分	25年度	26年度	27年度	28.9月末																												
がん相談	2,457	3,784	3,065	2,253																												
		36	消化器外科領域でのロボット支援手術の活用に向けた準備を行う。	<p>臨床研究 平成28年9月末 ロボット支援手術（大腸） 2件実施</p>	A	(実績に対する評価) 現在は臨床研究段階だが著実に実績件数を増やしている。症例数が集まり次第、自由診療へ移行する予定。 (課題) 件数の増加と適応疾患の拡大																										
		37	医師の増員を図るとともに、勤務体系にも配慮した当直・日直体制を整備する。	<p>・医師の変則勤務の試行を継続し、当直明けに休める制度を整えた。</p> <p>・H25.7より、救急科医師5名体制（うち専門医2名）により、救命救急センターが稼働した。</p> <p>・H27.3より、高度救急医療センターに指定</p> <p>・H28年度は、救急科医師8名体制で稼働</p> <p>医師の変則勤務状況（単位：％）</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9月末</th> </tr> <tr> <td>該当者（人）</td> <td>1,500</td> <td>1,547</td> <td>1,444</td> <td>781</td> </tr> <tr> <td>利用者（人）</td> <td>810</td> <td>924</td> <td>935</td> <td>492</td> </tr> <tr> <td>利用率（％）</td> <td>54.0</td> <td>59.7</td> <td>64.7</td> <td>63.0</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28.9月末	該当者（人）	1,500	1,547	1,444	781	利用者（人）	810	924	935	492	利用率（％）	54.0	59.7	64.7	63.0	A	救急委員会を中心にして効果的な制度設計を検討し救急患者の受入体制を維持しており、中期目標が十分達成されている。						
区分	25年度	26年度	27年度	28.9月末																												
該当者（人）	1,500	1,547	1,444	781																												
利用者（人）	810	924	935	492																												
利用率（％）	54.0	59.7	64.7	63.0																												

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスの質の向上に関する目標を達成するための取組

年度計画	No.	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																												
			年度計画	No.																														
第1 1 医療の提供	38	<p>重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営に必要①高度救命救急センター運営に必要②集中治療専門医の確保③救急搬送患者の受入体制の充実</p> <p>・救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、近隣地域との新たな協定締結を目指す。</p>	総合	<p>救急車受入率 (単位：%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>27.9月末</th> </tr> <tr> <td>区</td> <td>97.4</td> <td>94.2</td> <td>97.1</td> <td>97.3</td> </tr> <tr> <td>全</td> <td>91.9</td> <td>89.3</td> <td>93.0</td> <td>95.0</td> </tr> </table> <p>・特殊疾病患者受入件数 (H28.4～H28.9末) 重症熱傷：14件 重症外傷：368件 急性中毒：18件 病院外心停止：210件</p> <p>・ドクターカー出動件数 平成26年度：4件 平成27年度：3件 協定締結市町数 静岡市、富士市、富士宮市</p>	区分	25年度	26年度	27年度	27.9月末	区	97.4	94.2	97.1	97.3	全	91.9	89.3	93.0	95.0	<p>救急車の受入を断らない体制が維持され、救急車の受入れ台数、率も順調に増加している。</p>														
				区分	25年度	26年度	27年度	27.9月末																										
				区	97.4	94.2	97.1	97.3																										
				全	91.9	89.3	93.0	95.0																										
<p>精神科救急・急性期医療の提供体制の充実</p> <p>①救急患者が常時受け入れ可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備 ②24時間365日精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備</p>	<p>「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。当センター広報誌「ぬくもり」への掲載頻度を増やし、広報に努めた。 ・当センターホームページに「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し周知を図った。</p> <p>精神科救急ダイヤル件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>27.9月末</th> <th>28.9月末</th> </tr> <tr> <td>全相談件数</td> <td>4,174</td> <td>1,685</td> <td>2,224</td> </tr> <tr> <td>うち時間外</td> <td>3,174</td> <td>1,043</td> <td>1,295</td> </tr> </table>	区分	27年度	27.9月末	28.9月末	全相談件数	4,174	1,685	2,224	うち時間外	3,174	1,043	1,295	<p>(実績に対する評価) 県内全域を対象とし、患者、家族だけでなく、医療機関や関係施設等などからの相談に対応し、精神科救急ダイヤルとしての責務を果たした。 また、相談件数も前年より増加しており、広報活動の成果が表れている。 (課題) 相談件数はこれまでで最も多くなっており、今後もこの状態を維持するため一層の周知を図る。</p>	A																			
区分	27年度	27.9月末	28.9月末																															
全相談件数	4,174	1,685	2,224																															
うち時間外	3,174	1,043	1,295																															
<p>新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。</p>	<p>早期治療、早期退院の実践により、救急病棟(南2)、急性期治療病棟(北2)における「新規患者率」「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」はそれぞれ「精神科救急ダイヤル」に満たしている。</p> <p>新規患者率 (単位：%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>27年度</th> <th>27.9月末</th> <th>28.9月末</th> </tr> <tr> <td>救急</td> <td>南2</td> <td>40%以上</td> <td>71.8</td> <td>71.0</td> </tr> <tr> <td>急性期→救急</td> <td>北2</td> <td>40%以上</td> <td>68.6</td> <td>69.8</td> </tr> </table> <p>新規患者3ヶ月以内在宅移行率 (単位：%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>27年度</th> <th>27.9月末</th> <th>28.9月末</th> </tr> <tr> <td>救急</td> <td>南2</td> <td>60%以上</td> <td>69.9</td> <td>73.5</td> </tr> <tr> <td>急性期→救急</td> <td>北2</td> <td>60%以上</td> <td>85.5</td> <td>83.0</td> </tr> </table>	区分	施設基準	27年度	27.9月末	28.9月末	救急	南2	40%以上	71.8	71.0	急性期→救急	北2	40%以上	68.6	69.8	区分	施設基準	27年度	27.9月末	28.9月末	救急	南2	60%以上	69.9	73.5	急性期→救急	北2	60%以上	85.5	83.0	<p>(実績に対する評価) 急性期病棟であった北2病棟がH25.5月から救急病棟に格上げされ、診療報酬単価は上昇したが、その分、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」が40%から60%へと引き上げられる等、施設基準の水準が厳しくなった。しかし、両病棟ともにこの基準を満たすことができた。 (課題) 念願であった北2病棟の救急病棟への転換を果たしたが、より厳しくなった施設基準を満たすためには、在宅医療支援の充実など退院促進の一層の取組が必要となる。</p>	A	
区分	施設基準	27年度	27.9月末	28.9月末																														
救急	南2	40%以上	71.8	71.0																														
急性期→救急	北2	40%以上	68.6	69.8																														
区分	施設基準	27年度	27.9月末	28.9月末																														
救急	南2	60%以上	69.9	73.5																														
急性期→救急	北2	60%以上	85.5	83.0																														
<p>他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組</p> <p>①高度医療(クロザピン、m-ECT(修正型電気けいれん療法)、心理療育、家族教室等)への取組</p>	<p>平成21年7月から開始したm-ECTの治療を本年度も継続して積極的に実施している。</p> <p>m-ECT実施件数 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>延件数(件)</th> <th>実施者数</th> <th>中部地区(静岡市)</th> <th>東部地区</th> <th>西部地区</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>596</td> <td>53</td> <td>47</td> <td>32</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>27.9末</td> <td>300</td> <td>26</td> <td>31</td> <td>22</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>28.9末</td> <td>323</td> <td>33</td> <td>31</td> <td>27</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> </table>	区分	延件数(件)	実施者数	中部地区(静岡市)	東部地区	西部地区	その他	27年度	596	53	47	32	4	1	27.9末	300	26	31	22	3	1	28.9末	323	33	31	27	2	0	<p>(実績に対する評価) 本年度も積極的にm-ECTの治療を継続して実施している。県中部、富士地区でm-ECTを実施しているのは当センターのみであり、中部地区を中心に患者を受け入れている。 (課題) 麻酔科医については、現在外部より招聘しているが、今後は法人内部での確保を目指す。</p>	A			
区分	延件数(件)	実施者数	中部地区(静岡市)	東部地区	西部地区	その他																												
27年度	596	53	47	32	4	1																												
27.9末	300	26	31	22	3	1																												
28.9末	323	33	31	27	2	0																												

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

No.	年度計画	行動計画	業務の実績	28暫定 自己評価		備考																																																							
				説明																																																									
第1 1 医療の提供	1 1 (3) ケ (4)	他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度医療（クロザピン、m-ECT（修正型電気けいれん療法）心・心理・社会的治療（心理教育、家族教室等））への取組	<p>・クロザピンによる治療体制が整い、平成22年4月27日、クロザピル適正使用委員会において、CPMS（クロザピン患者モニタリングサービス）登録機関として承認された。</p> <p>・静岡県内では、浜松医科大学医学部付属病院、聖隷三方原病院に次いで3番目の登録である。</p> <p>・平成23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、これまでに35名の患者に投与している。現在26名に對して継続投与中である。</p> <table border="1"> <caption>登録機関の状況（H28.10.27時点）</caption> <tr> <th>区分</th> <th>全国</th> <th>静岡県</th> </tr> <tr> <td>CPMS登録機関数</td> <td>353</td> <td>7</td> </tr> </table>	区分	全国	静岡県	CPMS登録機関数	353	7	A	<p>（実績に対する評価）</p> <p>平成23年6月から治療を開始し、これまでに35名の患者に投与し、このうち26名が継続治療している。大きな治療効果が認められる症例も見られるため、今後も患者の安全を確保しつつ治療に取り組む。</p> <p>（課題）</p> <p>クロザピンによる治療は、重篤な副作用も懸念されることから、治療にあたっては副作用回避マニュアルに基づき、十分な安全対策を今後も継続する必要がある。</p>																																																		
区分	全国	静岡県																																																											
CPMS登録機関数	353	7																																																											
42	治療抵抗性の症例に対する治療として、先端薬物療法（クロザピンなど）を積極的に実施する。	心理・社会的治療についての取組を継続実施する。	<p>・平成22年度から取組を始めた認知行動療法プログラムを、心理・社会的治療プログラムに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。</p> <p>・研修会の開催（H28.7.8.9）</p> <p>・心理教育に関する院内研修会を開催</p> <p>・治療の実施</p> <p>平成23年11月から、各病棟等において選定した患者を対象に治療を実施</p>	A	<p>（実績に対する評価）</p> <p>退院後の地域における安定した生活の維持、再入院の防止のためには、入院中からの患者への心理教育が重要なことから、プロジェクトを発展させ、病院全体として取り組んでいる。今後は各病棟等において実践することにより、患者の在宅への移行の促進が期待できる。</p> <p>（課題）</p> <p>心理教育の実践を診療報酬の算定にいかんとしてつなげるかの検討が必要。</p>																																																								
43	在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア（ACT）チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア（ACT）チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	<p>・平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を開始した。</p> <p>平成22年2月の支援開始以来延べ18名の支援活動を実施し、うち8名は安定した在宅生活に移行したため支援終了、1名は転院により支援終了、2名は死亡により終了、現在は、外来患者7名への支援を継続している。</p>	A	<p>（実績に対する評価）</p> <p>平成21年度に実施したガイドラインの作成とモデルケースでの検証を受け、ACTとしての活動が開始された。着実に事業は進められている。</p> <p>（課題）</p> <p>当センターが目指す24時間365日のサポート体制による地域支援を行うには、収益を確保することが重要であり、診療報酬での評価につなげる必要がある。</p>																																																								
44	○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようになるための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア（ACT）チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	<p>・平成21年8月より指定入院医療機関として2床で運用を開始、平成23年3月末には12床への増床が完了した。</p> <p>・増床完了後対象患者の受入が進んだ結果、平成23年8月以降はほぼ満床の状態が1年以上続く等高い利用率で推移している。</p>	A	<p>（実績に対する評価）</p> <p>平成21年8月の運用開始以降、法令に添った適正な運用がされている。また、施設の拡充により機能充実が図られ、県内の対象患者の受入れが進み、患者一人一人に对应したきめ細かな治療プログラムの作成による社会復帰に努めた。</p> <p>（課題）</p> <p>年間を通じて満床に近い状態が続いており、収支もほぼ当初見込みとおりに確保されている。</p> <p>施設の拡充に伴い、入院対象者も増加し、その病態も多彩となつてくる。よりよい医療を提供するため、スタッフの一層のレベルアップが必要となる。</p>																																																								
45	医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に關する法律」の司法精神医療への、指定医療機関としての積極的な関与	医療観察法指定医療機関としての機能を最大限に発揮するため、スタッフのスキルアップを図る。	<p>医療観察法収支状況（単位：千円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度計画</th> <th>28.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延床者数（人）</td> <td>4,277</td> <td>4,210</td> <td>2,196</td> </tr> <tr> <td>病床利用率（%）</td> <td>97.4</td> <td>97.3</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>入院単価（円/人）</td> <td>50,391</td> <td>50,120</td> <td>49,438</td> </tr> <tr> <td>医療収益</td> <td>215,524</td> <td>212,805</td> <td>108,565</td> </tr> <tr> <td>入院収益</td> <td>215,524</td> <td>210,984</td> <td>108,565</td> </tr> <tr> <td>運営費負担金</td> <td>0</td> <td>1,821</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>医療費用</td> <td>182,789</td> <td>192,295</td> <td>93,655</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>174,497</td> <td>183,057</td> <td>89,434</td> </tr> <tr> <td>薬品費</td> <td>3,389</td> <td>3,791</td> <td>1,750</td> </tr> <tr> <td>診療材料費</td> <td>1,115</td> <td>1,640</td> <td>567</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>1,343</td> <td>1,343</td> <td>672</td> </tr> <tr> <td>その他借費</td> <td>2,465</td> <td>2,465</td> <td>1,233</td> </tr> <tr> <td>医療収支</td> <td>32,735</td> <td>20,510</td> <td>14,911</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度計画	28.9月末	延床者数（人）	4,277	4,210	2,196	病床利用率（%）	97.4	97.3	100.0	入院単価（円/人）	50,391	50,120	49,438	医療収益	215,524	212,805	108,565	入院収益	215,524	210,984	108,565	運営費負担金	0	1,821	0	医療費用	182,789	192,295	93,655	人件費	174,497	183,057	89,434	薬品費	3,389	3,791	1,750	診療材料費	1,115	1,640	567	減価償却費	1,343	1,343	672	その他借費	2,465	2,465	1,233	医療収支	32,735	20,510	14,911	A	
区分	27年度	28年度計画	28.9月末																																																										
延床者数（人）	4,277	4,210	2,196																																																										
病床利用率（%）	97.4	97.3	100.0																																																										
入院単価（円/人）	50,391	50,120	49,438																																																										
医療収益	215,524	212,805	108,565																																																										
入院収益	215,524	210,984	108,565																																																										
運営費負担金	0	1,821	0																																																										
医療費用	182,789	192,295	93,655																																																										
人件費	174,497	183,057	89,434																																																										
薬品費	3,389	3,791	1,750																																																										
診療材料費	1,115	1,640	567																																																										
減価償却費	1,343	1,343	672																																																										
その他借費	2,465	2,465	1,233																																																										
医療収支	32,735	20,510	14,911																																																										

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

No.	年度計画	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																																															
			26年度	27年度																																																	
第1 1 医療の提供 (ウ)	<p>小児重症心疾患患者に対し、24時間を通して高度な専門的治療を提供する体制の充実及び小児心疾患治療の先進的な施設としての専門医等の育成</p> <p>①小児重症心疾患患者へ24時間対応する専門的治療の提供体制の充実</p> <p>②小児循環器疾患治療スタッフに対する教育体制の充実や小児集中治療室(PICU)、新生児集中治療室(NICU)及び循環器集中治療室(CCU)の相互研修の実施を通じた治療レベルの向上による循環器センターの機能を強化</p> <p>③心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施</p> <p>④ハイブリッド手術の適用拡大</p> <p>⑤西3病室(3室)の準重症心疾患患者対応病室への改修</p>	<p>①CCUの体制維持</p> <p>②PICU、NICUとの連携、相互研修等を通じ機能を強化する。</p> <p>③継続実施と、対象施設拡大について検討する。</p> <p>④ハイブリッド手術の小児への適用症例拡大を検討する。</p> <p>⑤3室の間の仕切り壁を撤去し、準重症心疾患患者を管理する病室に改修する。</p>	<p>CCU診療実績 (単位：人、%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9末</th> </tr> <tr> <td>入院患者数</td> <td>3,553</td> <td>3,745</td> <td>1,632</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>87.2</td> <td>85.3</td> <td>83.6</td> </tr> </table> <p>心臓カテーテル治療実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>H28目標</th> <th>28.9末</th> </tr> <tr> <td>実施件数</td> <td>133</td> <td>156</td> <td>150</td> <td>86</td> </tr> </table> <p>ハイブリッド手術実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9末</th> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>7</td> </tr> </table> <p>・循環器病棟に準重症心疾患患者対応病室を設置した。</p> <p>・自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国2番目となる小児用補助人工心臓を導入した。</p>	区分	26年度	27年度	28.9末	入院患者数	3,553	3,745	1,632	病床稼働率	87.2	85.3	83.6	区分	26年度	27年度	H28目標	28.9末	実施件数	133	156	150	86	区分	26年度	27年度	28.9末	件数	6	12	7	<p>(実績に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの小児重症心疾患患者を受入れている。 ハイブリッド手術室では、月1回以上のペースで手術を行うとともに、心臓カテーテル治療件数も順調に推移している。 準重症心疾患患者対応病室を設置し、小児重症心疾患患者を受け入れる体制の拡充を図った。 小児用補助人工心臓を導入し、心臓移植が必要な小児患者の治療を移植直前まで可能とする体制を整備した。 																			
区分	26年度	27年度	28.9末																																																		
入院患者数	3,553	3,745	1,632																																																		
病床稼働率	87.2	85.3	83.6																																																		
区分	26年度	27年度	H28目標	28.9末																																																	
実施件数	133	156	150	86																																																	
区分	26年度	27年度	28.9末																																																		
件数	6	12	7																																																		
46	<p>地域の医療機関と連携したハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの維持・充実と新生児に対する高度な専門的治療を提供する体制の拡充</p> <p>①すべてのハイリスク出産に対応できるシステム作り</p> <p>②先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置のための機器整備</p> <p>③新生児集中治療室(NICU)における低侵襲手術の実施</p>	<p>①地域の産科医療機関との前方・後方連携を更に強化、症例検討会・研修会を通じ産科医の診断能力向上を図る。</p> <p>②最新式の超音波診断装置を導入する。</p> <p>③NICU内での低侵襲手術の継続</p>	<p>地域医療機関向け研修会等開催実績 (単位：回、人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9末</th> </tr> <tr> <td>研修会等回数</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>961</td> <td>743</td> <td>398</td> </tr> </table> <p>NICU診療実績 (単位：人、%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9末</th> </tr> <tr> <td>入院患者数</td> <td>5,410</td> <td>5,927</td> <td>3,186</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>98.8</td> <td>95.3</td> <td>96.7</td> </tr> </table> <p>新生児出生体重別入院患者実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <th>体重(g)</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9末</th> </tr> <tr> <td>500未満</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>500~1,000</td> <td>48</td> <td>26</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>1,000~1,500</td> <td>44</td> <td>36</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>1,500以上</td> <td>148</td> <td>160</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>242</td> <td>225</td> <td>117</td> </tr> </table>	区分	26年度	27年度	28.9末	研修会等回数	17	14	5	参加者数	961	743	398	区分	26年度	27年度	28.9末	入院患者数	5,410	5,927	3,186	病床稼働率	98.8	95.3	96.7	体重(g)	26年度	27年度	28.9末	500未満	2	3	5	500~1,000	48	26	16	1,000~1,500	44	36	14	1,500以上	148	160	82	合計	242	225	117	<p>(実績に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域医療機関を対象とした研修会、検討会を定期的に開催し、地域の周産期医療のレベルアップを図っている。 NICUの入院延患者数は増加傾向にある。 他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、極低出生体重児を数多く受け入れている。 	
区分	26年度	27年度	28.9末																																																		
研修会等回数	17	14	5																																																		
参加者数	961	743	398																																																		
区分	26年度	27年度	28.9末																																																		
入院患者数	5,410	5,927	3,186																																																		
病床稼働率	98.8	95.3	96.7																																																		
体重(g)	26年度	27年度	28.9末																																																		
500未満	2	3	5																																																		
500~1,000	48	26	16																																																		
1,000~1,500	44	36	14																																																		
1,500以上	148	160	82																																																		
合計	242	225	117																																																		
47	<p>小児がん診療の連携拠点病院として、高度な集学的治療への積極的な取組</p> <p>①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンの受入れなど、静岡県小児がん拠点病院としての機能強化</p> <p>②院内がん登録の推進</p> <p>③県立静岡がんセンターとの連携強化</p>	<p>・静岡県小児がん拠点病院として血液腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用し対応する。</p> <p>・小児がん連携拠点病院の指定を視野にいれた体制の強化</p> <p>・県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスの実施</p>	<p>血液腫瘍科延患者数実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9末</th> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>6,947</td> <td>9,613</td> <td>4,148</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>3,396</td> <td>3,533</td> <td>1,739</td> </tr> </table> <p>造血幹細胞移植実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9末</th> </tr> <tr> <td>骨髄移植</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>臍帯血</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>自家末梢血</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>同種末梢血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	26年度	27年度	28.9末	入院	6,947	9,613	4,148	外来	3,396	3,533	1,739	区分	26年度	27年度	28.9末	骨髄移植	9	4	1	臍帯血	1	0	1	自家末梢血	2	8	2	同種末梢血	1	1	0	計	13	13	4	<p>(実績に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成21年度に指定された静岡県小児がん拠点病院として、県内小児がん患者の半数以上を受入れ、固形がんについても脳神経外科等との連携のもと対応している。 がん登録の推進。 													
区分	26年度	27年度	28.9末																																																		
入院	6,947	9,613	4,148																																																		
外来	3,396	3,533	1,739																																																		
区分	26年度	27年度	28.9末																																																		
骨髄移植	9	4	1																																																		
臍帯血	1	0	1																																																		
自家末梢血	2	8	2																																																		
同種末梢血	1	1	0																																																		
計	13	13	4																																																		

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

No.	年度計画	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																																												
			26年度	27年度																																														
第1 1 医療の提供	24時間を通して重篤な小児救急患者を受け入れる体制の維持及び地域で不足する小児救急医療体制の補完等、小児救急医療のモデルとなる体制整備 ①院内各専門領域のパックアップによる、小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした小児救急医療全般にわたる受入体制の強化、拡充 ②小児救命救急センターとしてメディカルコントロール体制整備への協力 ③小児救急専門スタッフの教育の充実	・PICU（小児集中治療センター）・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。 ・小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした、365日24時間小児救急患者の受入可能な体制を維持、充実させる。 ・院内の小児救急専門スタッフ（医師、看護師）育成と院外からの研修受入	<table border="1"> <caption>PICU診療実績 (単位：人、%)</caption> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28.9月末</th></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>2,502</td><td>2,565</td><td>1,231</td></tr> <tr><td>病床稼働率</td><td>85.4</td><td>87.6</td><td>84.1</td></tr> </table> <table border="1"> <caption>ER診療実績 (単位：人)</caption> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28.9月末</th></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>1,734</td><td>1,716</td><td>687</td></tr> <tr><td>外来患者数</td><td>4,792</td><td>4,949</td><td>2,105</td></tr> </table> <table border="1"> <caption>ドクターヘリ搬送実績 (単位：回)</caption> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28.9月末</th></tr> <tr><td>回数</td><td>70</td><td>45</td><td>17</td></tr> </table> <table border="1"> <caption>ドクターカー出動実績 (単位：回)</caption> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28.9月末</th></tr> <tr><td>回数</td><td>313</td><td>268</td><td>131</td></tr> </table>	区分	26年度	27年度	28.9月末	入院患者数	2,502	2,565	1,231	病床稼働率	85.4	87.6	84.1	区分	26年度	27年度	28.9月末	入院患者数	1,734	1,716	687	外来患者数	4,792	4,949	2,105	区分	26年度	27年度	28.9月末	回数	70	45	17	区分	26年度	27年度	28.9月末	回数	313	268	131	A	(実績に対する評価) ・小児救命救急センターの指定を受けているPICUと小児救急センターを中心に、24時間365日を通して、軽症から重症まで小児救急患者を多く受け入れられている。 ・ER開設以降、富士富士宮、志太榛原等の救急患者が増加しており、地域で不足する小児救急体制を補完している。					
区分	26年度	27年度	28.9月末																																															
入院患者数	2,502	2,565	1,231																																															
病床稼働率	85.4	87.6	84.1																																															
区分	26年度	27年度	28.9月末																																															
入院患者数	1,734	1,716	687																																															
外来患者数	4,792	4,949	2,105																																															
区分	26年度	27年度	28.9月末																																															
回数	70	45	17																																															
区分	26年度	27年度	28.9月末																																															
回数	313	268	131																																															
50	患者の重症度に応じた地域の医療機関との機能分担を推進するため、地域の救急医療機関や消防機関との検討会を定期的開催する。	子どもの重症度に応じた地域の医療機関との機能分担を推進するため、地域の救急医療機関や消防機関との検討会を定期的開催する。	<table border="1"> <caption>H28救急関係研修会等開催実績 (単位：人)</caption> <tr><th>区分</th><th>対象</th><th>参加者数</th></tr> <tr><td>小児救命救急研究会</td><td>小児救急、救急医療関係者</td><td>80</td></tr> <tr><td>救急救命士再教育病院実習</td><td>救急救命士</td><td>4</td></tr> </table> <p>※H28.9末時点</p>	区分	対象	参加者数	小児救命救急研究会	小児救急、救急医療関係者	80	救急救命士再教育病院実習	救急救命士	4	A	(実績に対する評価) 救急隊員を対象とした研修会等を定期的に開催し、県下の小児救急医療の質の向上を図っている。																																				
区分	対象	参加者数																																																
小児救命救急研究会	小児救急、救急医療関係者	80																																																
救急救命士再教育病院実習	救急救命士	4																																																
51	子どものこころの診療分野の県内における中核的機能の発掘 ①子どもの精神科専門病棟を有する子ども病院としての強みを発掘 ②「子どもの心の診療ネットワーク事業」の拠点病院として、教育・福祉・医療機関の連携ネットワークの更なる拡大、充実 ③臨床研修の充実による児童精神科医の継続的育成	県内の児童精神科医療の中核機関として、外来・入院治療の充実を図る。	<table border="1"> <caption>こころの診療科診療実績 (単位：人)</caption> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28.9月末</th></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>10,546</td><td>9,455</td><td>5,035</td></tr> <tr><td>入院新患者数</td><td>44</td><td>54</td><td>23</td></tr> <tr><td>外来患者数</td><td>12,331</td><td>12,532</td><td>5,914</td></tr> <tr><td>外来初診患者数</td><td>5,540</td><td>492</td><td>226</td></tr> </table> <table border="1"> <caption>こころの診療科地域別実患者数実績 (単位：人)</caption> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28.9月末</th></tr> <tr><td>東部</td><td>715</td><td>732</td><td>604</td></tr> <tr><td>中部</td><td>1,034</td><td>1,094</td><td>882</td></tr> <tr><td>西部</td><td>53</td><td>52</td><td>43</td></tr> <tr><td>県外</td><td>11</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>合計</td><td>1,802</td><td>1,878</td><td>1,537</td></tr> </table>	区分	26年度	27年度	28.9月末	入院患者数	10,546	9,455	5,035	入院新患者数	44	54	23	外来患者数	12,331	12,532	5,914	外来初診患者数	5,540	492	226	区分	26年度	27年度	28.9月末	東部	715	732	604	中部	1,034	1,094	882	西部	53	52	43	県外	11	7	8	合計	1,802	1,878	1,537	A	(実績に対する評価) ・中部地域だけでなく、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れている。 (課題) 発達障害の受診が増大し、外来診療の負担増となっているため、発達小児科や神経科とともに、今後の診療体制を検討する必要がある。	
区分	26年度	27年度	28.9月末																																															
入院患者数	10,546	9,455	5,035																																															
入院新患者数	44	54	23																																															
外来患者数	12,331	12,532	5,914																																															
外来初診患者数	5,540	492	226																																															
区分	26年度	27年度	28.9月末																																															
東部	715	732	604																																															
中部	1,034	1,094	882																																															
西部	53	52	43																																															
県外	11	7	8																																															
合計	1,802	1,878	1,537																																															
52	厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県、静岡県、静岡県として参加する。	厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加する。	<table border="1"> <caption>H28精神保健講座等開催実績 (H28.9末時点)</caption> <tr><th>区分</th><th>対象</th><th>参加者数等</th></tr> <tr><td>精神保健講座</td><td>県内小中学校教諭</td><td>2回 59人</td></tr> <tr><td>児童養護施設巡回相談</td><td>子ども・家族</td><td>5回 5施設</td></tr> </table>	区分	対象	参加者数等	精神保健講座	県内小中学校教諭	2回 59人	児童養護施設巡回相談	子ども・家族	5回 5施設	A	(実績に対する評価) ・急増する子どもの心の心の問題に関するネットワーク構築のため、学校・地域との連携強化を図り、県内の小児精神保健ネットワークの中核的な役割を果たしている。																																				
区分	対象	参加者数等																																																
精神保健講座	県内小中学校教諭	2回 59人																																																
児童養護施設巡回相談	子ども・家族	5回 5施設																																																
53	児童精神科医の育成	児童精神科医の育成	<table border="1"> <caption>有期職員医師採用実績 (単位：人)</caption> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28.9月末</th></tr> <tr><td>採用人数</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> </table>	区分	26年度	27年度	28.9月末	採用人数	1	1	1	A	(実績に対する評価) 児童精神科臨床研修として有期職員医師を採用し、児童精神科医の育成を図っている。																																					
区分	26年度	27年度	28.9月末																																															
採用人数	1	1	1																																															

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																																																																																																																																																																																																																															
				業務の実績	業務の実績																																																																																																																																																																																																																																	
1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	54	業務運営に必要な人材の確保に努める。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">総合</th> <th colspan="2">H27.4.1</th> <th colspan="2">H28.4.1</th> <th colspan="2">H29予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区</td> <td>分</td> <td>H27.4.1</td> <td>H28.4.1</td> <td>H27.4.1</td> <td>H28.4.1</td> <td>H29予定</td> <td>H29予定</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td></td> <td>683</td> <td>748</td> <td>748</td> <td>766</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療技術者</td> <td></td> <td>211</td> <td>211</td> <td>211</td> <td>212</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td></td> <td>49</td> <td>49</td> <td>49</td> <td>53</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		総合		H27.4.1		H28.4.1		H29予定		区	分	H27.4.1	H28.4.1	H27.4.1	H28.4.1	H29予定	H29予定	看護師		683	748	748	766			医療技術者		211	211	211	212			事務		49	49	49	53			A	人材確保対策本部を設置し、キャラバン隊による県外養成校の訪問や広報活動の強化、看護師就業資金貸与制度の拡充等の多岐にわたる新たな取組を導入し、積極的な人材確保に努めた結果、28年度随時採用を含めて111名の看護師を採用した。																																																																																																																																																																																							
				総合		H27.4.1		H28.4.1		H29予定																																																																																																																																																																																																																												
区	分	H27.4.1	H28.4.1	H27.4.1	H28.4.1	H29予定	H29予定																																																																																																																																																																																																																															
看護師		683	748	748	766																																																																																																																																																																																																																																	
医療技術者		211	211	211	212																																																																																																																																																																																																																																	
事務		49	49	49	53																																																																																																																																																																																																																																	
55	研修医の確保に努める。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">総合</th> <th colspan="2">H27</th> <th colspan="2">H28</th> <th colspan="2">前年度増減 (H28-H27)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>師</td> <td>241</td> <td>245</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>師</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>師</td> <td>1,260</td> <td>1,317</td> <td>57</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>師</td> <td>324</td> <td>320</td> <td>-4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td></td> <td>118</td> <td>117</td> <td>-1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>1,947</td> <td>2,004</td> <td>57</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>師</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>師</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>-1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>31</td> <td>29</td> <td>-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>師</td> <td>135</td> <td>144</td> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>師</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>師</td> <td>683</td> <td>748</td> <td>65</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>師</td> <td>211</td> <td>211</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td></td> <td>49</td> <td>49</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>1,081</td> <td>1,156</td> <td>75</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>師</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>師</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>師</td> <td>114</td> <td>114</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>師</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td></td> <td>13</td> <td>13</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>165</td> <td>165</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>師</td> <td>94</td> <td>89</td> <td>-5</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>師</td> <td>461</td> <td>453</td> <td>-8</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>師</td> <td>86</td> <td>83</td> <td>-3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td></td> <td>28</td> <td>28</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>670</td> <td>654</td> <td>-16</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		総合		H27		H28		前年度増減 (H28-H27)		医師	師	241	245	4				歯科医師	師	4	5	1				看護師	師	1,260	1,317	57				医療技術	師	324	320	-4				事務		118	117	-1				計		1,947	2,004	57				看護師	師	2	2	0				医療技術	師	28	27	-1				計		31	29	-2				医師	師	135	144	9				歯科医師	師	3	4	1				看護師	師	683	748	65				医療技術	師	211	211	0				事務		49	49	0				計		1,081	1,156	75				医師	師	12	12	0				歯科医師	師			0				看護師	師	114	114	0				医療技術	師	26	26	0				事務		13	13	0				計		165	165	0				医師	師	94	89	-5				歯科医師	師	1	1	0				看護師	師	461	453	-8				医療技術	師	86	83	-3				事務		28	28	0				計		670	654	-16				A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>研修医の確保については、一般プログラム19名(1次募集14名、2次募集(継続中)3名、自治医2名)、産婦人科プログラム1名のマッチングとなっている。</p> <p>(課題)</p> <p>2年連続で2次募集を行っている。レジナビ等で当院のブースに来ていただいた学生を病院見学や採用試験の受験へ結びつけられるよう、積極的にコンタクトをとり効果的な採用活動を行う必要がある。</p>	<p>本部 総務班</p>
総合		H27		H28		前年度増減 (H28-H27)																																																																																																																																																																																																																																
医師	師	241	245	4																																																																																																																																																																																																																																		
歯科医師	師	4	5	1																																																																																																																																																																																																																																		
看護師	師	1,260	1,317	57																																																																																																																																																																																																																																		
医療技術	師	324	320	-4																																																																																																																																																																																																																																		
事務		118	117	-1																																																																																																																																																																																																																																		
計		1,947	2,004	57																																																																																																																																																																																																																																		
看護師	師	2	2	0																																																																																																																																																																																																																																		
医療技術	師	28	27	-1																																																																																																																																																																																																																																		
計		31	29	-2																																																																																																																																																																																																																																		
医師	師	135	144	9																																																																																																																																																																																																																																		
歯科医師	師	3	4	1																																																																																																																																																																																																																																		
看護師	師	683	748	65																																																																																																																																																																																																																																		
医療技術	師	211	211	0																																																																																																																																																																																																																																		
事務		49	49	0																																																																																																																																																																																																																																		
計		1,081	1,156	75																																																																																																																																																																																																																																		
医師	師	12	12	0																																																																																																																																																																																																																																		
歯科医師	師			0																																																																																																																																																																																																																																		
看護師	師	114	114	0																																																																																																																																																																																																																																		
医療技術	師	26	26	0																																																																																																																																																																																																																																		
事務		13	13	0																																																																																																																																																																																																																																		
計		165	165	0																																																																																																																																																																																																																																		
医師	師	94	89	-5																																																																																																																																																																																																																																		
歯科医師	師	1	1	0																																																																																																																																																																																																																																		
看護師	師	461	453	-8																																																																																																																																																																																																																																		
医療技術	師	86	83	-3																																																																																																																																																																																																																																		
事務		28	28	0																																																																																																																																																																																																																																		
計		670	654	-16																																																																																																																																																																																																																																		
56	即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">総合</th> <th colspan="2">H27</th> <th colspan="2">H28</th> <th colspan="2">前年度増減 (H28-H27)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>師</td> <td>241</td> <td>245</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>師</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>師</td> <td>1,260</td> <td>1,317</td> <td>57</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>師</td> <td>324</td> <td>320</td> <td>-4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td></td> <td>118</td> <td>117</td> <td>-1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>1,947</td> <td>2,004</td> <td>57</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>師</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>師</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>-1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>31</td> <td>29</td> <td>-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>師</td> <td>135</td> <td>144</td> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>師</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>師</td> <td>683</td> <td>748</td> <td>65</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>師</td> <td>211</td> <td>211</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td></td> <td>49</td> <td>49</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>1,081</td> <td>1,156</td> <td>75</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>師</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>師</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>師</td> <td>114</td> <td>114</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>師</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td></td> <td>13</td> <td>13</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>165</td> <td>165</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>師</td> <td>94</td> <td>89</td> <td>-5</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>師</td> <td>461</td> <td>453</td> <td>-8</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>師</td> <td>86</td> <td>83</td> <td>-3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td></td> <td>28</td> <td>28</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>670</td> <td>654</td> <td>-16</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		総合		H27		H28		前年度増減 (H28-H27)		医師	師	241	245	4				歯科医師	師	4	5	1				看護師	師	1,260	1,317	57				医療技術	師	324	320	-4				事務		118	117	-1				計		1,947	2,004	57				看護師	師	2	2	0				医療技術	師	28	27	-1				計		31	29	-2				医師	師	135	144	9				歯科医師	師	3	4	1				看護師	師	683	748	65				医療技術	師	211	211	0				事務		49	49	0				計		1,081	1,156	75				医師	師	12	12	0				歯科医師	師			0				看護師	師	114	114	0				医療技術	師	26	26	0				事務		13	13	0				計		165	165	0				医師	師	94	89	-5				歯科医師	師	1	1	0				看護師	師	461	453	-8				医療技術	師	86	83	-3				事務		28	28	0				計		670	654	-16				<p>看護師については、年5回の定時募集に加えて随時募集を年7回実施し、切れ目のない採用試験を実施している。また、総合病院においては紹介業者を通じて採用も合わせて行っている。</p> <p>A</p> <p>看護師試験については、定時募集に加えて、経験者随時募集を実施し、年間で切れ目のない募集を実施した。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報(WEB、情報誌等)、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋がっている。コマデイカル及び事務職員については、必要な職種について適時、募集を実施した。</p>	<p>本部 総務班</p>	
総合		H27		H28		前年度増減 (H28-H27)																																																																																																																																																																																																																																
医師	師	241	245	4																																																																																																																																																																																																																																		
歯科医師	師	4	5	1																																																																																																																																																																																																																																		
看護師	師	1,260	1,317	57																																																																																																																																																																																																																																		
医療技術	師	324	320	-4																																																																																																																																																																																																																																		
事務		118	117	-1																																																																																																																																																																																																																																		
計		1,947	2,004	57																																																																																																																																																																																																																																		
看護師	師	2	2	0																																																																																																																																																																																																																																		
医療技術	師	28	27	-1																																																																																																																																																																																																																																		
計		31	29	-2																																																																																																																																																																																																																																		
医師	師	135	144	9																																																																																																																																																																																																																																		
歯科医師	師	3	4	1																																																																																																																																																																																																																																		
看護師	師	683	748	65																																																																																																																																																																																																																																		
医療技術	師	211	211	0																																																																																																																																																																																																																																		
事務		49	49	0																																																																																																																																																																																																																																		
計		1,081	1,156	75																																																																																																																																																																																																																																		
医師	師	12	12	0																																																																																																																																																																																																																																		
歯科医師	師			0																																																																																																																																																																																																																																		
看護師	師	114	114	0																																																																																																																																																																																																																																		
医療技術	師	26	26	0																																																																																																																																																																																																																																		
事務		13	13	0																																																																																																																																																																																																																																		
計		165	165	0																																																																																																																																																																																																																																		
医師	師	94	89	-5																																																																																																																																																																																																																																		
歯科医師	師	1	1	0																																																																																																																																																																																																																																		
看護師	師	461	453	-8																																																																																																																																																																																																																																		
医療技術	師	86	83	-3																																																																																																																																																																																																																																		
事務		28	28	0																																																																																																																																																																																																																																		
計		670	654	-16																																																																																																																																																																																																																																		

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1 2	年度計画 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	No.	行動計画 就職説明会への参加や多角的な広報の実施などにより、必要な職員の確保を目指す。	業務の実績	28暫定 自己評価		備考																																																		
					説明																																																				
1 2	医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	57	就職説明会への参加や多角的な広報の実施などにより、必要な職員の確保を目指す。	<p>・合同就職説明会に参加し、機構受験者の確保に努めた。 ・新卒看護師向け求人誌への看護師募集記事の掲載を行った。 (H28の状況)</p> <table border="1"> <caption>看護学生向け就職説明会 (単位：人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>会場</th> <th>来場者</th> <th>うち受験者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナース専科 (浜松)</td> <td>57</td> <td>31</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>ナースナビ (新潟)</td> <td>290</td> <td>27</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>キャリアタスク看護 (東京)</td> <td>400</td> <td>40</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>マイナビ (浜松)</td> <td>35</td> <td>18</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護協会 (静岡)</td> <td>35</td> <td>11</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>聖隷クリストファー大学</td> <td>55</td> <td>35</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>静岡看護専門学校</td> <td>31</td> <td>29</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>東部看護専門学校</td> <td>280</td> <td>61</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>青森県立保健大学</td> <td>124</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>日本医療科学大学</td> <td>174</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>常葉大学</td> <td>180</td> <td>78</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,661</td> <td>336</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table>	区分	会場	来場者	うち受験者	ナース専科 (浜松)	57	31	3	ナースナビ (新潟)	290	27	0	キャリアタスク看護 (東京)	400	40	0	マイナビ (浜松)	35	18	0	看護協会 (静岡)	35	11	0	聖隷クリストファー大学	55	35	3	静岡看護専門学校	31	29	3	東部看護専門学校	280	61	7	青森県立保健大学	124	3	0	日本医療科学大学	174	3	1	常葉大学	180	78	18	計	1,661	336	35	<p>(実績に対する評価) 企業主催の説明会については、県外会場等、参加回数を増やし、より多くの看護学生と面接をすることができた。 また、養成校主催の説明会へも昨年に引き続き参加をし、今の学生の動向等をつかむことができた。</p> <p>A</p> <p>(課題) 面接した学生を試験へ結びつけられるよう、説明会後のフォローの充実を図り、より効果的な採用活動を行う。 また、看護師充足状況が比較的良好な地域における就職説明会に参加するなど、今後も、県外にも募集活動を拡げていく。</p> <p>本部 総務班</p>
区分	会場	来場者	うち受験者																																																						
ナース専科 (浜松)	57	31	3																																																						
ナースナビ (新潟)	290	27	0																																																						
キャリアタスク看護 (東京)	400	40	0																																																						
マイナビ (浜松)	35	18	0																																																						
看護協会 (静岡)	35	11	0																																																						
聖隷クリストファー大学	55	35	3																																																						
静岡看護専門学校	31	29	3																																																						
東部看護専門学校	280	61	7																																																						
青森県立保健大学	124	3	0																																																						
日本医療科学大学	174	3	1																																																						
常葉大学	180	78	18																																																						
計	1,661	336	35																																																						
		58	看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。	<table border="1"> <caption>看護師修学資金の状況 (単位：人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28見込</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決定</td> <td>74</td> <td>123</td> <td>88</td> <td>285</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>80</td> <td>98</td> <td>126</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>取消</td> <td>▲13</td> <td>▲16</td> <td>▲16</td> <td>▲45</td> </tr> <tr> <td>貸与計</td> <td>141</td> <td>205</td> <td>198</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>採用</td> <td>33</td> <td>79</td> <td>-</td> <td>112</td> </tr> <tr> <td>退職</td> <td>▲1</td> <td>▲1</td> <td>-</td> <td>▲2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H26	H27	H28見込	計	決定	74	123	88	285	継続	80	98	126	-	取消	▲13	▲16	▲16	▲45	貸与計	141	205	198	-	採用	33	79	-	112	退職	▲1	▲1	-	▲2	<p>(実績に対する評価) 一定数の募集が集まり、今後安定的な看護師確保が期待される。</p> <p>A</p> <p>(課題) 今年度の実績を踏まえ、効果的・効果的な周知等を行い看護師の確保につなげる。</p> <p>本部 総務班</p>																	
区分	H26	H27	H28見込	計																																																					
決定	74	123	88	285																																																					
継続	80	98	126	-																																																					
取消	▲13	▲16	▲16	▲45																																																					
貸与計	141	205	198	-																																																					
採用	33	79	-	112																																																					
退職	▲1	▲1	-	▲2																																																					
		59	看護師確保担当による養成校の訪問	<p>看護師確保担当を本部事務局に設置し、平成26・27年度において県内外の看護師養成校の訪問を行い、募集活動を行うとともに、情報収集を行った。</p> <p>また、平成27年度に、看護師人材確保会議において、看護師確保キャラバンを創設し、機構幹部(院長代理、副院長兼看護部長、副看護部長等)が、県外養成校を訪問した。</p> <p>平成28年度においても、引き続き、看護師確保キャラバンにより、県外養成校を訪問している。</p> <p><H28 看護師確保キャラバン隊の状況> <ul style="list-style-type: none"> ・H28. 2. 3～5 沖縄県 (8校) ・H28. 2. 17～19 鹿児島県 (12校) ・H28. 2. 24～26 岐阜県・三重県 (12校) ・H28. 4. 25～27 新潟県 (10校) ・H28. 5. 11～13 長野県・山梨県 (6校) </p> <p>A</p> <p>(実績に対する評価) 看護師確保担当や看護部長や看護師確保キャラバン隊が看護師養成校を訪問し、県立3病院等の特色や強み等をPRするともに、各養成校の学生の就職状況等について情報収集し、今後の採用活動に活かすことができた。</p> <p>(課題) 今後は、在職看護師の卒業校がある地域など人材確保が見込まれる地域の選定やPR方法等を検討する。</p> <p>本部 総務班</p>																																																					

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28年度 自己評価 説明	備考																																																																				
<p>1 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上</p> <p>2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上</p>	<p>60 看護師・その他医療従事者等の実習・アルバイトレッパイト研修等の受入れを推進する。</p>	<p>医師・アルバイト研修等の受入れ (H28.9末時点) (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="247 672 359 1187"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>研修生</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総 合</td> <td>13</td> <td>122</td> <td>7</td> <td>877</td> <td>42</td> <td>1,061</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>228</td> <td>23</td> <td>268</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>20</td> <td>23</td> <td>82</td> <td>243</td> <td>13</td> <td>381</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>44</td> <td>151</td> <td>89</td> <td>1,348</td> <td>78</td> <td>1,710</td> </tr> </tbody> </table> <p>・総合では、学生用電子カルテ、デスク等実習環境を整備し、「急性期だからこそ」の看護、実習を通して、学生が魅力を感じる医療現場となるよう対応した。</p> <p>・こどもでは、昨年度に引き続き、多くの実習生を受け入れ、精神科病院における看護のやりがい等を伝えた。</p> <p>・こども病院では、看護学生等実習受入れの更なる推進のため、看護師確保用DVDをリニューアルした。</p>	区 分	医師	医学生	看護師	看護学生	研修生	計	総 合	13	122	7	877	42	1,061	こども	11	6	0	228	23	268	こども	20	23	82	243	13	381	計	44	151	89	1,348	78	1,710	<p>研修医の海外研修への参加により、研修内容の充実を図ることができた。</p> <p>海外研修の主な実績 (H28.9末時点) (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="590 672 766 1187"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>内 容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総 合</td> <td>臨床研修医UCLA研修</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>海外学会(米国胸部疾患学会他)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>太平洋小児外科学会</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>アメリカ胸部外科学会定期学術集会</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>アメリカ心エコー学会</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>アジア太平洋循環器シンポジウム</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>アジア心臓血管画像学会</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>・海外の学会に治療実績等の発表を行い、技術力の高さを示した。</p> <p>海外での学会発表実績 (単位:件)</p> <table border="1" data-bbox="813 672 893 1187"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発表数</td> <td>20</td> <td>32</td> <td>45</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・海外研修の報告は、院内には定例医局会・院内連絡会で行われており、対外的には研修医募集のホームページに掲載している。</p>	区 分	内 容	人数	総 合	臨床研修医UCLA研修	6		海外学会(米国胸部疾患学会他)	3		太平洋小児外科学会	4		アメリカ胸部外科学会定期学術集会	2		アメリカ心エコー学会	3		アジア太平洋循環器シンポジウム	3		アジア心臓血管画像学会	2	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	発表数	20	32	45		<p>(実績に対する評価) 研修の受入に関しては、要請に応じた体制づくりや対応に努めている。こども病院のDVDは、次年度に看護学校や就職説明会等での配付を予定しており、病院の魅力のPRにより、看護師確保につなげる。</p> <p>(課題) 医師、看護師以外の職種についても、受け入れの体制を広げていく必要がある。</p>	各病院
区 分	医師	医学生	看護師	看護学生	研修生	計																																																																				
総 合	13	122	7	877	42	1,061																																																																				
こども	11	6	0	228	23	268																																																																				
こども	20	23	82	243	13	381																																																																				
計	44	151	89	1,348	78	1,710																																																																				
区 分	内 容	人数																																																																								
総 合	臨床研修医UCLA研修	6																																																																								
	海外学会(米国胸部疾患学会他)	3																																																																								
	太平洋小児外科学会	4																																																																								
	アメリカ胸部外科学会定期学術集会	2																																																																								
	アメリカ心エコー学会	3																																																																								
	アジア太平洋循環器シンポジウム	3																																																																								
	アジア心臓血管画像学会	2																																																																								
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度																																																																						
発表数	20	32	45																																																																							
<p>1 医師の卒後臨床研修の充実・強化等 ①研修医に選ばれた良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実</p> <p>2 医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実</p> <p>(1) ③県立総合病院メデイカルスキルアップセンターを活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一次・二次救命処置トレーニングの実施</p> <p>④県立こども病院ラーニングセンターの運用</p> <p>⑤国際交流の推進</p> <p>⑥認定看護師等の資格取得への支援</p> <p>⑦看護学生等に対する魅力的な実習の提供</p> <p>⑧コメディカル・事務職員の研修</p>	<p>61 ○医師の技術力の向上を目指し、海外研修等を奨励する。</p> <p>・医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。</p>	<p>・研修医や新人ナースは必ずメデイカルスキルアップセンターを使用している。医師の研修プログラムにシミュレーターを義務とするなどセンターの利用を取り入れ始めている。</p> <p>・外部利用について、使用規程、料金規程の案を作成し、運用開始した。</p> <p>メデイカルスキルアップセンター利用状況 (単位:回、人)</p> <table border="1" data-bbox="1133 672 1292 1187"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="3">27年度</th> <th colspan="3">28年度(9月まで)</th> </tr> <tr> <th>研修回数</th> <th>研修人数</th> <th>研修費用</th> <th>研修回数</th> <th>研修人数</th> <th>研修費用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>223</td> <td>503</td> <td>42</td> <td>270</td> <td>15</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>2,467</td> <td>3,359</td> <td>288</td> <td>1,484</td> <td>82</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>184</td> <td>290</td> <td>30</td> <td>108</td> <td>11</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>2,404</td> <td>2,959</td> <td>395</td> <td>2,148</td> <td>17</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>107</td> <td>163</td> <td>122</td> <td>74</td> <td>52</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>1,183</td> <td>2,343</td> <td>1,795</td> <td>1,400</td> <td>1,339</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	27年度			28年度(9月まで)			研修回数	研修人数	研修費用	研修回数	研修人数	研修費用	医師	223	503	42	270	15		参加人数	2,467	3,359	288	1,484	82		看護師	184	290	30	108	11		参加人数	2,404	2,959	395	2,148	17		その他	107	163	122	74	52		参加人数	1,183	2,343	1,795	1,400	1,339		<p>(実績に対する評価) 基本手技訓練用品等と実際に使うことで、医療技術の向上に寄与した。医師の研修プログラムへの取り込みも始まっている。</p> <p>(課題) 外部利用のいつその促進のためには、広報等の戦略を練る必要があるが、専任の管理者等がいいため、体制整備が必要。</p>	各病院															
区 分	27年度			28年度(9月まで)																																																																						
	研修回数	研修人数	研修費用	研修回数	研修人数	研修費用																																																																				
医師	223	503	42	270	15																																																																					
参加人数	2,467	3,359	288	1,484	82																																																																					
看護師	184	290	30	108	11																																																																					
参加人数	2,404	2,959	395	2,148	17																																																																					
その他	107	163	122	74	52																																																																					
参加人数	1,183	2,343	1,795	1,400	1,339																																																																					
<p>63 ラーニングセンターの運用手順の確定、活用を図る。</p>	<p>62</p>	<p>・研修医や新人ナースは必ずメデイカルスキルアップセンターを使用している。医師の研修プログラムにシミュレーターを義務とするなどセンターの利用を取り入れ始めている。</p> <p>・外部利用について、使用規程、料金規程の案を作成し、運用開始した。</p> <p>メデイカルスキルアップセンター利用状況 (単位:回、人)</p> <table border="1" data-bbox="1133 672 1292 1187"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="3">27年度</th> <th colspan="3">28年度(9月まで)</th> </tr> <tr> <th>研修回数</th> <th>研修人数</th> <th>研修費用</th> <th>研修回数</th> <th>研修人数</th> <th>研修費用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>223</td> <td>503</td> <td>42</td> <td>270</td> <td>15</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>2,467</td> <td>3,359</td> <td>288</td> <td>1,484</td> <td>82</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>184</td> <td>290</td> <td>30</td> <td>108</td> <td>11</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>2,404</td> <td>2,959</td> <td>395</td> <td>2,148</td> <td>17</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>107</td> <td>163</td> <td>122</td> <td>74</td> <td>52</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>1,183</td> <td>2,343</td> <td>1,795</td> <td>1,400</td> <td>1,339</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	27年度			28年度(9月まで)			研修回数	研修人数	研修費用	研修回数	研修人数	研修費用	医師	223	503	42	270	15		参加人数	2,467	3,359	288	1,484	82		看護師	184	290	30	108	11		参加人数	2,404	2,959	395	2,148	17		その他	107	163	122	74	52		参加人数	1,183	2,343	1,795	1,400	1,339		<p>(実績に対する評価) 医師や看護師を対象とした研修で活用している。</p> <p>(課題) 計画的な運用手順を決定する必要がある。</p>	各病院															
区 分	27年度			28年度(9月まで)																																																																						
	研修回数	研修人数	研修費用	研修回数	研修人数	研修費用																																																																				
医師	223	503	42	270	15																																																																					
参加人数	2,467	3,359	288	1,484	82																																																																					
看護師	184	290	30	108	11																																																																					
参加人数	2,404	2,959	395	2,148	17																																																																					
その他	107	163	122	74	52																																																																					
参加人数	1,183	2,343	1,795	1,400	1,339																																																																					

中期計画 第1 泉民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置

第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																																				
				総合	海外視察・講演等の派遣・受入 (単位:件) 25年度 26年度 27年度 28.9月末 視察・講演等派遣 4 1 4 0 視察・研修等受入 15 13 10 4																																						
1 2 (1)	医師の卒後臨床研修の充実・強化等 ①研修医に選ばれる良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実 ②医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実 ③県立総合病院メディアイカラスキリアップセンターを活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一次、二次救命処置トレーニングの実施 ④県立こども病院ラーニングセンターの運用 ⑤国際交流の推進 ⑥認定看護師等の資格取得への支援 ⑦看護学生等に対する魅力的な実習の提供 ⑧コメディカル・事務職員の研修	64	海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。	総合	海外視察・講演等の派遣・受入 (単位:件) 25年度 26年度 27年度 28.9月末 視察・講演等派遣 4 1 4 0 視察・研修等受入 15 13 10 4	A	(実績に対する評価) 日本と海外の医療交流ができた。リーダーデイホスピタルとしての医療貢献ができた。 (課題) 英訳した県総案内パンフレットの整備																																				
		65	○看護師及びその他の医療従事者スキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 ・認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充すること、資格取得者の増員を図る。	総合	<ul style="list-style-type: none"> 専門看護師:がん看護1名、急性・重症患者看護1名、慢性期疾患看護1名、がん看護1名 認定看護師:救急看護2名、皮膚、排泄ケア1名、手術看護1名、乳がん看護2名、緩和ケア1名、集中ケア2名、透析看護1名、がん化学療法看護1名、感染管理1名、脳卒中リハビリテーション1名、精神看護1名 指導薬剤師1名、日本医療薬学会認定薬剤師3名、認定実務実習指導薬剤師9名、がん薬物療法認定薬剤師3名、感染制御認定薬剤師2名、妊婦・産婦薬物療法認定薬剤師1名、がん専門薬剤師5名、栄養サポートチーム専門栄養士2名、抗がん剤学療法認定薬剤師3名、認定CRC2名、禁煙認定専門指導者3名、緩和薬物療法認定薬剤師1名、小児薬物療法認定薬剤師1名、がん指導薬剤師1名、糖尿病療養指導士1名、薬物療法指導薬剤師1名 専門理学療法士2名(通動器・内部障害理学療法の両方1名、内部障害理学療法1名)、日本心臓リハビリテーション指導士3名、放射線治療専門技師2名、放射線治療品質管理士1名、PET認定放射線技師8名、救急撮影認定技師5名 	A	(実績に対する評価) 感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置し、組織を横断的に活動することができた。 また、資格取得を更に推奨・支援するため、平成26年度より資格等取得資金貸付制度を創設し、以除、認定看護師2名、精神認定看護師1名が利用した。 (課題) 今後は各病院で必要とする認定看護師等の区分と職員が希望する区分についてマッチングを行う。																																				
1 2 (1)	医師の卒後臨床研修の充実・強化等 ①研修医に選ばれる良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実 ②医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実 ③県立総合病院メディアイカラスキリアップセンターを活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一次、二次救命処置トレーニングの実施 ④県立こども病院ラーニングセンターの運用 ⑤国際交流の推進 ⑥認定看護師等の資格取得への支援 ⑦看護学生等に対する魅力的な実習の提供 ⑧コメディカル・事務職員の研修	66	臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。	総合	実習・アパレルバリエーション研修等の受入れ (H28.9月末時点) (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学学生</th> <th>看護学生</th> <th>看護士</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>13</td> <td>122</td> <td>7</td> <td>877</td> <td>42</td> <td>1,061</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>228</td> <td>23</td> <td>268</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>20</td> <td>23</td> <td>82</td> <td>243</td> <td>13</td> <td>381</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>44</td> <td>151</td> <td>89</td> <td>1,348</td> <td>78</td> <td>1,710</td> </tr> </tbody> </table>	区分	医師	医学学生	看護学生	看護士	コメディカル	計	総合	13	122	7	877	42	1,061	こども	11	6	0	228	23	268	こども	20	23	82	243	13	381	計	44	151	89	1,348	78	1,710	A	(実績に対する評価) 研修の受入に関しては、要請に応じた体制づくりや対応に努めている。 (課題) 医師、看護師以外の職種についても、受け入れの体制を広げていく必要がある。	各病院
		区分	医師	医学学生	看護学生	看護士	コメディカル	計																																			
総合	13	122	7	877	42	1,061																																					
こども	11	6	0	228	23	268																																					
こども	20	23	82	243	13	381																																					
計	44	151	89	1,348	78	1,710																																					
1 2 (1)	医師の卒後臨床研修の充実・強化等 ①研修医に選ばれる良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実 ②医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実 ③県立総合病院メディアイカラスキリアップセンターを活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一次、二次救命処置トレーニングの実施 ④県立こども病院ラーニングセンターの運用 ⑤国際交流の推進 ⑥認定看護師等の資格取得への支援 ⑦看護学生等に対する魅力的な実習の提供 ⑧コメディカル・事務職員の研修	67	研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	総合	平成25年度採用から従来の一般プログラムに加え、小児科プログラムを追加し、平成26年度からはさらさら産婦人科プログラムを追加した結果、一般・小児科・産婦人科の3プログラムを有することになった。これにより県内でも不足している小児科医および産婦人科医の確保に努めている。	A																																					

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28暫定 自己評価		備考																																																																						
					説明	説明																																																																							
1 2 (2)	就労環境の向上 ①ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定 ②医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ③職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討 ④職員が働きやすい施設等の環境整備 ⑤県立こども病院院内保育所建替計画の策定	68	柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務条件の設定を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮し、患者に必要な医療を適切に提供するとともに、経営改善及び職員の勤務条件の改善に取り組んだ。 看護師の2交代制勤務については、労働組合と合意し、県立総合病院において平成23年8月1日から制度化した。また、平成23年11月から県立こども病院において試行を開始し、平成24年4月より正式に制度化した。平成24年9月から県立こどもの医療センターにおいて試行を開始し、平成25年11月1日から制度化した。 その後、実施病棟を拡大し、平成28年度10月末で、総合病院16病棟、こどもの医療センター3病棟、こども病院9病棟となっている。 総合病院の救命救急センター開設(平成25年7月)、こども病院の小児ERの開設(平成25年6月)に合わせて、それぞれに医師の変則勤務の試行を開始し、当直医師の負担軽減を図った。 	<p>(実績に対する評価)</p> <p>県立総合病院、県立こども病院、県立こどもの医療センターにおいて2交代勤務を制度化し、実施病棟の拡大を図っている。</p> <p>総合病院、こども病院において救急体制拡充に伴い、医師の変則勤務の試行を開始し運用しているところ。</p> <p>また、新たな職員採用制度を設け、優秀な有期職員等を新しい給与体系で正規職員に登用することとした。</p> <p>(課題)</p> <p>人材の確保、職員にとっても働きやすい労働環境の整備等の観点から、多様な勤務形態の導入を検討していくなかで、看護師の夜勤専従について、平成25年12月から、こども病院において試行を開始し、平成27年9月9日から、総合病院において試行を開始したが、今後運用方法等について検討する必要がある。</p>	総務班																																																																							
69	医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境を整備や業務多忙を解消するため、医療秘書・助手等を効果的に配置する。	<p>補助職員の配置状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H27</th> <th>H28.11</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>55</td> <td>66</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>80</td> <td>80</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>153</td> <td>164</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>45</td> <td>45</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>75</td> <td>86</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>110</td> <td>110</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>210</td> <td>221</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	H27	H28.11	増減	総合	55	66	13	医師事務補助	80	80	10	看護助手	18	18	1	コメディカル助手	153	164	24	小計	2	2	0	医師事務補助	8	8	0	看護助手	2	2	0	コメディカル助手	12	12	0	小計	18	18	0	医師事務補助	22	22	0	看護助手	5	5	0	コメディカル助手	45	45	0	小計	75	86	11	医師事務補助	110	110	0	看護助手	25	25	0	コメディカル助手	210	221	11	小計				<p>平成26年10月より看護師監督者層を対象とした勤務成績評価制度の試行を開始した。</p> <p>看護師監督者層(看護部長、副看護部長、副看護部長)</p> <p>平成27年度は、対象をコメディカル監督者層及び事務職員(派遣職員)、管理者層に拡大し、試行した。</p> <p>平成28年度は、対象を看護師、コメディカル及び事務職員(プロパー)の副主任以上とし、試行した。</p>	<p>医療秘書等の配置については、電子カルテの導入業務等、事務負担軽減の効果が確認されている。</p> <p>総合では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて医師事務作業補助者を増員し、医療従事者が診療に専念できるように配置している。診療報酬においては、最上位基準を維持している。</p> <p>また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。</p>	本部 総務班
区分	H27	H28.11	増減																																																																										
総合	55	66	13																																																																										
医師事務補助	80	80	10																																																																										
看護助手	18	18	1																																																																										
コメディカル助手	153	164	24																																																																										
小計	2	2	0																																																																										
医師事務補助	8	8	0																																																																										
看護助手	2	2	0																																																																										
コメディカル助手	12	12	0																																																																										
小計	18	18	0																																																																										
医師事務補助	22	22	0																																																																										
看護助手	5	5	0																																																																										
コメディカル助手	45	45	0																																																																										
小計	75	86	11																																																																										
医師事務補助	110	110	0																																																																										
看護助手	25	25	0																																																																										
コメディカル助手	210	221	11																																																																										
小計																																																																													
70	看護師、コメディカル、事務職員に対する勤務成績評価制度の試行対象者の拡大	<p>平成26年度は、保育所運営協議会において、運用上の課題等を明確にすることで、より就労環境の向上となるよう努めた。</p> <p>院内保育所運営協議会において、二重保育や入所基準等について、現在抱えている課題を検討し、運営の向上を図った。</p> <p>こども病院院内保育所は、院内保育所建替えの準備や運営方針の見直し等を行っている</p> <p>(宿舎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合病院では、医師確保対策を更に推進するため、医師宿舎新築の準備を進めた。 こども病院では、宿舎F棟改修に係る実施設計を施行した。(H28年度工事予定) 	<p>平成26年度の看護師監督者層の試行後、対象者へのアンケートを実施し、その結果を踏まえて試行を再開した。</p> <p>また、コメディカル、事務職員へと順調に対象を拡大して試行している。</p>	本部 総務班																																																																									
71	就労環境の改善に向けた院内施設の充実に資する検討を進める。				<p>(実績に対する評価)</p> <p>医師・看護師を確保するため、就労環境の向上を目指し、医師・看護師宿舎、院内保育所の運用を行った。</p> <p>引き続き、総合病院院内保育所定員枠の拡大やこども病院院内保育所の建替えなどを検討し、就労環境の向上に取り組んでいく。</p>	本部 企画・情報班																																																																							

中期計画 第1 泉民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明		備考
				こと も	こと も	A	A	
1 2 (2)	<p>疲労環境の向上</p> <p>①ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定</p> <p>②医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備</p> <p>③職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討</p> <p>④職員が働きやすい施設等の環境整備</p> <p>⑤県立ことども病院院内保育所建替計画の策定</p>	72	院内保育所建替え・運営方針の策定	<p>ことども</p> <p>・研修医の海外研修への参加により、研修内容の充実を図ることができた。</p>	<p>A</p> <p>(実績に対する評価) 運営方針を決定し、計画を着実に進めている。 (課題) 今後の設計・建築にあたり、病院及び保育所の敷地が市街地調整区域のため、市と協議し開発許可を得る必要がある。</p>			
	<p>知識や技術の普及</p> <p>①学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり</p> <p>②認定看護師等の資格保有者の活用</p> <p>③県内の医療従事者への教育研修機能の開放</p>	73	<p>総合</p> <p>研究雑誌や研究旅費等の予算化等により学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持する。</p>	<p>総合</p> <p>・海外の学会に治療実績等の発表を行い技術力の高さを示した。 ・海外研修の報告は、院内には定例医局会・院内連絡会で行われており、対外的には研修医募集のホームページに掲載している。</p>	<p>A</p> <p>(実績に対する評価) 医師を対象とした「研究事業費」を充実し、研究や海外研修に必要な予算・制度を整えている。 (課題) 医師不足、多忙化のため、制度の活用がまだ十分になされていない。 研修内容を充実させるためには、専任の教育担当が必要である。</p>			
				<p>医学研究奨励事業 1件</p>		<p>A</p> <p>(実績に対する評価) 精神科医療各分野における研究を奨励すること、病院全体のレベルアップに寄与した。</p>		
				<p>研究研修費を活用し、職員を積極的に学会や研修会等に参加させている。</p>		<p>A</p> <p>(実績に対する評価) 各職員が学会や研修会等に参加して知識や技術を習得すること、病院全体のレベルアップに寄与している。</p>		

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																																	
				業務の実績	業務の実績																																			
2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	1 知識や技術の普及 ①学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ②認定看護師等の資格保有者の活用 ③県内の医療従事者への教育研修機能の開放	74	院内における資格取得者の活用を促進する。	<p>看護師、コメディカル、事務が業務を実施するうえで、有用な資格等の取得を支援し、職員のレベルアップを図る。</p> <p>資格等取得助成制度利用者 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28、9未</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>10</td> <td>17</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>13</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>24</td> <td>23</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>			H26	H27	H28、9未	看護師	10	17	2	コメディカル	13	6	2	事務	1			計	24	23	4	A	資格等取得助成制度は、平成24年度から開始し、毎年度一定数の利用者があり、資格劣取得者の増員とともに、職員のモチベーションアップに寄与している。	本部 総務班												
					H26	H27	H28、9未																																	
看護師	10	17	2																																					
コメディカル	13	6	2																																					
事務	1																																							
計	24	23	4																																					
<p>こころ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28、9未</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>26</td> <td>16</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>29</td> <td>16</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>こども</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28、9未</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>37</td> <td>33</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>16</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>54</td> <td>40</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>		H26	H27	H28、9未	看護師	1	1		コメディカル	26	16	1	事務	3			計	29	16	1		H26	H27	H28、9未	看護師	37	33	3	コメディカル	16	6	2	事務	1	1	0	計	54	40	5
	H26	H27	H28、9未																																					
看護師	1	1																																						
コメディカル	26	16	1																																					
事務	3																																							
計	29	16	1																																					
	H26	H27	H28、9未																																					
看護師	37	33	3																																					
コメディカル	16	6	2																																					
事務	1	1	0																																					
計	54	40	5																																					
		75	地域の医療機関等の看護師、保健師への実習研修を継続実施する。	<p>実習研修受入れ実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28、9未</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入数</td> <td>309</td> <td>391</td> <td>252</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28、9未	受入数	309	391	252	A	(実績に対する評価) 看護部が中心となり、院内関係部署の調整・研修プログラムを準備し、増加する実習希望に対応している。																										
区分	26年度	27年度	28、9未																																					
受入数	309	391	252																																					
		76	講演会やセミナーなどを開催する。	<p>公開講演会開催実績 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28目標</th> <th>28、9未</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催件数</td> <td>18</td> <td>17</td> <td>12</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H26	H27	H28目標	28、9未	開催件数	18	17	12	17	A	(実績に対する評価) 講演会、症例検討会を定期的に開催した。職員のみならず院外の医療従事者に対して知識や技術の普及を行っている。 (課題) 外部への戦略的な広報。																								
区分	H26	H27	H28目標	28、9未																																				
開催件数	18	17	12	17																																				
				<p>公開講演会開催実績 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>H28目標</th> <th>28、9未</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催件数</td> <td>22</td> <td>23</td> <td>12</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	H28目標	28、9未	開催件数	22	23	12	6	A	(実績に対する評価) オープンセミナー、講演会等を定期的に開催するとともに、別室での映像配信やDVDの配付等を行い、会場の収容人数を超える参加希望者に対応している。																								
区分	26年度	27年度	H28目標	28、9未																																				
開催件数	22	23	12	6																																				

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																																													
				内容	実績																																															
3	医療に関する調査及び研究	77	<ul style="list-style-type: none"> 研究室スペースを確保し、研究員を迎える。 研究資金となる奨学寄附金を受入れる。 県立大学との共同研究を行う。 	<p>業務の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合病院循環器病センター6階に県立大学薬学部臨床薬学教室、臨床薬効解析学教室の2つの教室、薬剤部内に医薬品情報解析学教室が設置され、総合病院薬剤部との共同研究を行う体制を取っている。 北館6階に、臨床医学研究センターを設置。 平成27年度から客員研究員の受入れを開始し、研究のサポートを実施。 H27客員研究員の受入れ数 4名 H28客員研究員の受入れ数 2名 奨学寄附金の利用状況 	<p>平成28年度 奨学寄附金受入れ実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>金額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>腸胃消化器科の診療に関する研究</td> <td>1,900,000</td> </tr> <tr> <td>透析患者の管理に関する研究</td> <td>200,000</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業株</td> <td>1,900,000</td> </tr> <tr> <td>第一三共薬東海支店</td> <td>500,000</td> </tr> <tr> <td>アストラゼネカ株</td> <td>1,000,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,600,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成27年度 奨学寄附金受入れ実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>金額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大正富山医薬品株</td> <td>500,000</td> </tr> <tr> <td>協和発酵キリン株</td> <td>200,000</td> </tr> <tr> <td>第一三共株式会社</td> <td>500,000</td> </tr> <tr> <td>田辺三菱製薬株式会社</td> <td>200,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,400,000</td> </tr> </tbody> </table>	目的	金額(円)	腸胃消化器科の診療に関する研究	1,900,000	透析患者の管理に関する研究	200,000	小野薬品工業株	1,900,000	第一三共薬東海支店	500,000	アストラゼネカ株	1,000,000	合計	4,600,000	目的	金額(円)	大正富山医薬品株	500,000	協和発酵キリン株	200,000	第一三共株式会社	500,000	田辺三菱製薬株式会社	200,000	合計	1,400,000	<p>研究の一部は国内外へ論文発表が行われる等、共同研究の成果が確認できる。院外から客員研究員を迎える体制を整備し、研究機能の強化を行っている。</p>																				
				目的	金額(円)																																															
腸胃消化器科の診療に関する研究	1,900,000																																																			
透析患者の管理に関する研究	200,000																																																			
小野薬品工業株	1,900,000																																																			
第一三共薬東海支店	500,000																																																			
アストラゼネカ株	1,000,000																																																			
合計	4,600,000																																																			
目的	金額(円)																																																			
大正富山医薬品株	500,000																																																			
協和発酵キリン株	200,000																																																			
第一三共株式会社	500,000																																																			
田辺三菱製薬株式会社	200,000																																																			
合計	1,400,000																																																			
				<p>総合</p>	A																																															
3	診療等の情報の活用 ①診療情報等の分析 ②収支実績を部門別に随時把握できるシステムの利用	78	<ul style="list-style-type: none"> 医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。 臨床試験管理センターによる臨床研究の支援を行う。 	<p>医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円、件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">H28 予算</th> <th rowspan="2">28.9月末</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>金額</th> <th>件数</th> <th>金額</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>29</td> <td>86,805</td> <td>29</td> <td>85,762</td> <td>31</td> <td>72,431</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>185</td> <td>1,139</td> <td>24</td> <td>315</td> <td>27</td> <td>22</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>215</td> <td>1,226</td> <td>58</td> <td>1,157</td> <td>59</td> <td>74</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度		27年度		H28 予算		28.9月末	件数	金額	件数	金額	件数	金額	総合	29	86,805	29	85,762	31	72,431	27	こころ	1	1	5	1	1	1	0	こども	185	1,139	24	315	27	22	0	合計	215	1,226	58	1,157	59	74	27	<p>(実績に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。 治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。 市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。 	各病院
				区分		26年度		27年度		H28 予算			28.9月末																																							
件数	金額	件数	金額		件数	金額																																														
総合	29	86,805	29	85,762	31	72,431	27																																													
こころ	1	1	5	1	1	1	0																																													
こども	185	1,139	24	315	27	22	0																																													
合計	215	1,226	58	1,157	59	74	27																																													
				<p>総合</p>	A																																															
3	診療等の情報の活用 ①診療情報等の分析 ②収支実績を部門別に随時把握できるシステムの利用	79	<p>DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。</p>	<p>DPC分析ソフトを用いて、特定の症例について分析を行い、後発品への切替や、抗生剤の使用量や量について提案を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> アナライザ、ダッシュボードを用いて、後発医薬品の使用率の算出を実現した。 	<p>(実績に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ダッシュボードを用いて、市中肺炎分析を行い、抗生剤の使用量や金額について情報提供を行った。後発品使用率94%達成に寄与した。 (課題) 今後は、プロパー職員のスキルアップを図り、より精緻で実用的な分析を行う。 																																															
				<p>総合</p>	A																																															
3	診療等の情報の活用 ①診療情報等の分析 ②収支実績を部門別に随時把握できるシステムの利用	80	<p>DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックするため、診療情報の管理体制を整備する。</p>	<p>DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位：回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28.9月末	開催回数	2	2	1	出席者数	19	23	15	<p>(実績に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部会兼委員会の委員を各部門の職員から構成し、必要な情報を各診療へフィードバックすることにより、診療情報の管理体制を整えている。 今後も診療情報を活用していくため、引き続き職員のスキルアップが必要である。 																																			
				区分	26年度	27年度	28.9月末																																													
開催回数	2	2	1																																																	
出席者数	19	23	15																																																	
				<p>総合</p>	A																																															

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1 3 医療に関する調査及び研究	I 3 (3)	年度計画 県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供	No.	行動計画 県民向けイベントへの開催や参加に努める。	業務の実績	28暫定 自己評価		備考																																												
						説明																																														
			83	県民向けイベントへの開催や参加に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県立総合病院の機能 設備 職員の姿を知ってもらおうことにより、県民に開かれた病院であることを示しながら、本院の存在意義をより理解してもらうことを目的として、県民向け病院開放イベント「オープンホスピタル」を開催した。 平成28年7月30日 来場者約1,200名 ・県民の日に合わせて、「県民の日講演会」を8/21に開催した。 	A	オープンホスピタルを開催し、好評を得た。																																													
			84	県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各病院の医療情報やトピックスを県民等に向けてできるだけ早く情報提供するため、各病院ホームページを適時更新するとともに、入札情報や機構への就職希望者向けの情報などを適時更新するなど、ホームページの活用を図った。 ・平成26年度にホームページのリニューアルを行い、平成28年度も引き続き情報を見つけやすくするようページ作りを工夫している。 	A	(実績に対する評価) 多くの来場者に当院をPRすることができた。	(実績に対する評価) 病院トップページの写真の変更やトピックスの更新など、積極的にホームページの更新を行った。機構全体で、情報提供は着実に推進している。																																												
		県民への情報提供の充実 ③報道機関等への情報発信	85	県民に病院の運営にかかわる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	<p>最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、県政記者クラブへ積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">セクション別アクセス件数 (単位：件)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>27.9月末</th> <th>28.9月末</th> <th>前年同期比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部</td> <td>271,467</td> <td>160,590</td> <td>120,929</td> <td>75.3%</td> </tr> <tr> <td>総合病院</td> <td>1,935,315</td> <td>993,075</td> <td>967,302</td> <td>97.4%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>279,546</td> <td>147,681</td> <td>142,203</td> <td>96.3%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,519,362</td> <td>798,404</td> <td>757,980</td> <td>94.9%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,005,690</td> <td>2,099,750</td> <td>1,988,414</td> <td>94.7%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">記者情報提供件数 (単位：件)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>27.9月末</th> <th>28.9月末</th> <th>前年同期比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提供件数</td> <td>41</td> <td>18</td> <td>23</td> <td>128%</td> </tr> </tbody> </table>	セクション別アクセス件数 (単位：件)		区分	27年度	27.9月末	28.9月末	前年同期比	本部	271,467	160,590	120,929	75.3%	総合病院	1,935,315	993,075	967,302	97.4%	こども	279,546	147,681	142,203	96.3%	合計	1,519,362	798,404	757,980	94.9%	合計	4,005,690	2,099,750	1,988,414	94.7%	記者情報提供件数 (単位：件)		区分	27年度	27.9月末	28.9月末	前年同期比	提供件数	41	18	23	128%	A	(実績に対する評価) 県政記者クラブへの提供23件のうち、メディアに掲載された話題は14件(約61%)だった。 テレビ・新聞等において、報道、掲載が多数あり、情報提供は着実に推進している。	本部 企画・情報班
セクション別アクセス件数 (単位：件)																																																				
区分	27年度	27.9月末	28.9月末	前年同期比																																																
本部	271,467	160,590	120,929	75.3%																																																
総合病院	1,935,315	993,075	967,302	97.4%																																																
こども	279,546	147,681	142,203	96.3%																																																
合計	1,519,362	798,404	757,980	94.9%																																																
合計	4,005,690	2,099,750	1,988,414	94.7%																																																
記者情報提供件数 (単位：件)																																																				
区分	27年度	27.9月末	28.9月末	前年同期比																																																
提供件数	41	18	23	128%																																																

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1 4 医療に関する 地域への 支援	I 4 (1)	年度計画 本県の医師確保対策への取組 ①県の医師派遣事業への協力 ②県の医師派遣事業に必要な医師必 要数の見直し ③「ふじのくに」機能の一部である医師献 労等 相談窓口業務などを受託・運営 ④新専門医認定制度への対応	No. 86	行動計画 地域医療支援病院としての使命を果た すため、医師を確保したうえで、医師 不足が顕著な公的病院に医師を派遣す る。	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																		
					医師派遣実績	医師派遣実績 (公的病院)																				
			総合		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">医師派遣実績 (単位:機関、科、人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>701</td> <td>775</td> <td>258</td> </tr> </tbody> </table>	医師派遣実績 (単位:機関、科、人)		区分	26年度	27年度	28.9月末	医療機関	11	10	8	診療科	12	9	6	延人員数	701	775	258	A	医師派遣の要望は依然として各病院から寄せられており、当院としても適切に対応していく。	
医師派遣実績 (単位:機関、科、人)																										
区分	26年度	27年度	28.9月末																							
医療機関	11	10	8																							
診療科	12	9	6																							
延人員数	701	775	258																							
			こども		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">医師派遣実績 (単位:機関、科、人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>662</td> <td>958</td> <td>425</td> </tr> </tbody> </table> <p>・障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たしている。</p>	医師派遣実績 (単位:機関、科、人)		区分	26年度	27年度	28.9月末	医療機関	4	7	6	診療科	1	2	2	延人員数	662	958	425	A	(実績に対する評価) ・静岡市立静岡病院、静岡済生会総合病院、徳島市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市立市民病院、富士宮市立病院に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援している。 ・公的病院だけでなく、県の要請に基づき、障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たしている。	
医師派遣実績 (単位:機関、科、人)																										
区分	26年度	27年度	28.9月末																							
医療機関	4	7	6																							
診療科	1	2	2																							
延人員数	662	958	425																							
			こども		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">医師派遣実績 (急病センター) (単位:機関、科、人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>313</td> <td>292</td> <td>145</td> </tr> </tbody> </table>	医師派遣実績 (急病センター) (単位:機関、科、人)		区分	26年度	27年度	28.9月末	医療機関	2	2	2	診療科	2	2	2	延人員数	313	292	145	A	(実績に対する評価) 静岡市急病センター、志太藤原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援している。	
医師派遣実績 (急病センター) (単位:機関、科、人)																										
区分	26年度	27年度	28.9月末																							
医療機関	2	2	2																							
診療科	2	2	2																							
延人員数	313	292	145																							
			総合		<p>他院や各医局と連携し、地域医療に必要な医師の確保に努めている。</p>	A	医療機能を発揮するために必要な医師を確保する必要がある。																			
			88		<p>・各科医師必要数を見直しする。 ・静岡県の地域医療を支援していただくために必要な医師数の検討を進める。</p>																					
			89		<p>・ふじのくにに地域医療支援センター機能の一部である業務を受託、運営する。</p>	A	(実績に対する評価) 業務を受託し、県の医師確保施策に寄与できるよう取り組んでいる。	本部 企画・ 情報班																		

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

備考	28暫定 自己評価		業務の実績	行動計画	No.	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28暫定 自己評価	備考																									
	説明																																			
第1 4 医療に関する 地域への 支援	1 4 (1)	本県の医師確保対策への取組 ①県の医師派遣事業への協力 ②県の医師派遣事業に必要な医師必要数の見直し ③「ふじのくに」機能の一部である医師確保センター」機能の一部である医師確保センター業務などを受託・運営 ④辯専門医認定制度への対応	90	<ul style="list-style-type: none"> 専攻医を受け入れる体制の整備 専攻医の募集 	総合	平成29年度より開始する新専門医制度に向けて、全診療科の状況把握を行った。本年度に専攻医は今年度と同程度を見込んでいる。	A	プログラムの作成を6領域において行い、全領域において1次審査の合格を受けた。今後は新専門医制度の動向を調査し、受け入れの体制整備、募集に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> (実績に対する評価) 研修医の採用内定を行うなど、平成29年度に開始する小児科新専門医制度に向けて、着実に対応している。 宿泊施設の改修工事を行い、研修医を受け入れる体制を整備している。 																										
												1 4 (2)	<ul style="list-style-type: none"> PETイメーシング・センター、CT、MRI等の共同利用の推進 IT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援 	91	<ul style="list-style-type: none"> PET共同利用率については、地域診療機関への啓発活動を継続し、共同利用率の向上を図る。 	総合	<p>PETイメーシングセンター共同利用 (単位：件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>4,121</td> <td>4,211</td> <td>4,726</td> <td>2,170</td> </tr> <tr> <td>共同利用件数</td> <td>1,635</td> <td>1,673</td> <td>1,623</td> <td>768</td> </tr> <tr> <td>共同利用率</td> <td>39.7</td> <td>39.7</td> <td>34.5</td> <td>35.5</td> </tr> <tr> <td>健診件数</td> <td>108</td> <td>165</td> <td>155</td> <td>101</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28.9末	件数	4,121	4,211	4,726	2,170	共同利用件数	1,635	1,673	1,623	768	共同利用率	39.7	39.7	34.5
区分	25年度	26年度	27年度	28.9末																																
件数	4,121	4,211	4,726	2,170																																
共同利用件数	1,635	1,673	1,623	768																																
共同利用率	39.7	39.7	34.5	35.5																																
健診件数	108	165	155	101																																
第1 4 医療に関する 地域への 支援	1 4 (2)	<ul style="list-style-type: none"> PETイメーシング・センター、CT、MRI等の共同利用の推進 IT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援 	92	<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。 	総合	平成22年度から従来の紹介・逆紹介の方法に加えて、撮影のみ総合病院で行う共同利用方法をスタートさせている。	A	<p>CT、MRI共同利用 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C.T</td> <td>833</td> <td>762</td> <td>815</td> <td>420</td> </tr> <tr> <td>M.R.I</td> <td>626</td> <td>591</td> <td>645</td> <td>338</td> </tr> <tr> <td>CT(撮影のみ)</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>MRI(撮影のみ)</td> <td>107</td> <td>133</td> <td>134</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28.9末	C.T	833	762	815	420	M.R.I	626	591	645	338	CT(撮影のみ)	8	7	1	3	MRI(撮影のみ)	107	133	134	65		<ul style="list-style-type: none"> 「ふじのくに」にパーチャール・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である磐田市立総合病院・川根本町いよいよの里診療所・菊川市立総合病院・公立森町病院・静岡済生会総合病院・社会保険総合病院(126.4～地域医療機能推進機構松ヶ丘病院に名称変更)・市立御前崎総合病院・市立島田市民病院・中東総合医療センター・藤原総合病院・藤枝市立総合病院・富士市立中央病院・焼津市立総合病院や、各地域の自治体・医師会とともに「ふじのくに」パーチャール・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数の医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。 年度末の理事会において利用料規定を決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。 	
									区分	25年度	26年度	27年度	28.9末																							
C.T	833	762	815	420																																
M.R.I	626	591	645	338																																
CT(撮影のみ)	8	7	1	3																																
MRI(撮影のみ)	107	133	134	65																																
第1 4 医療に関する 地域への 支援	1 4 (2)	<ul style="list-style-type: none"> PETイメーシング・センター、CT、MRI等の共同利用の推進 IT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援 	93	<ul style="list-style-type: none"> ふじのくににねつとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ふじのくににねつとIDCの機器更新を行う。 県立総合病院の連携サーバーの機器更新を行う。 事業継続のため、会費徴収の手続きを進める。 	総合	<ul style="list-style-type: none"> ふじのくににねつとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ふじのくににねつとIDCの機器更新を行う。 県立総合病院の連携サーバーの機器更新を行う。 事業継続のため、会費徴収の手続きを進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークへの参加施設は順調に拡大を続けている。 システム機器の更新時期を迎えることを契機に、費用負担のあり方等を含めた事業の利用規程を理事会で決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。 		<ul style="list-style-type: none"> (実績に対する評価) 国内外の医療機関と連携し、映像情報を通じたカンファレンスや診断を継続的に実施している。 (課題) 連携には、相手先医療機関の設備投資が必要であり、ネットワーク拡大の障壁となっている。実績を基に、画像診断の有効性を説明し理解を得る必要がある。 																										
									1 4 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 心エコー画像遠隔診断実績 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>H28目標</th> <th>28.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>18</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	H28目標	28.9末	施設数	4	4	4	4	症例数	9	7	18	4	A	<ul style="list-style-type: none"> 小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センターとの接点試験を兼ねた症例検討会を定期的に実施している。 									
区分	26年度	27年度	H28目標	28.9末																																
施設数	4	4	4	4																																
症例数	9	7	18	4																																

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1 4 医療に関する 地域への 支援	I 4 (3)	年度計画 社会的な要請への協力 ・公的機関からの医療に係る鑑定や 調査、講師派遣等の社会的な要請への 対応	No.	行動計画 院内外の研修会等を定期的に開催することに加え、協議会等の医師会との合同開催を通じ、かかりつけ医へ最新の医療情報を提供する。	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																																																												
					業務の実績	業務の実績																																																														
			95	総合 院内外の研修会等を定期的に開催することに加え、協議会等の医師会との合同開催を通じ、かかりつけ医へ最新の医療情報を提供する。	<p>私大キャンパスボード実績 (開催予定含む)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>開催日</th> <th>院内</th> <th>院外</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第11回</td> <td>平成28年5月13日</td> <td>21</td> <td>21</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>平成28年7月1日</td> <td>35</td> <td>22</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>平成28年9月12日</td> <td>24</td> <td>37</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>平成28年11月23日</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>平成29年1月13日</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>平成29年3月7日</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>地域医療機関等との会議等 (開催予定含む)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">会議名</th> <th rowspan="2">開催日</th> <th colspan="2">参加人数</th> </tr> <tr> <th>院内</th> <th>院外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年度第1回地区医師会協議会</td> <td>平成28.5.27</td> <td>8</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>平成28年度第1回地区医師会協議会</td> <td>平成28.8.29</td> <td>21</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>第11回急性期医療を考える会</td> <td>平成28.8.30</td> <td>41</td> <td>143</td> </tr> <tr> <td>平成28年度第1回地区医師会協議会</td> <td>平成28.9.26</td> <td>8</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>平成28年度病診連携協議会</td> <td>平成28.9.29</td> <td>8</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>	回数	開催日	院内	院外	合計	第11回	平成28年5月13日	21	21	42	第22回	平成28年7月1日	35	22	57	第3回	平成28年9月12日	24	37	61	第4回	平成28年11月23日				第5回	平成29年1月13日				第6回	平成29年3月7日				会議名	開催日	参加人数		院内	院外	平成28年度第1回地区医師会協議会	平成28.5.27	8	22	平成28年度第1回地区医師会協議会	平成28.8.29	21	11	第11回急性期医療を考える会	平成28.8.30	41	143	平成28年度第1回地区医師会協議会	平成28.9.26	8	22	平成28年度病診連携協議会	平成28.9.29	8	11	A	地域の医療従事者も参加できるカンファレンス等を定期的に開催した。 地域医療機関との情報共有の場としての会議等を開催し、積極的な意見交換を行った。
回数	開催日	院内	院外	合計																																																																
第11回	平成28年5月13日	21	21	42																																																																
第22回	平成28年7月1日	35	22	57																																																																
第3回	平成28年9月12日	24	37	61																																																																
第4回	平成28年11月23日																																																																			
第5回	平成29年1月13日																																																																			
第6回	平成29年3月7日																																																																			
会議名	開催日	参加人数																																																																		
		院内	院外																																																																	
平成28年度第1回地区医師会協議会	平成28.5.27	8	22																																																																	
平成28年度第1回地区医師会協議会	平成28.8.29	21	11																																																																	
第11回急性期医療を考える会	平成28.8.30	41	143																																																																	
平成28年度第1回地区医師会協議会	平成28.9.26	8	22																																																																	
平成28年度病診連携協議会	平成28.9.29	8	11																																																																	
			96	総合 他団体の講師派遣依頼に協力する。	<p>講師派遣実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>27.9月末</th> <th>28.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>58</td> <td>23</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>36</td> <td>15</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	27.9月末	28.9月末	医師	58	23	24	その他	36	15	8	A	(実績に対する評価) 他団体が主催する講演会の講師として医師や認定看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行った。																																																	
区分	27年度	27.9月末	28.9月末																																																																	
医師	58	23	24																																																																	
その他	36	15	8																																																																	
			97	〃〃〃〃 他団体が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。	<p>院外講演会講師派遣状況 (医師) (単位：回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>27.9月末</th> <th>28.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>30</td> <td>15</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>院外講演会講師派遣状況 (看護師) (単位：回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>27.9月末</th> <th>28.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>22</td> <td>5</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	27.9月末	28.9月末	派遣回数	30	15	9	区分	27年度	27.9月末	28.9月末	派遣回数	22	5	10	A	(実績に対する評価) 他団体が主催する講演会の講師として医師や認定看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行った。																																													
区分	27年度	27.9月末	28.9月末																																																																	
派遣回数	30	15	9																																																																	
区分	27年度	27.9月末	28.9月末																																																																	
派遣回数	22	5	10																																																																	
			98	〃〃〃〃 医療にかかるとの鑑定の要請への協力的な対応を推進する。	<p>・鑑定などへの対応 医療鑑定の鑑定医として協力 CR1(静岡県こころの緊急支援活動)支援員登録者1人 医療鑑定の要請による鑑定入院受入実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>27.9月末</th> <th>28.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>箇所</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	27.9月末	28.9月末	箇所	7	4	5	A	(実績に対する評価) 県内精神医療の中核病院として、各方面からの要請に的確に対応できた。																																																					
区分	27年度	27.9月末	28.9月末																																																																	
箇所	7	4	5																																																																	
			99	〃〃〃〃 特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するた め、検討会や説明会などを継続的に開催する。	<p>H28精神保健講座等開催実績 (H28.9月末時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>対象</th> <th>参加者数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神保健講座</td> <td>県内小中学校教諭</td> <td>2回 59人</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回相談</td> <td>こども・家族</td> <td>5回 5施設</td> </tr> </tbody> </table>	区分	対象	参加者数等	精神保健講座	県内小中学校教諭	2回 59人	児童養護施設巡回相談	こども・家族	5回 5施設	A	(実績に対する評価) 教師を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を継続的に実施し、学校・地域との連携強化を図っている。																																																				
区分	対象	参加者数等																																																																		
精神保健講座	県内小中学校教諭	2回 59人																																																																		
児童養護施設巡回相談	こども・家族	5回 5施設																																																																		

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

第1 4 医療に関する 地域への 支援	I 4 (3)	社会的な要請への協力 ・公的機関からの医療に係る鑑定や 調査、講師派遣等の社会的な要請へ の対応	No.	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																																								
					業務の実績	業務の実績																																										
			100	小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者自立支援法、児童福祉法、精神保健法などの運用に協力する。	こども	<p>公費負担患者状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児慢性</td> <td>2,158</td> <td>1,901</td> <td>1,533</td> </tr> <tr> <td>盲眼医療</td> <td>657</td> <td>721</td> <td>374</td> </tr> <tr> <td>養育医療</td> <td>179</td> <td>258</td> <td>112</td> </tr> <tr> <td>特定疾患</td> <td>134</td> <td>7</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>特定疾病</td> <td>33</td> <td>157</td> <td>102</td> </tr> <tr> <td>生活保護</td> <td>100</td> <td>172</td> <td>119</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>117</td> <td>96</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>112</td> <td>97</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,490</td> <td>3,409</td> <td>2,402</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28.9月末	小児慢性	2,158	1,901	1,533	盲眼医療	657	721	374	養育医療	179	258	112	特定疾患	134	7	5	特定疾病	33	157	102	生活保護	100	172	119	精神保健	117	96	78	その他	112	97	79	計	3,490	3,409	2,402	(実績)に対する評価) 証明書・診断書の発行など公費適応患者の 利便性を重視して対応している。 (課題) 公費負担には本人による申請が必要となる が、公費の認定には時間がかかるため、請求 が遅れるケースがある上、本人の申請が遅れ た場合などの対応については検討が必要であ る。	A
区分	26年度	27年度	28.9月末																																													
小児慢性	2,158	1,901	1,533																																													
盲眼医療	657	721	374																																													
養育医療	179	258	112																																													
特定疾患	134	7	5																																													
特定疾病	33	157	102																																													
生活保護	100	172	119																																													
精神保健	117	96	78																																													
その他	112	97	79																																													
計	3,490	3,409	2,402																																													
第1 5 災害等にお ける医療救 護	I 5 (1)	医療救護活動の拠点機能 ①災害拠点病院(小児分野を含む) 等として、災害時の医療救護活動の 拠点機能を担う ②小児専門医療機関間の災害時情報 交換システム構築への参画	101	総合 ・災害医療訓練を実施する。 ・災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発生災害時に迅速な対応ができるようにする。	<p>H28.6.17 安否情報確認システムによる情報伝達訓練を行った。 H28.7.21、28 火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。(新規採用職員を中心に86名参加) H28.8.1~23 院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施した。 H28.8.6 大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)において職員17名(うちDMAT11人)が参加した。 H28.12.4 全職種を対象としたトリアージ訓練を実施(参加者 237人)</p>	(実績)に対する評価) 情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、公的病院の役割を果たすべく各種訓練を企画、実施した。 (課題) 引き継ぎ、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。	A																																									
			102	こころ ・災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。	<p>防災訓練(避難訓練)の企画・実施。 H28.7.21 県及び市と連携し、メール等による情報伝達訓練に参加。(県健康福祉部防災訓練) における静岡DPAT訓練に参加。 H28.8.6 政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)におけるDMAT訓練に参加。 H28.9.1 県総合防災訓練(本部運営)において、メール等による情報伝達訓練に参加。 H28.9.2 昼間の病棟における火災発生を想定した訓練を実施。 H28.9.17~19 DPAT先遣隊研修に参加。 H28.9.23 AED取扱研修の実施。</p>	情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、公的病院の役割を果たすべく各種訓練を企画、実施した。引き継ぎ、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。	A																																									
			103	こども ・災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ・小児医療総合施設協議会において実施を検討している小児専門医療機関間の災害時における情報交換システム構築、運用検討について参加、協力していく。	<p>当院が加盟する日本小児総合医療施設協議会における広域災害時相互支援に関する協定の締結を予定している。</p>	(実績)に対する評価) 全国の小児総合医療施設と連携し、大規模災害時における小児医療に特化した広域的な相互支援体制の整備を図る。 (課題) 小児医療に特化した支援体制の必要性を国や県に働きかけ、行政の防災計画との整合性を図る必要がある。	A																																									
	I 5 (2)	他県等の医療救護への協力 ・災害発生初期におけるDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	104	総合 災害医療救護応援班の訓練を実施する。	<p>H28.4.23~27 熊本地震に県医療救護班として1チーム(5人)を派遣し、医療救護活動を行った。 H28.5.24~28 伊勢志摩サミットにDMAT1チームを派遣した。(6人) H28.8.6 大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)において、活動拠点館にDMAT5名が参加した。 H28.9.1 県総合防災訓練(本部運営訓練)にDMAT隊員3人が参加した。 H28.9.4 県・掛川市総合防災訓練(実働訓練)にDMAT1チーム(4人)が参加した。 H28.11.10 県・伊豆市国民保護共同訓練にDMAT1チーム(4人)が参加した。</p>	(実績)に対する評価) チーム内で適切に情報を伝達・共有し、仮想的な状況に応じたDMATの配置を行った。 (課題) 他チームとの連携に一層の注意を払っていく必要がある。	A																																									

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28暫定 自己評価		備考																														
					説明	説明																															
第2 1 簡素で効率的な組織づくり	II 1 ①意思決定の迅速化・情報の共有化等、機動的な法人運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映 ③職員モチベーションアップ等を旨とした勤務成績評価の制度化に向けた取組み	105	<ul style="list-style-type: none"> 組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。 理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を毎月開催（8月を除く） 法人の運営情報の共有化を図るとともに、予算の補正等の緊急な課題に対する即時的な対応を行う。 他病院における先進的事例の情報収集を行う。 看護師、コメディカル、事務職員に対する勤務成績評価制度の試行対象者の拡大 	<p>理事会 運営会議、総務・経営担当課長会議、意思決定の迅速化に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護師、コメディカル、事務職員に対する勤務成績評価制度の試行を開始した。 <p>【対象及び実施時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護師（副主任以上） 平成28年4月～ コメディカル（副主任以上） 平成28年4月～ 事務職員（県派遣職員）平成27年10月～ 事務職員（プロパー職員）平成28年4月～ 	A	毎月、機構内での情報の共有化、緊急案件についての対応が問題なく行われた。	本部 総務班 企画・情報班																														
			<ul style="list-style-type: none"> 優秀な職員を確保する仕組みを設け、効果的な採用を実施する。 職員の採用に対し、広報等様々な取組みを行うことで、必要な職員数の確保に努める。 柔軟な採用試験の実施により、必要な人材の確保に努める。 パンフレット作成、ホームページへの情報掲載、就職セミナー等での周知を行う。 看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 有期雇用職員のうち、資質・能力に優れた者2名を、平成28年4月1日付で、事務アシエンイトとして採用した。 法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮して、選考採用を実施し、他県病院で活躍している者1名を、平成29年度事務職員採用予定者として内定した。 また、平成28年10月1日付けで、有期看護師のうち、資質・能力が優れた者3名を、看護アシエンイトとして採用した。 	A	事務職員については、専門性を持った事務職の確保を進めるとともに、有期雇用職員のアシエンイト活用を進めている。	本部 総務班																														
第2 2 効率的な業務運営の実現	II 2 ①効率的な業務運営の実現 ②効果的な職員採用 ③柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ④看護師必要数の増加に対応するため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様な確保持策の実施 ⑤診療報酬など収入の適正な確保 ⑥業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減 ⑦経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ⑧経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上	106	<ul style="list-style-type: none"> 未収金の圧縮を図るため、未収金の収納勧奨等について外部の専門会社を活用する。 医療費に係る相談体制の充実・未収金回収のアウトソーシングの促進等、効率的な未収金対策を講じる。 	<p>H24から弁護士法人へ委託先を変更した結果、初年度のH24は切替時の特殊要因により微減となったが、H25以降は回収率の改善が図られている。H23 26.4%、H24 26.0%、H25 45.4%、H26 59.0%、H27 65.2%、H28.9 68.05%</p> <p>H28 未収金回収実績(弁護士事務所委託分) (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H27末 未回収額</th> <th>新規委託額</th> <th>回収額</th> <th>中止額</th> <th>H28.9末 未回収額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>23,007</td> <td>10,244</td> <td>5,282</td> <td>7,292</td> <td>20,677</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>5,943</td> <td>0</td> <td>137</td> <td>0</td> <td>5,806</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>10,312</td> <td>6,363</td> <td>3,315</td> <td>1,281</td> <td>12,079</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>39,262</td> <td>16,607</td> <td>8,734</td> <td>8,573</td> <td>38,562</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H27末 未回収額	新規委託額	回収額	中止額	H28.9末 未回収額	総合	23,007	10,244	5,282	7,292	20,677	こころ	5,943	0	137	0	5,806	こども	10,312	6,363	3,315	1,281	12,079	計	39,262	16,607	8,734	8,573	38,562	A	未収金回収業務の外部委託により回収率が改善し、業務の効率化を図られた。	本部 経営班
区分	H27末 未回収額	新規委託額	回収額	中止額	H28.9末 未回収額																																
総合	23,007	10,244	5,282	7,292	20,677																																
こころ	5,943	0	137	0	5,806																																
こども	10,312	6,363	3,315	1,281	12,079																																
計	39,262	16,607	8,734	8,573	38,562																																

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		28暫定 自己評価 説明	備考																																																																																	
				業務の実績																																																																																				
第2 2 効率的な業務運営の実現	II 2 効率的な業務運営の実現 ・効果的な職員採用 ・柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ・看護師必要数の増加に対応するため、看護師研修資金の活用推進や広報活動など多様かつ多角的な確保対策の実施 ・診療報酬など収入の適正な確保 ・業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減 ・経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ・経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上	108	SPD導入の効果を検証する。	<p>業務の実績</p> <p>薬品・診療材料減耗額</p> <p>薬品については、倉庫品は年に2回、病棟・外来は2ヶ月に1回、期限切れチェックを行い、薬剤部へ報告し、部署間での移管や使用促進へ繋げている。</p> <p>診療材料については、減耗報告時に各部署から詳細な理由を記載してもらい、対策をSPD運営部会で検討し、毎月フィードバックを行い、啓蒙活動に努める。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">薬品 減耗額</th> <th colspan="2">(単位：千円)</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H27.9月末</th> <th>H28.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>破棄</td> <td>1,732</td> <td>2,073</td> <td>1,681</td> </tr> <tr> <td>破損</td> <td>1,225</td> <td>791</td> <td>414</td> </tr> <tr> <td>期限切れ</td> <td>1,511</td> <td>1,873</td> <td>1,306</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,468</td> <td>4,737</td> <td>3,401</td> </tr> </tbody> </table> <p>診療材料 減耗額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">薬品</th> <th colspan="2">(単位：千円)</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H27.9月末</th> <th>H28.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>破棄</td> <td>369</td> <td>1,438</td> <td>303</td> </tr> <tr> <td>破損</td> <td>2,638</td> <td>2,994</td> <td>1,842</td> </tr> <tr> <td>期限切れ</td> <td>1,025</td> <td>2,008</td> <td>677</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,077</td> <td>6,440</td> <td>2,822</td> </tr> </tbody> </table> <p>薬品・診療材料在庫額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">薬品</th> <th colspan="2">(単位：千円)</th> </tr> <tr> <th>H27.3末</th> <th>H28.3末</th> <th>H28.9末</th> <th>H28.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>179,830</td> <td>114,860</td> <td>134,346</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>169,947</td> <td>179,513</td> <td>178,532</td> </tr> </tbody> </table> <p>・薬品、診療材料在庫額 薬品については、年2回の棚卸に薬品担当者が介入することで、精度の高い棚卸を実施。 診療材料は、部署在庫日数を5日から3日への引き下げを実施。また、3ヶ月不動品については、定数から削除を提案。</p>		薬品 減耗額		(単位：千円)		H26	H27	H27.9月末	H28.9月末	破棄	1,732	2,073	1,681	破損	1,225	791	414	期限切れ	1,511	1,873	1,306	計	4,468	4,737	3,401	薬品		(単位：千円)		H26	H27	H27.9月末	H28.9月末	破棄	369	1,438	303	破損	2,638	2,994	1,842	期限切れ	1,025	2,008	677	計	4,077	6,440	2,822	薬品		(単位：千円)		H27.3末	H28.3末	H28.9末	H28.9末	薬品	179,830	114,860	134,346	診療材料	169,947	179,513	178,532	<p>薬品・診療材料在庫額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">薬品</th> <th colspan="2">(単位：千円)</th> </tr> <tr> <th>H27.3末</th> <th>H28.3末</th> <th>H28.9末</th> <th>H28.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>179,830</td> <td>114,860</td> <td>134,346</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>169,947</td> <td>179,513</td> <td>178,532</td> </tr> </tbody> </table>	薬品		(単位：千円)		H27.3末	H28.3末	H28.9末	H28.9末	薬品	179,830	114,860	134,346	診療材料	169,947	179,513	178,532	<p>減耗については、部会での検討及び部署へのフィードバックを行い、部署の意識を高めることに繋がった。</p> <p>期限切れについては、定期的な確認により、より精度の高い期限管理に努め、切迫品については、使用促進を行った。</p> <p>A</p> <p>在庫額については、定数在庫の見直しを行い、余剰在庫の削減に繋がった。</p>	
				薬品 減耗額		(単位：千円)																																																																																		
H26	H27	H27.9月末	H28.9月末																																																																																					
破棄	1,732	2,073	1,681																																																																																					
破損	1,225	791	414																																																																																					
期限切れ	1,511	1,873	1,306																																																																																					
計	4,468	4,737	3,401																																																																																					
薬品		(単位：千円)																																																																																						
H26	H27	H27.9月末	H28.9月末																																																																																					
破棄	369	1,438	303																																																																																					
破損	2,638	2,994	1,842																																																																																					
期限切れ	1,025	2,008	677																																																																																					
計	4,077	6,440	2,822																																																																																					
薬品		(単位：千円)																																																																																						
H27.3末	H28.3末	H28.9末	H28.9末																																																																																					
薬品	179,830	114,860	134,346																																																																																					
診療材料	169,947	179,513	178,532																																																																																					
薬品		(単位：千円)																																																																																						
H27.3末	H28.3末	H28.9末	H28.9末																																																																																					
薬品	179,830	114,860	134,346																																																																																					
診療材料	169,947	179,513	178,532																																																																																					
		109	診療報酬の適正請求にかかる研修会等を実施する。	<p>診療報酬に係る研修を開催し、適正な収入確保に取り組んだ。</p> <p>診療報酬の適正請求にかかる研修等 (H28.9末時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>特定共同指導の概要と受診対策について</td> <td>148人</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>指導・監査について理解する 実施 特定共同指導の事実より 医師 診療報酬点数に関する留意事項 保険診療について 診療報酬の理解のために 診療報酬改定説明会 診療報酬の請求と施設基準の届出について 医学管理料算定におけるシステムについて 診療報酬改定の概要、診療記録に関すること H28DPC様式調査について</td> <td>113人 77人 302人 19人 125人 57人 60人 16人 22人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	内容	人数	総合	特定共同指導の概要と受診対策について	148人	子ども	指導・監査について理解する 実施 特定共同指導の事実より 医師 診療報酬点数に関する留意事項 保険診療について 診療報酬の理解のために 診療報酬改定説明会 診療報酬の請求と施設基準の届出について 医学管理料算定におけるシステムについて 診療報酬改定の概要、診療記録に関すること H28DPC様式調査について	113人 77人 302人 19人 125人 57人 60人 16人 22人	<p>請求精度の向上を目指して、研修会等を確実に開催した。</p> <p>A</p>	各病院																																																																									
区分	内容	人数																																																																																						
総合	特定共同指導の概要と受診対策について	148人																																																																																						
子ども	指導・監査について理解する 実施 特定共同指導の事実より 医師 診療報酬点数に関する留意事項 保険診療について 診療報酬の理解のために 診療報酬改定説明会 診療報酬の請求と施設基準の届出について 医学管理料算定におけるシステムについて 診療報酬改定の概要、診療記録に関すること H28DPC様式調査について	113人 77人 302人 19人 125人 57人 60人 16人 22人																																																																																						

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28暫定 自己評価 説明	備考																																																																		
第2 2 効率的な業務運営の実現	<p>II</p> <p>2</p> <p>効率的な業務運営の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率的な職員採用 ・ 柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ・ 看護師必要数の増加に対応するための、看護師修学資金の活用推進や広域活動など多様な種別に対する支援の実施 ・ 診療報酬など収入の適正な確保 ・ 業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減 ・ 経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ・ 経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上 	110	<p>・ 診療材料費等の削減のための対策を実施する。</p> <p>・ 診療材料、薬品の廃棄状況を部門別に明らかにし、廃棄量削減のための対策を行う。</p>	<p>・ 各病院において、診療材料委員会を中心に関係職員の意識を徹底し、適正な調達に努めている。</p> <p>・ 診療材料単価低減を図るため、医療従事者と協働した購入材料の選定や価格交渉を推進した。</p> <p>・ 薬品費の削減と薬剤師部門職員の業務軽減を図るため、一薬品メーカー・一卸業者間で競争を促すとともに、機構に薬品を納入する卸業者の数を6社で競争を行い、ベンチマーク調査等を活用して周辺の値引率を把握しつつ、値引率向上を図っている。</p> <p>・ 破損など原因ごとに対策を講じて、診療材料の廃棄量の削減に努めている。</p> <table border="1"> <caption>診療材料コスト削減実績 (単位：千円)</caption> <thead> <tr> <th>品目名</th> <th>28.9月末</th> <th>前年度</th> <th>減額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>品目別</td> <td>2,597</td> <td>3,128</td> <td>531</td> </tr> <tr> <td>ディスコシステム</td> <td>58,729</td> <td>3,128</td> <td>55,601</td> </tr> <tr> <td>シリンジ・注入器ほか</td> <td>53,123</td> <td>2,597</td> <td>50,526</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>H28新規導入・廃止した診療材料・薬品数の実績 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">診療材料品目数</th> <th colspan="3">薬品品目数</th> </tr> <tr> <th>H28当初契約数(a)</th> <th>新規採用数(b)</th> <th>廃止数(c)</th> <th>H28当初契約数(a)</th> <th>新規採用数(b)</th> <th>廃止数(c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>10,797</td> <td>620</td> <td>66</td> <td>11,351</td> <td>1,719</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>415</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>417</td> <td>681</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>4,250</td> <td>56</td> <td>41</td> <td>4,255</td> <td>1,286</td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>H28資産減耗額 (単位：千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>診療材料費</th> <th>薬品費</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>3,906</td> <td>1,764</td> <td>5,670</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>41</td> <td>64</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>657</td> <td>1,322</td> <td>1,979</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H28.9末時点</p>	品目名	28.9月末	前年度	減額	品目別	2,597	3,128	531	ディスコシステム	58,729	3,128	55,601	シリンジ・注入器ほか	53,123	2,597	50,526	区分	診療材料品目数			薬品品目数			H28当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	H28当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	総合	10,797	620	66	11,351	1,719	26	ところ	415	5	3	417	681	45	ところ	4,250	56	41	4,255	1,286	44	区分	診療材料費	薬品費	合計	総合	3,906	1,764	5,670	ところ	41	64	105	ところ	657	1,322	1,979	<p>・ 徹底した価格交渉や競争性確保に努めた結果、適正価格での購入が実現した。</p> <p>・ 案件に応じ「購入+保守管理」一括評価で調達を行い、トータルコストを削減した。</p> <p>・ 保守委託については3病院一括化・複数年契約等により、法人化や規模のメリットを生かしたコスト削減を図っている。</p>	<p>本部 企画・情報班</p>
品目名	28.9月末	前年度	減額																																																																					
品目別	2,597	3,128	531																																																																					
ディスコシステム	58,729	3,128	55,601																																																																					
シリンジ・注入器ほか	53,123	2,597	50,526																																																																					
区分	診療材料品目数			薬品品目数																																																																				
	H28当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	H28当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)																																																																		
総合	10,797	620	66	11,351	1,719	26																																																																		
ところ	415	5	3	417	681	45																																																																		
ところ	4,250	56	41	4,255	1,286	44																																																																		
区分	診療材料費	薬品費	合計																																																																					
総合	3,906	1,764	5,670																																																																					
ところ	41	64	105																																																																					
ところ	657	1,322	1,979																																																																					
		111	<p>効率的な医療機器購入及び管理のため</p> <p>の対策を実施する。</p>	<p>・ 各病院において、病院一体となって徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積り等の徹底により競争性を確保することとなり、効率的な購入及び管理に努めた。</p> <p>・ 価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行った。</p> <p>・ 機種選定では複数機種を維持するよう努めている。</p> <p>・ 価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設定に生かしている。</p> <p>・ 保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や保守内容の見直しを行いコスト低減を図っている。</p>	<p>・ 徹底した価格交渉や競争性確保に努めた結果、適正価格での購入が実現した。</p> <p>・ 案件に応じ「購入+保守管理」一括評価で調達を行い、トータルコストを削減した。</p> <p>・ 保守委託については3病院一括化・複数年契約等により、法人化や規模のメリットを生かしたコスト削減を図っている。</p>	<p>本部 企画・情報班</p>																																																																		

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28暫定 自己評価 説明	備考																																																																																																						
第2 2 効率的な業務運営の実現	<p>効率的な業務運営の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 効果的な職員採用 柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 看護師必要数の増加に対応するため、看護師修字資金の活用推進や広報活動など多様かつ多角的な確保対策の実施 診療報酬など収入の適正な確保 業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減 経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上 	112	<p>複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。</p>	<p>業務の実績</p> <p>・委託費の前減を図るため、複数病院一括化、複数年契約化を行ってきた。</p> <p>・複数病院一括化や複数年契約化を行った業務についても、契約の更新の際に引き継ぎ一括化・複数年化に適合するが見直しつつ、削減効果の継続・改善に取り組んでいる。</p> <p>・契約中の委託についても仕様の徹底した見直しを行い、コスト削減に努めた。</p> <p>・コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、四半期ごとに業務に対するモニタリングを行い、委託業者の業務を評価し、質の維持・向上を図っている。</p> <p>(単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>業務名(業務)</th> <th>通務</th> <th>年数</th> <th>期間</th> <th>種別</th> <th>1H28実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染症業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>1928.4~1929.3</td> <td>専任</td> <td>38,351</td> </tr> <tr> <td>給食業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>1928.7~1931.6</td> <td>定額・専任</td> <td>383,023</td> </tr> <tr> <td>医事等業務委託</td> <td>総・心</td> <td>3年</td> <td>1928.10~1931.9</td> <td>定額</td> <td>180,444</td> </tr> <tr> <td>電子相互機関管理・使用</td> <td>3病院</td> <td>5年</td> <td>1928.4~1933.3</td> <td>専任</td> <td>6,445</td> </tr> <tr> <td>医療施設基礎調査</td> <td>3病院</td> <td>5年</td> <td>1928.4~1933.3</td> <td>専任</td> <td>2,890</td> </tr> <tr> <td>医療機器等保守点検業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>1928.4~1929.3</td> <td>定額</td> <td>168,048</td> </tr> <tr> <td>放射線科放射線管理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>1928.4~1929.3</td> <td>定額</td> <td>291,890</td> </tr> <tr> <td>シーメンス社医療機器保守業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>1928.4~1929.3</td> <td>定額</td> <td>138,208</td> </tr> <tr> <td>集配金警務業務委託</td> <td>3病院</td> <td>5年</td> <td>1928.4~1933.3</td> <td>定額</td> <td>2,871</td> </tr> <tr> <td>建築基準法の定期報告業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>1928.7~1929.3</td> <td>定額</td> <td>13,098</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1,215,058</td> </tr> </tbody> </table> <p>1H28 委託モニタリング評価結果 (1928.9末時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>第1期</th> <th>第2期</th> <th>第3期</th> <th>第4期</th> <th>第5期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給食</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>清掃</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>警備(心・子)</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>医事(総・心)</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table>	業務名(業務)	通務	年数	期間	種別	1H28実績	感染症業務委託	3病院	1年	1928.4~1929.3	専任	38,351	給食業務委託	3病院	3年	1928.7~1931.6	定額・専任	383,023	医事等業務委託	総・心	3年	1928.10~1931.9	定額	180,444	電子相互機関管理・使用	3病院	5年	1928.4~1933.3	専任	6,445	医療施設基礎調査	3病院	5年	1928.4~1933.3	専任	2,890	医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	1928.4~1929.3	定額	168,048	放射線科放射線管理業務委託	3病院	1年	1928.4~1929.3	定額	291,890	シーメンス社医療機器保守業務委託	3病院	1年	1928.4~1929.3	定額	138,208	集配金警務業務委託	3病院	5年	1928.4~1933.3	定額	2,871	建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	1928.7~1929.3	定額	13,098	合計					1,215,058	区分	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	給食	可	可	可	可	可	清掃	可	可	可	可	可	警備(心・子)	可	可	可	可	可	医事(総・心)	可	可	可	可	可	<p>(実績に対する評価)</p> <p>複数病院で集約化した委託等の契約は21件、うち複数年化を行ったものは16件となり、一括化・複数年化による費用削減及び事務の集約につながっている。</p> <p>A</p>	<p>本部 総務班 企画・情報班 経営班</p>
業務名(業務)	通務	年数	期間	種別	1H28実績																																																																																																							
感染症業務委託	3病院	1年	1928.4~1929.3	専任	38,351																																																																																																							
給食業務委託	3病院	3年	1928.7~1931.6	定額・専任	383,023																																																																																																							
医事等業務委託	総・心	3年	1928.10~1931.9	定額	180,444																																																																																																							
電子相互機関管理・使用	3病院	5年	1928.4~1933.3	専任	6,445																																																																																																							
医療施設基礎調査	3病院	5年	1928.4~1933.3	専任	2,890																																																																																																							
医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	1928.4~1929.3	定額	168,048																																																																																																							
放射線科放射線管理業務委託	3病院	1年	1928.4~1929.3	定額	291,890																																																																																																							
シーメンス社医療機器保守業務委託	3病院	1年	1928.4~1929.3	定額	138,208																																																																																																							
集配金警務業務委託	3病院	5年	1928.4~1933.3	定額	2,871																																																																																																							
建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	1928.7~1929.3	定額	13,098																																																																																																							
合計					1,215,058																																																																																																							
区分	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期																																																																																																							
給食	可	可	可	可	可																																																																																																							
清掃	可	可	可	可	可																																																																																																							
警備(心・子)	可	可	可	可	可																																																																																																							
医事(総・心)	可	可	可	可	可																																																																																																							
		113	<p>毎月、理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。</p> <p>・より効率的で安定的な経営を維持するため原価計算への取組を推進する。</p> <p>・機構の直近の経営状況を職員(特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員)に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。</p>	<p>・理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。</p> <p>・理事会における審議・報告事項や経営状況を3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に毎月報告し周知を図っている。</p> <p>・月次決算において、費用計上を発生主義から年間平均化計上へ手法を改めることにより、適切な経営状況の把握に努めている。</p> <p>・職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。</p> <p>・院内コミュニケーションシステムを通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供している。</p> <p>・職員報(トライアングル)においても、病院の経営状況を盛り込み、意識醸成を図っている。</p> <p>A</p>	<p>月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。</p> <p>また、会議や職員報を通して経営分析を職員に周知することにより、職員の経営に対する意識啓発が図られている。</p>	<p>本部 総務班 企画・情報班 経営班</p>																																																																																																						

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28暫定 自己評価 説明	備考																																									
第2 3 事務部門の 専門性の向 上	事務部門の専門性の向上 ・事務職員の計画的な採用 ・階層や職務に応じた効果的な研修 の実施、学会発表等へ事務職員の参 加など ・異動方針の弾力的運用及び各部署 におけるOJT (on-the-job training) をはじめとする人材の育 成・研修の推進 ・診療情報管理機能の強化	114	・階層や職務に応じた各種研修を実施 する。 ・また、事務職員の機構外研修への積 極的な参加を促す。 ・職員の適性等を考慮した弾力的な人 事異動を行う。	採用内定者研修、事務職員基礎研修(新規採用職員)、会計研修 等を実施し、業務関連知識を高めている。 事務職員に対する研修状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>受講時期</th> <th>研修名</th> <th>開催状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新採年度</td> <td>新規採用職員研修</td> <td>5、6月 2日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>新規役員職員研修</td> <td>5月 1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>係長級昇任時</td> <td>8月 1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>セクション長昇任時</td> <td>9月 1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>新任管理者・監督者研修</td> <td>9月 1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>管理者(毎年度)</td> <td>コーチャング研修 9月 1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>コミュニケーション研修 7月 1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>フアンリテーション研修 11月 1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>マナボウネット研修 12月 平日</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>会計基礎研修 4月 平日</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>会社中級研修 9月 平日</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>未収金回収研修 12月 平日</td> </tr> </tbody> </table> <p>希望により任意参加 また、平成28年10月19日～21日に実施された第55回全国自治体 病院学会(於富山市)では、ボスターセッションに、県立総合病 院の事務職員が発表者として参加し、事務職員の能力向上を図っ た。(5テーマ、延18人)</p>	受講時期	研修名	開催状況	新採年度	新規採用職員研修	5、6月 2日間		新規役員職員研修	5月 1日間		係長級昇任時	8月 1日間		セクション長昇任時	9月 1日間		新任管理者・監督者研修	9月 1日間		管理者(毎年度)	コーチャング研修 9月 1日間			コミュニケーション研修 7月 1日間			フアンリテーション研修 11月 1日間			マナボウネット研修 12月 平日			会計基礎研修 4月 平日			会社中級研修 9月 平日			未収金回収研修 12月 平日	<p>業務の実績</p> <p>(実績)に対する評価) 業務の基礎部分に対する研修体系は出来 た。 (課題) 事務職員の更なるレベルアップが必要であ る。 A</p>	本部 総務班		
受講時期	研修名	開催状況																																													
新採年度	新規採用職員研修	5、6月 2日間																																													
	新規役員職員研修	5月 1日間																																													
	係長級昇任時	8月 1日間																																													
	セクション長昇任時	9月 1日間																																													
	新任管理者・監督者研修	9月 1日間																																													
	管理者(毎年度)	コーチャング研修 9月 1日間																																													
		コミュニケーション研修 7月 1日間																																													
		フアンリテーション研修 11月 1日間																																													
		マナボウネット研修 12月 平日																																													
		会計基礎研修 4月 平日																																													
		会社中級研修 9月 平日																																													
		未収金回収研修 12月 平日																																													
		115	診療情報管理業務に専門的に携わること ができる知識・技能を有する職員を 育成する。	診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の増員を図っ ている。 がん登録業務を担当する職員に国立がん研究センター主催院内 がん登録実務研修を受講させるなど、専門性の向上を図ってい る。 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">H26</th> <th colspan="2">H27</th> <th colspan="2">H28見込</th> </tr> <tr> <th>資格 取得者</th> <th>専門課程 修了者</th> <th>資格 取得者</th> <th>専門課程 修了者</th> <th>資格 取得者</th> <th>専門課程 修了者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総 合</td> <td>3</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>5</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>こ ども</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>本 部</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>18</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>11</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 専門課程修了者：資格試験受験資格を有する者</p>	区 分	H26		H27		H28見込		資格 取得者	専門課程 修了者	資格 取得者	専門課程 修了者	資格 取得者	専門課程 修了者	総 合	3	11	6	13	5	11	こ ども	1	5	1	4	3	4	本 部	2	2	1	1	2	1	計	4	18	10	18	11	17	<p>有資格者を診療情報管理業務に配置すると ともに、専門性の向上を図っている。 A</p>	本部 総務班
区 分	H26		H27			H28見込																																									
	資格 取得者	専門課程 修了者	資格 取得者	専門課程 修了者	資格 取得者	専門課程 修了者																																									
総 合	3	11	6	13	5	11																																									
こ ども	1	5	1	4	3	4																																									
本 部	2	2	1	1	2	1																																									
計	4	18	10	18	11	17																																									
		116	事務部門の業務マニユアルの作成等、 業務の平準化や効率化のための取組を 継続する。	業務の標準化を図るため、事務部門の業務マニユアル整備・活 用に向けた取組を実施している。 ・院内コミュニケーションシステムの改善に集約したマニユアルを公 開し、共有化している。	作成されたマニユアルを公開していること で、マニユアルの共有化が図られている。 A	本部 企画・ 情報班																																									
第2 4 業務改善に 不断に取り 組む組織風 土の醸成	業務改善に不断に取り組み組織風土 の醸成 ・業務の改善の取組等を通じた職員 の意識向上及び病院運営の活性化	117	院内コミュニケーションシステムを活 用するなどして、職員が経営・業務改 善を常時提案できる体制を整備する。	法人化後構築した「改革・改善推進制度」を、26年度から「改 善運動推進制度」、28年度から「業務改善運動推進制度」と名称 を改め、引き続き職員が改善運動に進んで取り組めるよう促し た。 ・院内コミュニケーションシステムを利用して、誰もが積極的に 参加でき、また他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備 している。推進制度実績件数 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>前年増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総 合</td> <td>39</td> <td>49</td> <td>46</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こ ども</td> <td>30</td> <td>12</td> <td>34</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こ ども</td> <td>46</td> <td>54</td> <td>53</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本 部</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>11</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>130</td> <td>127</td> <td>144</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>実施集計中</p>	区分	H25	H26	H27	H28	前年増減率	総 合	39	49	46			こ ども	30	12	34			こ ども	46	54	53			本 部	15	12	11			計	130	127	144			<p>(実績)に対する評価) 平成28年度は現在実施・集計中である。 平成27年度は、総合・こども・本部のエン トリー数は例年並みであるが、こどもの医療 センターからのエントリーが増加したこと で、全体の件数が増加した。 A</p>	本部 企画・ 情報班					
区分	H25	H26	H27	H28	前年増減率																																										
総 合	39	49	46																																												
こ ども	30	12	34																																												
こ ども	46	54	53																																												
本 部	15	12	11																																												
計	130	127	144																																												

(参考) 用語解説

用語 (50音順)	解 説
ACT	ACTとは、Assertive Community Treatment(包括型地域生活支援プログラム)の略で、重い精神障害を持つ人たちに対して、住み慣れた地域で支援する、集中型・包括型ケースマネジメントプログラム。
CCU	CCUとは、Coronary Care Unitの略で、冠疾患集中治療室と呼ばれ、主に心筋梗塞などの冠動脈疾患の急性危機状態の患者を収容し、専門の医師・看護師により、厳重な監視モニター下で持続的・集中的に管理・治療する部門。 ※こども病院では、CCUをCardiac(心臓病の)ICUと位置付けている。
DMAT	DMATとは、Disaster Medical Assistant Teamの略で、災害の発生直後(48時間以内)に被災現場へ駆けつけ、救出・救助部門と合同して活動できるトレーニングを受け、機動性を持った災害派遣医療チーム(DMAT:ディーマツト)。
DPC	DPCとは、Diagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類のこと。これに基づく診断群分類包括評価(しんだんぐんぶんるいほうかつひょうか)により、日本の急性期入院医療費の定額支払い制度が平成18年から(試行は平成15年から)運用されている。(総合:H20.7導入、こども:H21.7導入)
ESCO	ESCOとは、Energy Service Companyの略で、1970年代アメリカで始まり、1990年代後半に日本に導入された省エネ化を目指す事業で、省エネルギーに関わる一連の業務を一括して請け負うことや、計画した省エネ効果が出なかった場合、省エネ相当分を顧客に補償する義務を負うことなどが特徴。
HCU	HCUとは、High Care Unitの略で、集中治療室に準ずる機能を持つ高度な治療室。看護配置数は集中治療室の1/2であるが、一般の病棟よりはるかに多いため両者の中間に位置する病室。集中治療室から一般病棟への転室は落差が大き過ぎ、移行が難しいため、一般病棟への移行を円滑に行うために設置される。手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つことが多い。
ICU	ICUとは、Intensive Care Unitの略で、集中治療室と呼ばれ、内科系・外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し、強力かつ集中的に治療看護を行う部門。
m-ECT	m-ECTとは、修正型電気けいれん療法で麻酔科医による全身麻酔の下、筋弛緩剤の投与により体幹のけいれんを起こさせないもので、うつ病、躁うつ病、統合失調症などの治療に用いられており、従来の有けいれん療法に比べ、安全で有効な治療法とされている。
MFICU	MFICUとは、Maternal Fetal Intensive Care Unitの略で、重い妊娠中毒症、前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、ハイリスク出産の危険度が高い母体・胎児に対応するための設備と医療スタッフを備えた集中治療室
MSW	MSWとは、Medical Social Workerの略で、疾病を有する患者が、病気になることで生じる生活上の様々な困難に対して、自立した生活を送ることができるように、社会福祉の立場から、患者の生活全体を支援していく専門家のこと。
NICU	NICUとは、Neonatal Intensive Care Unitの略で、未熟児をはじめとするハイリスク新生児は専門的な医療機関で集中治療・管理する必要があり、このような医療を展開する場所全体を一般的に広義の新生児集中治療室と呼んでいる。
PCI	血管に刺入する管(カテーテルという)を用いて冠動脈疾患に様々な治療を行うことを総称して(経皮的)冠動脈インターベンション(PCI)と呼ぶ。 風船療法(カテーテルの先端の風船(バルーン)で狭窄した冠動脈を拡げる)や経皮的冠動脈ステント留置術(拡げた冠動脈にステントという金属のコイルを内側に張り付けて血管を支え再狭窄を防ぐ)やDCA(カッターで狭窄病変部位を削り取り拡げる治療法)やローターブレードというドリルのような先端を回転させて病変を削り取るなどの治療法がある。
PET	PETとは、Positron Emission Tomography(ポジトロン・エミッション・トモグラフィ)の略で、PET検査とは、陽電子(ポジトロン)を放出する放射性核種(ポジトロン核種)で標識した薬剤を静脈から注射して、細胞の活動状態を画像化する診断技術である。 がん等の診断、治療効果・治療後の経過観察に有用な最先端の検査法で、同様にがんの早期発見にも有用である。

用語（50音順）	解 説
P I C U	P I C Uとは、Pediatric Intensive Care Unitの略で、小児集中治療室と呼ばれ、専属の専門医が配置され独立病棟として24時間小児重症患者を受け入れている。
P S W	P S Wとは、Psychiatric Social Workerの略で、精神保健福祉士と言い、社会福祉学を学問的基盤として、精神障害者の抱える生活問題や社会的問題の解決のための援助や、社会参加に向けての支援活動を通じて、患者を支援していく専門家のこと。
S P D	S P Dとは、Supply Processing Distributionの略で、物品・物流の包括的管理業務のことを指す。物品の発注、検収、入庫、払出、搬送、格納、出庫、在庫確認、棚卸を一元管理すること。
T A V I	T A V Iとは、Transcatheter Aortic Valve Implantationの略で、「経カテーテル大動脈弁留置術」と訳されます。T A V Iは、胸を開かずに、心臓が動いている状態で、カテーテルを用いて人工弁を患者の心臓に装着する治療法である。
葵カード	連携安心カードともいい、病院から診療所に紹介する際に、病状悪化等で入院が必要になった場合に、葵カードを提示すれば県立総合病院が必ず対応するので安心してください、という意味で患者に渡すカードのこと。静岡市では、医師会と各病院が、病院の医師と診療所の医師の両方が役割分担して連携して患者を診る仕組みを運用している。
医療観察制度	心神喪失又は心神耗弱の状態で大変な他害行為を行った人を対象として、国の責任による手厚い専門的な医療と、退院後の継続的な医療を確保するための仕組み等によって、その円滑な社会復帰を促進することを目的とした制度であり、こころの医療センターにおいては、平成21年3月24日付で指定入院医療機関指定書（東海北陸厚生局長指定、第0004号）により指定入院医療機関として指定された。
医療秘書（医師事務作業補助者）	クラークとも言われ、病院勤務医の負担軽減を図るため、医師の事務作業を補助する職員のこと。 医師の指示の下、診断書の記事作成補助、診療記録への代行人力、医療の質の向上に資する事務作業（診療に関するデータ整理、院内がん登録等の統計・調査、医師の教育や臨床研修のカンファレンスのための準備作業等）並びに行政上の業務（救急医療情報システムへの入力等）への対応を行う。
看護師修学資金制度	当機構への就職を希望する看護学生に対して、資質の向上に資することを目的に修学資金を貸与する制度のこと。なお、当機構に看護師として就職した期間に相当する額の返還が免除される。 また、既に静岡県外の病院等から貸与を受けている同種の修学資金に対して、借り換えをするための資金（返還資金）を貸与するメニューも用意している。
緩和ケア	主に治癒を目的とする治療ではなく、全人的なケアで、痛み、その他の症状コントロール、心理面、社会面、精神面のケアを行うもの。
がんセンターボード	がんの症例について、手術・化学療法・放射線治療・緩和医療、画像診断、病理診断等、院内のがん診療・診断に携わる医師をはじめ、看護師、薬剤師等関連する専門職が、診療科や職種の垣根を越えて一堂に集まって、さらに連携する地域の医療者（医師会の医師、看護師、薬剤師、訪問看護師、介護関係職等）にも参加してもらい、それぞれの専門的な知識・技能を集約して、がん患者の症状・状態や治療法・治療方針等の情報を共有して意見交換し、最適な治療方針を協議・決定する場のことを言う。
クリニカルパス	クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査に対して、標準化された患者様のスケジュールを表にまとめたもので、1つの治療や検査ごとに1つずつ作られている。 クリニカルパスには、病院用、患者様用と2つ準備されており、患者用クリニカルパスには、「入院診療計画書」として、患者が入院してからの食事や処置、検査・治療、そのための準備、退院後の説明等が日ごとに詳しく説明されている。

用語（50音順）	解 説
クロザピン	クロザピンは抗精神病薬で、H21.4月に製造承認され、7月より発売開始となった。クロザピンの使用にあたっては、高い治療効果の反面、重篤な副作用（白血球の減少）が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられている。
固定チームナーシング	入院患者への看護は、24時間体制で求められている。しかし、看護師ひとりでは、対応しきれないため、「看護提供方式」を活用して24時間の看護を提供している。「固定チームナーシング」は、いくつかある看護提供方式の内のひとつの方式のこと。 1年間固定したチームメンバーで活動することを原則に、チームで患者の看護を行う方式である。固定チームの受け持ち患者を分担して受け持ち、入院から退院まで24時間チームメンバーにより看護が展開される。看護師メンバーが固定されることで、継続的な看護が提供される。
コーディング	疾病や手術、検査などをコード化する仕事。 最近、病院では診療情報を活用するために、あるいはDPCやがん登録などの国の制度の義務付けにより、標準化されたコードへのコーディングとそのシステムへの登録が必要となり、そのためコーディングする人の需要が、増えている。正しいコーディングのためには、コード体系の知識とともに医学知識やカルテを読み解く能力が要求される。 疾病のコーディング：膝の関節炎⇒M13.96（Mは骨・筋肉などを示す。13は関節炎を示す。9は詳細不明を示す。6は膝を示す）
コメディカル	薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士などの、医師・看護師以外の医療従事者の総称のこと。
ジェネリック医薬品（後発医薬品）	特許権が消滅した医薬品について、特許権者ではなかった医薬品製造メーカーがその特許権の内容を利用して製造した医薬品のこと。
紹介率・逆紹介率	<ul style="list-style-type: none"> 紹介率とは、初診患者のうち、他の医療機関から紹介状により紹介された患者の数が占める割合のことである。 紹介率＝（初診患者のうち紹介患者数）÷初診患者数×100 逆紹介率とは、地域医療支援病院の全患者のうちから他の医療機関に紹介した者で、診療情報提供料を算定したもの数（同一人に複数回又は複数紹介先算定の場合あり）と、初診患者の総数との比較のことである。 逆紹介率＝逆紹介患者数÷初診患者数×100
初期臨床研修医 後期臨床研修医	免許取得の後に、臨床研修の名で上級医の指導の下に臨床経験を積む卒後教育が制度化された。病院独自に「前期・後期研修医」の名称を使用することがあるが、研修医（広義、1-5年目程度）＝研修医（狭義、=前期研修医、1-2年目）＋後期研修医（3-5年目程度）としていることが一般的である。 一般に「研修医」の語を使う場合、「前期研修医」を指す。後期研修医とほぼ同義の語として、専修医、修練医、などがあるが、各々の病院独自のものである。
新専門医制度	新専門医制度とは、平成29年度以降に専門研修を開始する医師を主な対象として開始を予定していた制度で、今まで各学会が独自に定めた基準により認定をしていた専門医資格を、中立的第三者機関である日本専門医機構が統一的に専門研修プログラムの審査・承認を行い、承認を受けたプログラムに基づいて専門研修施設群がカリキュラムの修了を判定。その判定をもとに日本専門医機構が専門医の認定を行うものとされていたものである。 ただし、医師の地域偏在への懸念が解消されなかったことから1年の延期が決定された。
心理教育・家族教室	心理教育とは、精神障害やエイズなど受容しにくい問題を持つ人たちに、病気に関する必要な基礎知識を提供するとともに、療養生活を営む自信と地域で暮らしていく力量を身につけ、医療機関で提供される各種リハビリテーションプログラムや、地域の援助プログラムを主体的に利用することを促すことによって、医療機関における治療や援助から、精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行う支援法のこと。 患者の家族だけを対象に行う支援を家族教室と言う。

用語（50音順）	解 説
心理・社会的治療	精神科における薬物療法と電気けいれん療法以外の心理療法的プログラムの総称で、多職種チーム医療が原則である。 デイケア、作業療法、認知行動療法、心理教育・家族教室、ACTなどの各種治療法を含む。
診療情報管理士	診療情報管理士とは、四病院団体協議会（日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会）および医療研修推進財団が資格付与する民間資格のこと。 主な業務内容として、診療録の物理的な管理や内容の精査を行う「物の管理」、診療情報をコーディングするなどしてデータベースを構築する「情報の管理」、構築されたデータベースから必要な情報を抽出・加工・分析する「情報の活用」がある。
ダ・ヴィンチ	3D画像を確認しながら、離れた場所からロボットアームを操作して内視鏡下手術を行うもので、皮膚切開を最小限にすることで、患者の負担をできるだけ抑えることが可能（術中の出血量が少ない、術後の疼痛が少ない）。
地域医療支援病院	1997年（平成9年）4月の医療法の第3次改正で制度化された医療機関の機能別区分のひとつ。 目的としては、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割分担と連携を目的に創設された。都道府県知事によって承認される。 （承認要件） ・病院の規模は原則として病床数が200床以上の病院であること。 ・紹介率及び逆紹介率が基準を満たしていること。 ・他の医療機関に対して高額な医療機器や病床を提供し共同利用すること。 ・地域の医療従事者の向上のための生涯教育等の研修を実施していること。 ・救急医療を提供する能力を有すること。
地域連携クリニカルパス	病院の医師と診療所の医師、疾患によってはリハビリ施設など地域の医療提供施設が役割分担して連携して患者を診る仕組みの中で、疾患別に、以降の診療予定をスケジュール表の形式で表わしたもの。患者は診療所にいつ受診し、病院にいつ受診し、あるいはリハビリ施設にいつ受診し、どういう治療を受けるのかが分かり、医療施設は患者の診療の進捗管理をし、施設間で情報を共有するために使われる。診療報酬点数表上では、疾患に限られているが、「地域連携計画書」といい、計画管理料や退院時指導料等が算定できる。
ドクターカー	平成20年4月25日に道路交通法施行令の一部が改正され緊急自動車の指定対象に追加された乗用車型のドクターカー（患者搬送のための特別な構造又は装置を有しない医師派遣用自動車）。静岡市消防局の要請により「ドクターカー」に当院の救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行したり、搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始する。
認知行動療法	認知行動療法とは、人間の気分や行動が認知のあり方（ものの考え方や受け取り方）の影響を受けることから認知の偏りを修正し、問題解決を手助けすることによって精神疾患を治療することを目的とした精神療法であり、2010年から、一部保険点数化がされた。
認定看護師	認定看護師とは、日本看護協会及び日本精神科看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う者をいう。
ハイブリッド手術室	据置型血管撮影装置（アンギオ）を設置した手術室であり、カテーテル血管内治療と外科的手術の双方に対応が可能。 ・合併症などの緊急時の対応が可能。（カテーテル治療から外科的手術への移行） ・手術のみでは到達困難な部位に対する治療が可能。 ・カテーテルのみでは治療できない緊急時の病変に対しても外科的手術を同時に行うことで対応が可能。 ・鮮明な透視画像により治療精度が向上
レジデント	初期臨床研修医はジュニアレジデント、初期レジデント、スーパーローテーターなどと呼ばれ、それ以降に専門科での研修を行うものを単にレジデントと呼んだり、後期研修医、後期レジデント、シニアレジデント、専攻医などと呼ばれている。